熊本大学医学部バドミントン部
創立50周年記念誌

THE FIFTIETH
ANNIVERSARY
OF
BADMINTON CLUB
MEDICAL SCHOOL
OF
KUMAMOTO UNIVERSITY



熊本大学医学部バドミントン部

平成20年（2008）

熊本大学医学部バドミントン部
創立50周年記念誌



目次

はじめに　思い出のアルバム

創立50周年にあたって…… 1

第１部　熊本大学医学部バドミントン部のあゆみ

１．歴　史　（年　表）…… 5

２．創立のころ（友成　久雄　著　「ハマクリナムの花」より）…… 7

３．二塚先生のころ…… 9

４．野村茂先生を囲む会……10

第２部　熊本大学医学部バドミントン部　創立50周年記念祝賀会

出席者一覧……13

あいさつ……20

祝　辞　その他……24

第３部　創立50周年に寄せて　――　ＯＢ／ＯＧの部

１．昭和30年代～40年代……33

２．昭和50年代～60年代……45

３．平成の時代……55

第４部　バドミントンと私　――　現役部員の部

１．平成20年度　１年生～６年生……67

２．歴代主将（平成17年度～平成19年度）……73

第５部　熊本大学医学部バドミントン部の戦績

九州山口地区医科学生体育大会、西日本医科学生総合体育大会

全日本医科学生体育大会（開催された年のみ）　の記録 ……79

第６部　医学部バドミントン部ＯＢ／ＯＧ会『杏羽会』について

１．『杏羽会』会則……143

２．『杏羽会』会員名簿……144

３．現役部員名簿　（平成20年度）……152

編集後記 ……153

思い出のアルバム



昭和45年　西医体　岡山



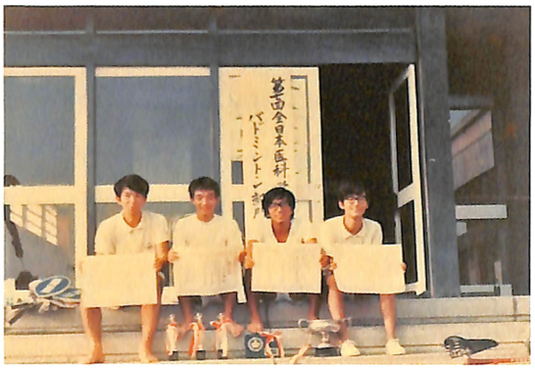
昭和45年　西医体　岡山



昭和46年　西医体　京都



昭和45年　西医体　岡山



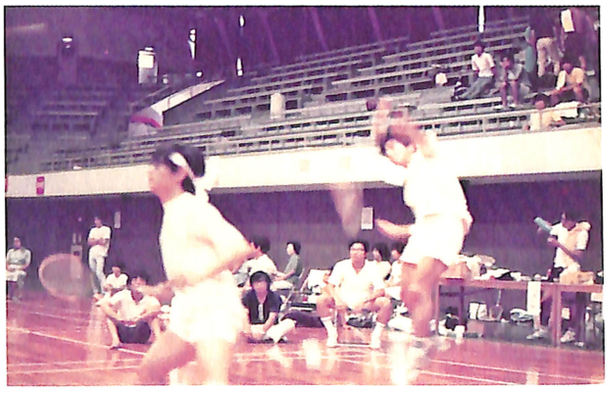
昭和48年　全医体　松本



昭和47年　西医体　長崎



昭和48年　西医体・全医体　報告会



吉永　　濱田



昭和50年　西医体　岡山



昭和50年　西医体報告会にて



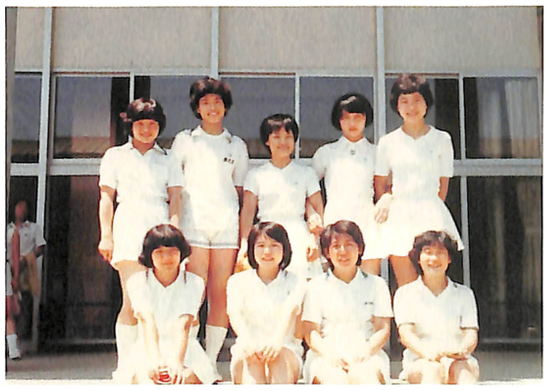
昭和50年ごろ　立田山ダッシュ



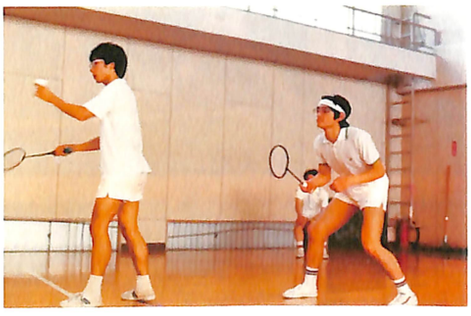


昭和53年
九山医体
福岡

山本（神川）　片渕（岡）



昭和53年　西医体　鈴鹿での女子選手
（岡山、金沢、岐阜、三重、熊本）



魚住　　瀬戸



昭和55年頃のメンバー



西医体報告会にて　瀬戸



平成13年　西医体　女子単優勝



平成14年　九山医体　女子複優勝



平成13年頃　宮川先生還暦お祝い（中央の赤）











平成14年頃のメンバー



ごあいさつ

創立50周年にあたって



第1代部長　野村　茂
（熊本大学医学部名誉教授）

私が熊大の教室に着任したのは1960年で、たしか61年にバドミントン部の部長に誘われたので、今からだと48年前のことになります。したがって、50年前の発足の頃の情況は直接には知らないのですが、その当時の古い部員から、私が熊大に在職した27年間、すなわち、1987年までの部員の誰彼については名簿で姓名をみながら今でもあれこれを思いだしたりしています。とくに、1960年代は戦績もよく、それらの諸君とともに遠征でも楽しい思いをした記憶があります。

年月のたつのは早いもので、私が熊大を退いて、この茅ヶ崎に移ってもう20年余になり、バドミントン部OBの諸君に会うことも少ないので、このたびの50周年記念祝賀会には出席できればと思いはするものの、米寿を迎えんとするいま、病気療養中で旅行もできないので、とても残念です。そのようなわけで、いまはるか遠い、この湘南の地から、部員諸君、OB諸君の壮健とバドミントン部のさらなる発展を祈っております。



第2代部長　二塚　信
（九州看護福祉大学学長）

私が初代の野村先生から部長のバトンをひきついだのは1987年で、恩師野村先生の後継として公衆衛生学教授に着任したときです。私は学生時代バドミントン部で活動していたので、OB部長ということになります。

最も印象に残るのは、部員が減少したなかでの、本田雅博君の孤軍奮闘振りです。1960年代から70年代の黄金時代を経て、いわば縮小のサイクルのなかに陥った状況でした。部自体の存立が危うい状況で、入部してくる部員を獲得することは至難のことでした。当時のコンパには現役の本田君を5～6名のOBが囲んで激励するという状況でした。そのなかで男子では赤坂君、女子は野中（旧姓）さんを中心に部員が次第に増加し、輝かしいバドミントン部の伝統を継承することができたのでした。

併せて、OBの宮川洸平君が病院の患者さんのための運動施設（体育館）をわが部の練習のために開放して下さったことも忘れることができません。このようにして、次第に現在の隆盛を迎えるに至ったのです。

私が定年退職の2005年、記念講演会にOBの松本孝一君を始め、20名余の現役部員に参加して頂き、花束を頂いたときの感動は忘れることができません。

わがバドミントン部が素晴らしい気風と輝かしい伝統のもとに、益々発展することを祈念してやみません。

熊本大学医学部バドミントン部主将

3年　楢原哲史

私は高校生からバドミントンを始め、現在6年目となりました。高校生の頃は同学年に経験者が多く、幹部として部の運営に関わることがなかったため与えられたメニューをこなすだけでした。しかし、この度大学ではキャプテンを務めさせていただくこととなり、まだまだ未熟な点が多く残っておりますがOBの先生方、先輩、後輩の皆さんに助けていただきながら頑張っております。また、私は通常の練習だけでなく、火曜・木曜のOBの先生方の練習や、黒髪の本学バドミントン部の練習にも参加させていただき、バドミントンが生活の一部のような日々を過ごしております。

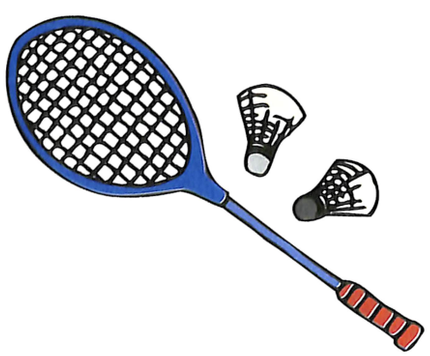
部員の皆さんは授業や実習で忙しいにもかかわらず、正規練にたくさん参加し、幹部で決めた練習メニューについてきていただき感謝しています。これから先の大会で熊本大学医学部バドミントン部がよりよい結果を残せるよう全力を尽くして頑張りたいと思います。

熊本大学医学部バドミントン部　女子主将

3年　春田佳代子

創部50周年という節目の年に女子キャプテンを務めさせていただくことを大変光栄に思っています。私は小学校・中学校とバドミントン部に所属していました。高校で一度バドミントンから離れたのですが、現在、再びこのスポーツを続けられるのは、バドミントンという競技の面白さと“熊本大学医学部バドミントン部”という素晴らしい先輩方やかわいい後輩達のいる居心地の良い場所の両方があるからだと思っています。

私の大学に入ってからの思い出はバドミントン部に入ったからこそ作ることの出来たものばかりです。たとえば、試合の初出場や初勝利といった嬉しい思い出、飲み会やキャンプといった楽しい思い出、試合で負けた時や怪我で練習が出来なかった時の悔しい思い出。これからもっと増えていくであろうたくさんの思い出を多くの部員と共有し、そして先輩方の築いてこられた“入ってよかった”と思える部の雰囲気を受け継いでゆくことが私の女子キャプテンとして志すところです。少しでも多く部に貢献できるように、また、プレーヤーとして試合で一勝でも、一点でも多く取れるように、日々の練習を頑張っていきたいと思います。



第１部

熊本大学医学部バドミントン部のあゆみ

1．熊本大学医学部バドミントン部の歴史

年度	西暦	できごと（部の状況と西医体を中心に）
昭和33	1958	医学部体育部会バドミントン部の発足（昭和32年に同好会結成）　西医体初出場
34	1959	第１回九州大会、西医体女子初出場、西医体男子ダブルスベスト８
35	1960	熊本大学体育会バドミントン部創設
36	1961	西医体男子団体３位、個人男子単２位
37	1962	第１回九山大会、西医体熊本大会・菊池市で開催（第14回） 西医体男子団体初優勝・女子団体３位、個人男子単優勝・女子単複３位
38	1963	西医体男女団体優勝、個人戦男女全種目優勝
39	1964	西医体男女団体優勝、個人男子複・女子単複優勝、個人男子単２位
40	1965	九山医体熊本大会、西医体男子団体優勝、個人男子単優勝・複２位
41	1966	西医体男子ベスト４
42	1967	
43	1968	西医体男子団体ベスト４、女子団体３位
44	1969	西医体男子団体２位・女子団体３位、個人男子単３位・女子単複３位
45	1970	西医体男子団体ベスト４・女子団体３位
46	1971	西医体男子団体ベスト４・女子団体２位、個人男子複優勝・女子単複３位
47	1972	西医体女子団体２位、個人男子単優勝・複２位・女子単複３位 全医体男子単優勝・複２位
48	1973	西医体男女団体２位、個人男子複優勝・女子複２位・単ベスト４ 全医体男子団体優勝、個人男子単複優勝
49	1974	西医体個人男子単複優勝・女子複２位・単ベスト４
50	1975	西医体男子団体優勝、個人男子単複優勝・女子単３位
51	1976	西医体男子団体優勝、個人男子単複優勝・女子単優勝・複２位
52	1977	九山医体熊本大会、西医体男子団体２位・女子優勝、個人男女全種目優勝
53	1978	西医体女子団体優勝、個人男子単優勝・女子単複優勝、全医体女子団体優勝
54	1979	西医体個人男子単優勝
55	1980	西医体男子団体３位、個人男子単複優勝
56	1981	
57	1982	西医体熊本大会、個人男子単ベスト４
58	1983	女子部員ゼロになる

年度	西暦	できごと（部の状況と西医体を中心に）
昭和59	1984	西医体男子団体２位、個人男子単２位
60	1985	西医体男子団体優勝、個人複優勝・単２位、全医体男子団体優勝
61	1986	西医体男子団体優勝
62	1987	西医体男子団体２位、個人男子複優勝・単ベスト４
63	1988	西医体個人男子単優勝・複３位
平成１	1989	西医体個人男子複優勝・単２位
2	1990	部員１名となり「医学部バドミントン部」が独立する
3	1991	新入生部員（男子・女子）獲得する
4	1992	
5	1993	
6	1994	
7	1995	
8	1996	
9	1997	九山医体熊本大会
10	1998	
11	1999	西医体男子団体ベスト８
12	2000	
13	2001	西医体個人女子単優勝
14	2002	
15	2003	西医体女子団体ベスト８
16	2004	西医体女子団体ベスト８、個人女子単３位
17	2005	九山医体熊本大会、西医体女子団体２位、個人女子複２位
18	2006	西医体女子団体２位、個人女子複３位
19	2007	西医体女子団体３位、個人女子複優勝
20	2008	西医体男子団体ベスト８ 西医体第60回大会、医学部バドミントン部創立50周年

2．創立のころ

バドミントンの想い出

『ハマクリナムの花　～精神科医のエッセイ～　　友成　久雄　著　　新風舎』より

バドミントンが巷に流行し始めたのは昭和31年の秋頃であった。翌年の学年末に医学部１年次で最難関の解剖学の試験があることになっており、私はそれを終えて帰省する春休みに、バドミントンの道具一セットを買ってくるように都城市の妹たちから頼まれていた。私はその頃まだ熊本城内にあった寮に入っていたが、ラケットと羽を少し早く購入したのが後にバドミントンに熱中するきっかけになった。昼休みなどに馬術部の練習場になっていた寮の前の広場で同級生とやってみた。羽根つきぐらいに思っていたのが意外に面白く、長丁場の試験勉強のいい息抜きにもなった。



解剖学の試験も無事に終って、２年次になると間もなくバドミントンの同好会をつくった。１年下のクラスに香港からの留学生でゲンさんとリュウさんという人たちがおり、どちらもバドミントンが上手なことがわかったからである。二人が私たちの手本になり、当分の目標でもあった。とくに強い興味を示し、熱心になったのは２年下の秋月君だった。彼と私は毎日のように練習したが、彼も同じ寮にいたから、毎夜私が家庭教師のアルバイトから帰るのを待って、私の部屋に来てはバドミントンのことを語り合った。後から思えば、ゴルフの覚え始めの頃と同じように、ラケットのグリップや振り方なども「ああだ、こうだ」と実演しながら論じていた。それが寝る前の楽しみだった。１年後には二人が主力選手となるのであった。

当時基礎医学の教室は城内にあり、バドミントンの練習場も同じく旧兵舎だった大講堂で、コートが辛うじてとれる広さだった。医学部附属の看護学校の寮も城内にあって、そちらに愛好者がいることがわかり、練習もコンパも合同ですることになった。

昭和31年千葉大から熊大医学部に入学した私は、最初卓球部に籍を置いた。すでにレベルの高い部員が多く、医学部進学課程の２年間寮で遊び程度にやっただけの私は我流が直らず、上達も思わしくなかった。学部２年の時運よく西日本医学部体育大会（西医体）に出られたものの、それを最後にバドミントンに専念することになった。こちらのほうが女性も混じって少し華やかな雰囲気もあり、卓球部と違って楽しかった。

その頃、熊本でバドミントンをやっていたのは熊本女子大と熊本商大ぐらいだったと思う。どちらもかなりのレベルにあったようである。というのも、女子大にテニスから転向して、全国大会の壮年の部で連続優勝を続けていた伊藤先生という人がいて、商大のクラブもその指導を受けていたのだった。

同好会を作った年の夏休みに、電話局のアルバイトで商大バドミントン部のマネージャーをしていた富田さんという人と一緒になった。この人が我々の同好会に親近感と好意をもってくれ、城内の練習場まで

何度か来て基本を教えてくれた。その後彼が秋月君と私の二人を商大の体育館に呼んでくれたことがあった。そこで商大生の模範練習を見学したのだが、さらに、かの伊藤先生にも相手をしていただいた。技量はもちろんのこと、パワーの違いに驚いたものである。その時端の方で練習していたずぬけた長身の高校生が松本君で、彼は後に部の黄金時代を築く主力選手になるのだった。

私たちのいい相手は熊本営林局のクラブだった。その中に、私が鹿児島県の鹿屋市にいた頃、父同士が営林署で同僚だったという青年がいて、思いがけない出会いだった。彼らは専用の練習場を持っていなかったから、私達の講堂にやって来て、よく練習試合をしたものである。

同好会も1年後には正式のクラブとして認められ、西医体にも出場するようになった。当時の西医体は秋に行われていたので、卒業試験を間近にひかえた4年次の学生はどの部でもほとんど出場しなかった。しかし、私は1回の参加ではあきらめきれず、不安を感じながらも練習を続けて大阪の大会に出場した。団体はこの年も1回戦で敗退したが、秋月君と組んだ個人戦のダブルスではベスト8に残った。これが人に話せる私の唯一の戦績である。ところが私が卒業した35年にかの松本君が入学すると、4年連続の団体優勝を遂げ、とくに38年には男女とも団体戦および個人戦　単・複6種目の完全優勝という不滅の記録をつくったのである。



私はインターン時に福岡県体に飯塚市の代表で出場したのを最後に、バドミントンをやる機会には恵まれなかった。代わりに再び出会ったのは思いがけず卓球であった。私はインターンの時精神病院でアルバイトをし、その後も1年間勤務した。当時はすべて閉鎖病棟だったが、そこに卓球台だけは置かれており、患者のほとんどは唯一のレクリエーションになっていた。卓球はまた、職員の間でももっとも盛んなスポーツで、病院対抗の試合なども行われていた。私はまた卓球の選手に戻ってしまった。1年遅れて大学の精神科に入局したところ、思いがけず卓球部の出身者が数人もいるではないか。こうして時々やる卓球はクラブ活動とは違って結構楽しく、その後長く親しむことになるのだった。

こういう私とは対照的に、松本君は卒業後も一筋にバドミントンを続け、学生の練習や合宿にまで参加する熱心さである。そして医学部、全学両方のOB会の中心となり、現役部員の活動を何かとバックアップしている。地元で開業しているとはいえ、これほど長く情熱を持続させている彼には感心するばかりである。

いつしか長い歳月が過ぎ、学生時代もはるか遠くなったが、もっとも強い印象に残っているのはバドミントンのことである。私はそれに出会って初めてスポーツの喜びと楽しさを知った。わずか2年半の間だったが、私は青春の情熱とエネルギーを存分に燃やすことができた。元来ひ弱な身体だったけれども、その期間は心身ともに快調で、疲れを知らないほどだった。ともあれ、私はバドミントンのおかげでスポーツが好きになり、それはその後の酒や社交の苦手な私の最良のストレス解消法にもなるのだった。

（平成8年1月）

3．二塚先生のころ

二塚信教授の思い出

『二塚　信教授退職記念誌』より　　熊本大学医学部バドミントン部後輩　　松本　孝一

二塚信先生は、私にとり小学校・中学校・大学の２年先輩であると共に、熊本大学医学部バドミントン部の先輩でもあります。私達が学生時代だった昭和35年から41年の、二塚先生の恩師である野村茂名誉教授が部長でした。二塚先生は野村先生が定年退官された後、今日まで医学部バドミントン部長を永年にわたり務めて頂きました。先生は野村先生と同じ公衆衛生の教授であり、しかもバドミントン部出身の部長ということで、その後の部の運営等もスムーズでありました。二塚先生本当に有難うございました。

先生はとても誠実温厚な方で、何事にも真剣に取り組んでおられました。バドミントンを通しての先生の思い出は、何といっても昭和37年菊池で開催された西日本医科学生体育大会です。男子チームは上村邦紀・布田龍一・前田利為・宮川洸平・吉田仁爾それに私の同期３年生メンバーで、西医体男子団体戦初優勝を遂げました。女子チームも河北陽子（現姓　原）・水野祥子（現姓　清田）を中心に上位入賞を果たしました。これも当時最上級だった秋月孝行先輩始め、谷口正信・吉田忍・二塚信・早川朋也・奥村恭久の諸先輩が裏方に徹されて、大会運営一切をやっていただき、私達はコートでの練習に打ち込むことができたお陰です。男子チームはその後団体戦４連勝を飾り、我々昭和41年卒業生にとり青春時代の楽しい思い出となってます。

現役の時は、初優勝したことで有頂天になり、諸先輩が黙々と参加大学との連絡、宿泊交通機関の手配、大会運営等を引き受けられ、私達は何のお手伝いもしなかったことについてはまったく思いいたりませんでした。昭和41年卒業して、初めて如何に現役時代先輩にお世話になっていたかをしみじみと感じた次第です。

先輩に大変お世話になったもうひとつのエピソードがあります。昭和41年秋私は大分国体に一般男子の選手として出場しました。１回戦で負けました。その夜10時過ぎに当時県立延岡病院外科に勤務しておられた二塚先生の一年後輩の奥村恭久先生を訪ねました。すでに寝ておられた奥村先生は予告なしで訪問した私を快く歓迎されました。町に出て、寿司をご馳走になりました。さらに寮ではひとつしかない布団に私を寝かせて、ご本人は床にそのまま寝られたのです。そのとき私は先輩とは本当にありがたいものだと感激しました。その奥村先生も今年３月で国立病院機構都城病院院長を定年退職されます。

せめて先輩達にお世話になったそのお返しをしたいと、現在、熊本大学医学部バドミントン部の現役部員諸君や熊本県バドミントン協会のお世話をさせていただいています。

先生の教授室には、わがバドミントン部の過去の栄光の優勝トロフィー・楯・表彰状が飾ってあります。今回の定年退官にあたり、しばらくは私たちの同級生である宮川洸平先生の熊本精神病院院長室でトロフィー等は預かってもらうことになりました。飾り棚には若干の余裕があります。後輩達に頑張ってもらって是非また新たな優勝トロフィーを入れて欲しいと願ってます。

先生にはご定年後、玉名市にある九州看護福祉大学学長に就任されます。幸い玉名郡市医師会長は私達と同級生でバドミントン仲間の前田利為先生です。前田先生は九州看護福祉大学の理事も兼任しております。先生のこれまでのご経歴を生かして、新天地でも益々のご活躍されますことを祈念申し上げまして、二塚先生の思い出といたします。

4．野村茂先生を囲む会

日時　　平成16年11月６日　　場所　　ホテル日航熊本

『平成16年度　全国医師会勤務医部会連絡協議会　特別講演』　のあとで



講演の様子



野村茂先生



出席者（敬称略）

写真前列　：　上村　邦紀　　二塚　　信　　野村　　茂　　清田　祥子　　松本　孝一

写真後列　：　本田　雅博　　水本　圭彦　　魚住　秀昭　　濱田　泰之　　宮川　洸平

（左より）　　吉田　仁爾　　布田　龍佑　　萩原　裕美　　出口　秀治

第２部

熊本大学医学部バドミントン部
創立50周年記念祝賀会

と　き　平成20年９月27日（土）
ところ　全日空ホテル・ニュースカイ





熊本大学医学部　バドミントン部　創立50周年記念祝賀会　　平成20年９月27日　於　熊本全日空ホテルニュースカイ

50周年記念祝賀会にて



テーブルA



テーブルB



テーブルC



テーブルD



テーブルE



テーブルF



テーブルG



テーブルH



テーブルＩ



テーブルＪ



テーブルＫ



熊本大学バドミントン部幹部



祝賀会を終えて



宮川先生



上村先生



二塚先生



柳田先生



秋月先生



吉田先生


前田先生


奥村先生


原　先生


清田先生


野川先生


吉村先生


小山先生


石坂先生


松元先生


神本先生


後藤先生



竹口先生


柴田先生


興津先生


瀬戸先生


魚住先生


山崎先生


小山田先生


後藤先生


吹上先生


安部先生


本田先生


赤坂先生


西　先生


須賀原先生


岡村先生


福岡先生


今西先生


伊達先生


尾崎先生


高城先生


田中先生


齋藤先生


萩原先生


横尾先生


出口先生









二次会にて



50周年記念事業
実行委員会

出席の方々（敬称略）

来賓	富田　浩	野川　　勉	波柴　忠利	波柴　富美子
	大野　穣	坂本　康尚	金子　澄子	西岡　弘一
	安武　博英	工士　恭司	吉田　裕伸	松本　孝嗣
OB／OG	友成　久雄	柳田　喜美子	秋月　孝行	二塚　信
	奥村　恭久	原　　陽子	上村　邦紀	清田　祥子
	布田　龍佑	前田　利為	松本　孝一	宮川　洸平
	吉田　仁爾	石坂　信子	小山　浩徳	松元　寛仁
	後藤　倶子	吉村　力也	神本　裕喜子	竹口　東一郎
	吉永　健	柴田　三郎	片渕　美和子	（中村　敏光）
	魚住　秀昭	瀬戸　　弘	興津　貴則	小山田　直朗
	山崎　洋二	後藤　良三	吹上　忠佑	永瀬　浩喜
	安部　利彦	鷺島　克之	本田　雅博	赤坂　威史
	西　　智広	岡村　直樹	福岡　博文	須賀原　一昭
	今西　彩	尾崎　貴士	伊達　泰彦	田中　章子
	出口　秀治	齊藤　宏和	高城　克暢	横尾　絵梨
	萩原　裕美			
現役部員	石井　正将	伊良波　諭	岩崎　肇	上原　朋子
	江頭　翔	舘野　丈太郎	谷口　理丈	中田　志穂
	柚留木　秀人	亀田　和花子	桑原　千恵	原　　崇史
	上野　満徳	川本　めぐみ	近藤　大祐	寺本　周平
	横田　康宏	坂田　憲亮	田中　憲一朗	楢原　哲史
	原　　万理恵	春田　佳代子	古家　圭士郎	前田　顕子
	朝倉　寿久	今泉　裕貴	坂田　悦郎	平松　晶子
	森永　真矢	山田　敏寛	石黒　久恵	白浜　裕一郎
	都　　剛太朗	津田　浩平	松田　朋子	松本　卓士
		（全学）	（全学）	（全学）



波柴先生ご夫妻と松本先生



近藤　　須賀原　　古家

開会の辞



昭和53年卒
吉永　健

司会進行をいたします昭和53年卒の吉永といいます。現在は熊本中央病院のほうにおります。本日は、予定では全部で99名おいでになられる予定です。

去年の秋に、松本先生のほうから「来年はいっちょ医学部バドミントン部50周年をやるぞ」と言われまして、そのとき眼が合ってしまったのが失敗でした。横を見ていただければよかったのですが。隣に本日欠席の濱田先生がいたのですが、あさってのほうを見ていたので、私だけが松本先生と眼が合いまして、それ以来これに携わらせていただきました。どうぞよろしくお願い申上げます。

本日は、先ほど集合写真を撮りましたが、お帰りの時には皆様方のお手元に１枚ずつ用意できると思いますので、忘れずにお持ち帰り下さい。それでは、ただ今より熊本大学医学部バドミントン部創立50周年記念祝賀会を開催いたします。最初に主催者より、昭和41年卒、新市街で外科医院をご開業なさっている松本孝一先生、よろしくお願い申し上げます。

主催者あいさつ



昭和41年卒
松本　孝一

本日はご多用の中、また遠い所から多数おいでいただき、誠にありがとうございます。この祝賀会は、熊本中央病院の副部長で呼吸器科の部長である吉永先生を中心に準備をいたしております。また記念誌の編集は高野病院の健診センター、産婦人科の片渕先生にお願いしております。本日の集合写真、スナップ写真、ご挨拶などを含め印刷して年内にお届けしたいと思っております。

このたびは十数名の来賓の方々にご出席いただき、感謝申し上げます。特に私の１学年上で岡山大学、昭和40年卒の波柴先生には奥様ともども京都からご参加いただき、嬉しい限りです。波柴先生、奥様、本当にありがとうございます。ただ今より熊本大学医学部バドミントン部創立50周年記念祝賀会を開始します。よろしくお願い申し上げます。

部長あいさつ



平成４年卒
鷺島　克之

皆様こんばんは。高いところから失礼いたします。私は現在熊本大学医学部バドミントン部の部長を務めさせていただいております鷺島でございます。部長に就任しまして４年になります。私は平成４年の卒業で、本田雅博君のもと同級生でございます。大学６年生のときにバドミントン部に入部いたしました。

輝かしい歴史を持つバドミントン部もそのときは本田君が一人ということで、非常に危機的な状況にあった様でございます。私はと言いますと医師国家試験の勉強で悶々としておりまして、別に四六時中勉強ばかりしているわけではなく、運動でもしたほうがメリハリがつくのではないかと思いまして、バドミントン部に入部いたしました。九山、西医体は自動的にレギュラーでした。戦績のほうは勘弁して下さい。幸い医師国家試験は合格しました。

４年ほど前、バドミントン部前部長の二塚先生より、部長後任のお話がありまして、非常に光栄とは思いながら、私は不適格ではないかと思いまして悩みました。しかし折角のご指名でしたので、お引き受けすることにいたしました。幸い、部長になってから部の成績は比較的好調でございまして、戦績報告会では心地のよい思いをさせていただいております。私自身は微力ではございますが、水本監督の下、部員は日々精進しているようでございます。今後ともどうぞ熊本大学医学部バドミントン部をよろしくお願いいたします。

西医体成績報告



医学部バドミントン部主将
楢原　哲史

OBの先生方、本日はお忙しい中お集まりいただき、ありがとうございます。今年度、キャプテンを務めさせていただいております楢原と申します。私のほうからてみじかではございますが、７月31日から８月２日、広島にて行われました西医体についての報告をさせていただきます。

お手元にある西医体報告会の資料にも書いてあるのですが、まず男子団体戦の結果から報告させていただきます。男子団体戦、２回戦で熊本大学は奈良県立医大と当たり３対１で勝ち、３回戦で近畿大学と当たり３対１で勝ち、４回戦で今年優勝いたしました久留米大学に３対０で負け、結果、ベスト８ということになりました。続きまして男子個人戦ですが、シングルス、３年生の田中が７回戦まで進みベスト16という結果になりました。

女子団体戦ですが、２回戦、富山大学と当たり２対１で惜しくも敗れてしまいました。続きまして女子

個人戦シングルスですが、６年生の上原が冊子では準決勝と書いてありますが、正しくは準々決勝で大分の大田さんと当たり、惜しくも２－０で敗れベスト８という結果となりました。

このような結果が得られましたのも、OBの先生方のご指導ご支援の賜物だと思います。この場をお借りして御礼申し上げます。また12月上旬、春５月には九医歯体、九山と大きな大会を控えております。私たち部員一丸となって日々精進してまいりますので、OBの先生方、ご指導ご鞭撻のほどどうぞよろしくお願い申し上げます。

ＯＢごあいさつ



昭和35年卒
友成　久雄

皆さんこんばんは。ただ今紹介されました友成でございます。熊大医学部のバドミントン部が今年50周年を迎えるということでありまして、半世紀もの歴史ができたということで、大変意義深くまた慶賀なことと思います。

私はバドミントン部の創立者ということになっているのですけれど、実際は２年下の秋月先生というよきパートナーがおりまして、最初から二人で協力して創立できたものであります。同好会からスタートしまして、部としての基礎ができるまでの間、２年ぐらいでしょうか、いろいろありましたけれども、何か苦労したとか非常にうまくいかなかったというようなことはどうも思い出されませんで、いろんな人と出会いができて、そしてそういった人とお互いに好意的な友好的な交流ができたということが、非常に快く思い出されます。詳しいことは私のエッセイ集の中にまとめておりまして、今日皆様にお配りするということでありましたので、それを見ていただければ幸いと存じます。

私の場合、バドミントンの競技はわずか２年半ぐらいしかできなかったんですけれども、バドミントンをすることで初めてスポーツの楽しさを知ることができまして、後から振り返りますと、青春の情熱とエネルギーをすべてそれに注いだというような気がいたします。卒業後はもうバドミントンをやる機会がありませんで、わずか短い間のバドミントンでしたけれども、単なる楽しい思い出ではなくて、その後の私の人生に好もしい影響を及ぼしたと思っております。

最近聞いたんですけれども、現在の現役の部員が30人以上おられるということで、私たちの頃とは全然違って非常に賑やかで、また活気に満ちた雰囲気じゃないかと想像いたします。時間とエネルギーがある間に存分に楽しんで、そしていい思い出を作っていただきたいと思います。バドミントン部が今後もなお一層発展することを祈りまして、私のご挨拶といたします。ありがとうございました。

ＯＢごあいさつ



昭和37年卒
秋月　孝行

「みわクリニック」の勤務医の秋月でございます。美和は私の娘でございます。一応身分を言わんとどこの誰かわからんだろうと思いまして・・・。

昭和33年、医学進学課程から専門課程に入学したときに、創始者の友成先生が部を創られました。それでそのときの正部員というのは私と友成先生、二人で、あとはボート部とか野球部とか或いは東南アジアの留学生とかということで、正部員が二人で他の人たちは同好会的な存在でありました。それで友成先生は苦労されなかったと言われますけれども、やはり先生は苦労されてるわけです。今日ご出席していただいております来賓の富田先生は、熊本商大のバドミントン部創設者でございます。その方のところに、私は何もわからずに友成先生に連れられて下宿のほうに行って、いろいろお話を聞いたことも覚えてますし、また医学部の講堂ですか屋根の低いところに来ていただいて、私と友成先生は技術的にも教えていただいた、というようなことで苦労はされております。

それで４月に部ができて秋には西医体があったわけですが、ご存知のようにダブルス２つにシングル３つですから、４人は人数が要るわけです。私と友成先生はまあ格好ができてるけど、あとの二人をどうするか、ということで野球部の佐藤さんという人と留学生のリュウさんという人と４人で試合に出ました。それで運が悪く、その年優勝した金沢大学に１回戦で当たりまして１対４で敗れたわけですが、その１というのはシングルスで、やはりさすがキャプテンの友成先生が１勝をしておられます。それからその翌年に、今日また出席されてます旧姓山内先生、現在柳田先生、女医さんですけれども入部してこられまして、大阪でしたかの大会に女子として初出場でございます。

前半の、私は４年在籍したわけですが、学１と学２は友成先生の関わり合いが強かったということです。それから後半、先生が卒業されてから後半の、学３、学４は今日の世話人であります松本先生との関わり合いが非常に強くて、私も頑張ったつもりでございます。そのときに二塚先生、奥村先生、今日来ておられます旧姓河北先生、今は原先生といわれるそうですが、それから上村先生、吉田先生、前田先生、布田先生、宮川先生、それから水野先生。今日出席されてる方の名前を挙げたわけですが、名前漏れがありましたらお許し下さい。そういう方とも一生懸命精進して頑張ってきました。それで４年在学中は私としましても一生懸命頑張ったと思っております。

だけど、友成先輩が熊本県から県外に出られましたこともあって、全くそれからは医学部バドミントン部には貢献しておりませんし、今日に至った次第で誠に申し訳なく思っております。それで先ほど言いましたように最初２名から出発した医学部バドミントン部が本日50周年を迎えて、かくも盛大な祝賀会が催されるということは、全く予想もしてなかったことで、嬉しい出来事と言えば嬉しい出来事だと思っております。これもみんな、私たち先輩のあとを受け継いで、頑張って努力していただいた後輩の部員の先生方の努力の賜物と、本当に敬意と感謝をしております。以上、これで挨拶終わります。

ご祝辞



熊本県バドミントン協会
副会長　　冨田　　浩

熊本大学医学部バドミントン部、創立50周年、誠におめでとうございます。先生方をはじめ、関係者の皆様には心よりお祝い申上げます。

４年くらい前になりますか、松本孝一先生より、友成久雄先生がお書きになられました「ハマクリナムの花」というエッセイ集を頂きました。その本の中に私が友成先生や秋月先生にご指導申上げた様に書かれておりますが、私も昭和30年の５月にはじめてラケットを握ったものですから、指導なんて大それた事はなかったと思います。

ただ当時の状況を少し申し上げますと、まず巻尺でコートを計り水でぬらしてチョークでラインを引き、ネットを張るのにも大変苦労致しました。又、シャトルやラケットも市内の運動店にはほとんどなく、熊本女子大の伊藤基記先生が上京される度にシャトルやラケット等の購入をお願いしておりました。今はりっぱな体育館があり、ポールを立てネットを張るだけですぐに練習なり試合を始められる時代とは雲泥の差があります。そこで私は同じシャトルを打ち合う仲間が一人でも多くなれと思い声をかけた様に思っております。

先生の本にもありました様に、当時熊本では熊本女子大（現在の県立大学）と熊本商科大学（現在の熊本学園大学）の二校でありましたので、一校でも一人でも仲間が多くなればと思っておりました。医学部に仲間ができたこと、大変なことだと思い大変よろこんだこと、思い出します。

おかげ様で現在では、バドミントン愛好者も増え、毎週どこかで大会が行われております。先週、熊本県民体育祭が玉名で行われて、県下20郡市より約600名の選手が一堂に会し、熱戦をくり広げた処であり、当時からいたしますと感無量であります。これも先生方をはじめ、関係者の皆様の一方ならぬご尽力の賜物であり、50年の歴史の成果だと思っております。

また本来ならば、本県協会の工藤勇参理事長もおじゃましてお祝い申し上げる処ではございますが、本県体育協会の副会長をおおせつかっております関係で、本日より始まりました大分国体へ参加しております。本人より、先生方はじめ関係者皆様方にくれぐれもよろしくお伝えする様に申しつかっておりますので、改めてお祝いを申し上げる次第であります。

最後になりましたが、先生方をはじめ関係各位のますますのご発展とご健勝を御祈念申し上げ、はなはだ措辞ではございますが、お祝いのごあいさつとさせていただきます。

感謝状贈呈



昭和41年卒
宮川　洸平

昭和41年卒の宮川でございます。ただ今、結構な感謝状をいただきまして、大変申し訳ないというか恐縮しております。私など卒業部員の一人でございまして、このようなところで感謝状をいただくなど、本当に恐縮するばかりです。

うちの体育館を使い始めたのは平成４年ごろと思います。今度皆さんに配られます文集の中に詳しくそのいきさつは書いておりますので、読んでいただければ、なぜ私の病院を使うようになったのか事情がわかると思いますけれども。大学６年間、それから青春時代をバドミントン一筋に過ごして本当に楽しい思いをさせていただいたものでございますけれども、少しでも先輩としてお役に立っているということを大変嬉しく思います。

本当に感謝状、ありがとうございました。ただこの体育館は私の体育館ではないんです。病院の体育館でございますので、病院のほうには私が御礼を言っておきます。本当に今日はありがとうございました。

乾　杯



昭和39年卒
二塚　　信

私は今ご紹介いただきましたように昭和39年卒業でありまして、熊大のバドミントン部の歴史からいうと、４期生になります。友成先生の４級下ということでございまして、ちょうど私が５年生のときに熊本で初めて西医体をやりまして、松本先生を中心とする昭和41年卒業の皆さん方を中心に見事、初の西医体の団体優勝を遂げるというような感激に浸ったものでございます。

その後、恩師の野村先生のあとを継ぎまして第２代の部長として17年間、今日たくさんおいでになっていらっしゃるOBの皆さん方のお支えの下に何とか曲がりなりにも部長という大役を務めてまいりました。さきほど鷺島現部長のお話がありましたように、一時は本田雅博君の孤軍奮闘というような時代もありましたけれども、今では本当に現役部員が30人を上回るという熊大の医学部の運動部の中でも一、二を争う大所帯になり、また成績も上がっているというような状況で大変おめでたいことだと、いうふうに思っております。

熊本大学医学部バドミントン部のますますの発展と、本日ご出席いただきましたご来賓をはじめ、OB、OGならびに現役の皆さん方のご活躍とご健康とご健闘を心から祈りながら乾杯したいと思います。乾杯。

来賓ごあいさつ



岡山大学昭和40年卒
波柴　忠利

皆さんこんばんは。昭和40年、岡山大学卒業の、ま、卒業と言ってもバドミントン部を卒業したようなものですけど、今、京都で内科を開業しています。

今日こんなとこになんで岡大の人が来とんのかと思われる人もおられると思いますけど、卒業最終学年のときに、熊本大学が大体全種目制覇しかけたところを、私がシングルで松本先生にやっと何とか勝たせていただきまして、それを破ることができまして、その縁で今日お付き合いいただいておりまして、松本先生直々に嫁さんと夫婦一緒でお呼びいただきまして、本当に光栄に思ってます。大変ありがとうございました。今週の土曜日は岡大の医学部のOB会があるんで、今日のこの熊本大学のこの盛会を皆さんにご報告して、発破をかけてきたいと思っております。

僕も卒業して43年ぐらいになるわけですから、6年足したら49年もう50年ぐらいになるわけですけれども、岡大医学部もこういう立派な50周年を開くことができなかったのですけれども、その点はやっぱり松本先生のそういう指導力の賜物であろうと思って、ご尊敬申し上げております。

そしてこのお盆の1週間前に、岡山大学の総合のバドミントンのOB会、同窓会がありまして、それは毎年ではなしにオリンピックの年に4年に1回、開いているんですけれども、それも今年で7回目くらいになりますけれども、それも出席してきました。いい歳をしながらこんな会に呼んでいただけるということは、僕も一生懸命、学生時代、頑張ったんではないかと思っております。以上です。ありがとうございました。



鹿児島大学昭和41年卒
野川　　勉
（旧姓　早川）

皆様こんばんは、荒尾のほうに住んでおります野川と申します。私は鹿児島大学の卒業、41年卒業です。西医体でずっと熊大のほうにほとんど負けた一人でございます。ただ6年生の時、1回だけ松本・上村組にダブルス優勝戦、勝ちました。それは今まで熊大のほうに合宿させてもらってたんです、夏休みに。だから土俵を借りて恩返しをしたと思っております。それ以来、私は卒業後、熊大の整形外科に入りまして、41（よんいち）の仲間と遊んでもらっております。いろいろ付き合いをいただいております。

今、荒尾のほうでバドミントン協会をしておりまして、かなり県体でも勝つようになっております。ま、ベスト4に入るようになってます。私も50代からずっと県体で出ております。一応、大体しばらく六千勝

くらいしておりましたけど、それから途絶えておりますけど、まだバドミントン少ししたいと思っております。同年代がおるからやれると思っております。今日はどうもおめでとうございます。



熊本大学昭和42年卒
大野　穣

皆さんこんばんは。昭和42年の熊大の法文学部卒業です。ですから先ほど話がありましたように、医学部ができまして全学が２年遅れでできましたので、私はちょうど全学の創設時代のバドミントン部に在籍してた者ということで、当時は医学部のほうが皆さん非常に強くて、全学はちょっと混じっているというような感じでしたけども。その中でもこういう形で医学部を中心に熊大のバドミントン部が綿々と続いているというのを、非常に嬉しく思っています。

今日は医学部の50周年ですけども、あと２年後には全学のほうの50周年を開催したいと思ってますので、その時にはここにおいでの皆さんは是非また２年後にご参集いただければと思ってます。

私は現在、福岡のほうの大宰府に居りまして、今日は松本先輩のほうから「お前、是非出て来い」ということで、ずっと50年間、松本さんの命令には必ず従うようにしてますので、今日も出て来ましたけども。また今後ともよろしくお願いします。



熊本大学昭和46年卒
坂本　康尚

皆さんこんばんは。46年やはり法文学部卒業の坂本です。今の大野先輩と一緒で、松本先生に対しては私もいろいろありまして、YES しか言えませんので、地元に残りまして、地元で主将した関係で、学生とのつなぎとか色んな方のお世話をさせていただいております。本当に今日はおめでとうございました。



熊本商科大学昭和41年卒

西岡　弘一

皆さんこんばんは。商大の41年卒業の西岡と申します。今、名簿を見てみますと、医学部41年卒は７名ほどいらっしゃいますね。よく定期戦も含めて、大学では熊大と商大しかありませんでしたのでよく戦っていましたけど、考えてみると大学に入って始めてやっと３年生ぐらいになって試合に出られた様な感じでした。医学部の方はもう結果的には５年ぐらいした方ばっかりですので、今思うとなかなか勝てなかったのは当たり前だなと思っております。

松本先生はじめ今日はたくさんお見えになってまして、懐かしくお顔を拝見しております。ちょうど埼玉国体ですか、43年でしたか、松本先生のパートナーを務めさせていただいて楽しい思い出もございます。今後、医学部のバドミントンがますます発展されることを祈念いたしましてご挨拶といたします。本当に今日はありがとうございました。



熊本女子大学昭和44年卒

金子　澄子

（旧姓　徳永）

こんばんは、50周年おめでとうございます。横浜からはるばる来たというよりは、この会があることを九州学生のほうで聞いたんですけれども、招待が来てないというので自分から名乗り出て、無理矢理押しかけました。

高校の時から始めて、熊本高校で始めた時に紅一点で、何か間違って入ってしまったいきさつがあって、ぼんやりと３年間をバドミントンしました。松本先生とそこで知り合った関係で医学部の練習に参加させてもらい、本学の練習に参加させてもらい、ということで汚い体育館の、鳩の糞がある体育館が過去にあったんですけど、そこにほとんど熊大生みたいな顔をしてずっと通っておりました。それから長崎に教職員で就職したんですけれども、その後も２週間に１度は熊本に戻って練習をしておりました。

私の連れ合いは熊大のバドミントン部出身の金子というんですけれども、で私は今、金子なんですが、横浜で教職をやりながらバドミントンをまだ続けております。２年前に定年退職という年になったんですけれども、今時の再任用制度というので、今、初任者教師の指導ということで、口ばっかり動かしながらバドミントンやっております。今日は体育祭なんですが、私がいても役に立たないのでここに来て、月曜日は代休でお休みなので、月曜まで遊んで帰ります。

とても盛大にこの会が行われていることで、何か自分のことのようにとても嬉しいです。松本先生はじ

めあの頃の諸先輩方にはとても甘えさせていただいて、そこから私のバドミントンが始まった気がして押しかけました。今目指すのは、今年か来年にあるはずの、第３回、４回世界シニア大会というのがあるんですが、年齢別に区切ってますので、60代のシングルとダブルを出たいなと思って、密かに、密かにウエストを細めております。なかなか引力に負けながら大変なんですけれども、どうにかしたいなあと、これから歳をとっても、どんなバドミントンができるかなあというのがまた大きな課題で、楽しみでもあります。

あと繋がっている皆さん方にアドバイスがあればいくらでもできますので、「歳とったらこうなるよっ」というのがいくらでもできますので、どうぞ今できてない皆さんもどこかでまたバドミントンを始めていただければ嬉しいなと思います。今日は本当におめでとうございました。



熊本商科大学昭和50年卒
工士　恭司

こんばんは。本日は熊大医学部50周年おめでとうございます。「ラケットハウスオールマン」というのが熊本にあるんですけど、もうかれこれ25、６年になります。熊本大学それから熊本医学部バドミントン部の方々にはいつもお世話になっております。ありがとうございます。

私もずっとバドミントンが大好きで、いまだにいろんな意味で子どもから大人まで関わってバドミントンを楽しんでおります。バドミントンを通じて巡り合った人たちと、いつまでも楽しいバドミントンの話とかプレイができればと思っております。これからも皆様のますますのご活躍をお祈り致します。本当に今日はおめでとうございました。



熊本大学昭和51年卒
吉田　裕伸

50周年、本当におめでとうございます。たぶん本学の50周年が数年後にあると思います。松本先生に眼を合わせんようにしときたいと思いますので、よろしくお願い致します。



久留米大学昭和53年卒
安武　博英

久留米大学出身の安武と申します。私はだいたい高校は熊高です。そして久留米大学に行きましたけれども。久留米大学に行きましてバドミントン部に入りましてまず最初に聞いたのが、私も有名になりたいと思いまして、「過去の強い先輩は誰ですか」と聞きましたら、「熊大の松本、宮川だ」と。そういう話でした。で、私も絶対そういうふうになってやろうと思って一生懸命したんですけれども、偶々、偶々ですね、熊大に濱田・吉永というのがおってそうはなれんだった、という惨めなバドミントンだったんですけれども、ま、取り敢えずそうは言っても、自慢ではないけれども佐賀の国体選手には勝ちよりました。ま、そういうところです。

終りのことば



昭和41年卒
上村　邦紀

大変名残惜しゅうございますが、もう十時間近ですね。ニュースカイには遅くまでありがとうございました。今日集まっていただいたすべての方がたぶん松本、私どもは「まっちゃん」としか言わんのですけど、「まっちゃん」のためにと言うと彼が少し重荷になりますかねえ、しかしこの50年というのはたぶん松本君がこつこつと積み上げてきた結果だと思います。まっちゃんどこにおっと？あんたは。もうふとかけど目立たんですもんね、あがんとこにおっと。ちょっとここに私の横に来てごらん。

この人と6年間、ペア組みましたから（松本「もう、見晴らしがよか」注：身長181cmと158cmのペア）。もうたいがい、ちょっと上がって来っと、私が前でポンと打つと終わりでしたもんね。たいがい全学の連中にも勝ちましたよ（松本「うん」）。本当に昔を思い出しますね。ま、もうちょっと長生きしましょうね（松本「はいはい」）

ま、自分たちのことだけ言って申し訳ありませんけど、吉永君ありがとうございました。あなたがこんなにしゃべるとは思いませんでした。波柴先輩、本当に遠いところから、ご来賓の皆さんもありがとうございました。盛り上げてもらって本当に感謝しております。

とにかくバドミントンは今や、オリンピックから花形になりましたね。昔は暗かったんですよね、きつかばっかりで。だけど今からまた楽しみに、時々BS（放送）あたりであれば見て、ちょっとくらいやってみるかなと、私も思っています。

長くなりましたが、熊大医学部のバドミントン部がますます発展しますように、一本締めでまいります。えーい、（ちょん）。

第３部

創立50周年に寄せて
―― ＯＢ／ＯＧの部



熊本、優勝を独占

和気あいあい応援合戦

西日本医科学生体育大会

第4日

四日目を迎えた、医学生のスポーツの祭典・第十五回西日本医科学生総合体育大会（北陸新聞社後援）は十四日、前九時から金沢市内各地で、十種目にわたる熱戦をくりひろげた。この日はあいにくの曇り空だったが、すっかり顔のふくらんだ選手たちは和気あいあいのうちにプレーを展開、応援歌をかなでる大会を盛りあげていた。また二百m二十台なわ自由跳リレーは前七時、金沢城前を皮切りに開始した。なお閉会式は前九時から城北競技場で行なわれる。

第四日目の競技が終わったバレーボールは医学、歯科、軟式庭球の団体は医学が初優勝した。また庭球団体は医学、バスケットボールは医学、ボートはAクルーが鹿児島、Bクルーが熊本、バドミントンはシングルスは医学が松本（熊本）、女子は水野（熊本）ダブルスは医学が松本・上村組（熊本）、女子は水野・阿北組（熊本）がそれぞれ優勝した。

バドミントン

（小松市体育館）

◇男子シングルス▽三回戦

松本（熊本）2-0堀口（大阪市）

中島（金大）2-0松永（大教大）

渡辺（岡山）2-0井村（長崎）

渡辺（神戸医）2-0早川（鹿児島）

▽準決勝　松本2-0中島、渡辺2-1中島

▽決勝　松本2(15-13)(15-5)0渡辺

◇女子シングルス▽三回戦

水野（熊本）2-0矢島（鹿児島）

伊藤（大阪）2-0阿北（熊本）

坂口（鳥取）2-1益田（神戸）

▽準決勝　水野2-1伊藤、坂口2-1阿北

▽決勝　水野2(11-7)0坂口

◇男子ダブルス▽四回戦

松本・上村（熊本）2-0島巣・福田（鹿児島）

松本・上村（熊本）2-0堀口・田中（大阪市）

布田・早川（熊本）2-0藤岡・鈴木（矢島・渡辺）

中島・阿倍（金沢）2-0齋藤・鷲尾（神戸）

▽準決勝　松本・上村2-0中島・阿倍

▽決勝　松本・上村2(15-11)(15-5)0布田・早川

◇女子ダブルス▽三回戦

▽三位決定戦　早川・松本2-1布田・早川

▽決勝　松本・上村2-0早川・松本

中島・阿倍2-1布田・早川

庭球

（金大体育館）

◇男子団体リーグ（Aブロック）熊本4-2三重医、熊本4-3福医、三重医4-2山口医、熊本4-1三重医、福医4-2山口医、三重医4-1山口医、福医4-1山口医

◇男子団体三次リーグ　熊本4-1大阪、山口医4-1大阪、福医4-3名古屋市、山口医4-1大阪、福医4-1大阪、神戸医4-1名古屋市、山口医4-1

金沢同点三位

女子

バスケットボール大会の五人医対熊本の試合

1．昭和30年代～40年代

青春のバドミントン

昭和35年卒　　友成　久雄

50年も昔のことははるか遠く夢のようだが、私の記憶にははっきりと残っている。私がバドミントンをやっていたのは、今終りに近づいている私の仕事人生が始まる前の２～３年間であった。いつの間にそんな長い時が過ぎたのだろうかと信じがたく思われる。

今振り返ると、あの頃バドミントンにどうしてあれほど夢中になり、熱中したのだろうかと思う。秋月君と毎日のように練習し、毎夜のようにバドミントンのことを語り合った。私は家庭教師などのアルバイトもあったのだが、全く疲れも感じなかった。元来スタミナの無い私が、これまでの人生でもっとも元気がよく、そして充実感を覚えていたのはバドミントンをやっていた頃だったと思う。

私は秋月君という良きパートナーに恵まれてバドミントンに熱中できたのだと思う。一方、二人で協力し、二人が中心となってつくった同好会から「バドミントン部」という小さな木が育ちつつあった。それがいつの間にか50年の歴史を刻む大木になっているとは・・・驚きである。私は卒業後バドミントンをやる機会には恵まれなかった。代わりに再び出会ったのは、バドミントンを始める前に２年間やった卓球だった。精神科に進んだからである。当時卓球は患者の唯一のレクリエーションだったのだ。卒後10年ぐらい経ってゴルフも始めた。どちらも今日まで細々とながら続けており、楽しめている。

私がバドミントンをやったのはわずかな間だったが、それによってスポーツの歓びや楽しさを初めて知り、スポーツが好きになったのだ。さらに、元来ひ弱だった私の身体もバドミントンによって鍛えられ、人並みのスポーツ体力ができたと思う。

青春の情熱とエネルギーを注いだバドミントンは私の人生で大きな意義のある活動であった。そして特別な想い出でもある。

平成20年５月31日

50年前の追憶

昭和37年卒　　秋月　孝行

熊本大学医学部バドミントン部が創立50周年を迎え、記念式典祝賀会が催される事は、私には大変感慨深いものがある。バドミントン部が今日まで存続し、創立50周年を迎える事が出来たのは後述する２人の功労者の努力と熱意があっての事だと云っても決して過言ではない。

先ず１人は友成久雄先輩である。先輩は昭和32年に同好会を立ち上げ、昭和33年に医学部バドミントン部を創立したいわゆる「生みの親」である。専門課程に進学した私は創立年に入部した。学１だった私も学３だった先輩も熊本城内にあった医学部学生寮の寮生だった。練習場にしていた医学部講堂も城内にあって寮の近くにあったので、２人で毎日よく練習した思い出がある。

その年、名古屋で開催された西日本医科学生体育大会に初出場した。団体１回戦で２年連続優勝の金沢

大と対戦し友成先輩だけが勝って1対4で敗退した。

年が明けて（昭和34年）友成先輩が学4の時、第1回九州大会（熊大、久留米大、九大）が久留米で開催された。その年の西医体は大阪で開催され女子が初出場となった。

友成先輩は、熊本大学全学部バドミントン部設立に思いを寄せて卒業した。

もう1人は松本孝一君である。医学部バドミントン部「育ての親」である。友成先輩が卒業した昭和35年に松本君（医学部進学課程1年）が入部してきた。実は、松本君にはそれ以前に1回出会っているのである。友成先輩に連れられて熊本商科大学に女子大の伊藤基記先生の教えを乞いに行った時に、別のコートで黙々と練習している背の高い高校生を私達は目にした。彼が松本君だったのである。

私が学3、松本君が医進1年の時、全学部バドミントン部が松本君と工藤君（工学部）によって結成された。2人は先輩の私を立てて初代主将としてくれた。その年に諫早で行われた九州地区大会に出場した思い出がある。

私が学4、松本君が医進2年の時から医進生の西医体への参加が出来るようになった。その年、京都で行われた西医体では松本君の活躍で団体3位に入賞した。3位決定戦は久留米大と当たり、複1対1、単1対1で迎えた最終戦が私に廻って来て、後輩たちの声援とアドバイスに元気つけられ先輩として役割を果たすことが出来た記憶が今でも新しい。

私が卒業した翌年から男子団体4年連続優勝、女子団体2年連続優勝と偉業を成し遂げたが、松本君に負うところが大きい。その後、現在に至るまで松本君から部の動向や部員の事についての情報を手紙や電話で知らせてもらっている。心中深く感謝している。

最後に、熊本大学医学部バドミントン部が今後益々発展していく事を祈念します。

熊本での西医体開催の思い出

昭和39年卒　　二塚　　信

昭和36年、熊本大学が主管校として翌37年西医体を開催することが決定した。私どもは4年生であった。当然、37年の5年生が運営の主体を担うことから、クラスを挙げて、西医体の準備委員会を結成し、当時の山崎記念館の一室を専用事務室として使用することが許可された。前年の昭和36年は京都大の主管で行われ、準備委員（武藤真委員長）は大挙してこれに参加し、競技に出場するとともに、運営についてつぶさに見学し、京都大学と交流会を開いた。バドミントン競技はこの年から医学進学課程の参加が許されて、団体戦は、秋月、谷口、二塚、松本、上村のメンバーで、部結成以来初めてベスト4進出を果たした。個人戦では初出場の松本君が準優勝を果たし、次年熊本での成果に確信を持つことができた。

西医体の全競技は集中的に10月（当時は10月開催）の1～2週間、熊本市内で行うことから、県連盟のご助言もあり、バドミントンは菊池市体育館の開催となった。当時は西医体の加盟校は24校（現在の1／2以下）ではあったが、バドミントン競技の参加者は200余名ということになる。何せ、モータリゼーション化以前の時代で、クラスメートでマイカーを持つ者は皆無であった。早川君や奥村君と熊本電鉄（当時熊本・菊池間直結）に揺られて、準備のために10回以上は菊池に通ったと思う。幸い、当時の木下市長以下、菊池市を挙げて応援体制を組んで頂いた。市長には開会式のご挨拶や、市長名の賞牌の授与も頂いた。宿泊については、わが部の上村君の兄上が旅行社にお勤めで、西医体全体の担当としてお世話し

て頂いていたので、格別のご配慮を頂き、菊池の温泉旅館にうまく収めることができた。当時、熊本女子大（現、熊本県立大）のバドミントン部は全国最強で、秋山を始め日本代表を輩出していた。その指導者で全日本の監督であった伊藤基記先生には、懇切に運営面等のご指導を頂いた。西医体の際には、菊池まで来て頂き、国際大会のお話を交えながら、激励の言葉を頂いた。

熊大は当時、松本君達の尽力で熊大全学のバドミントン部が出来ており、黒髪の体育館（現在地とは武夫原の反対、北側に、旧五高体育館として木造であった）で全学的に練習し、競技力の向上に大いに貢献した。菊池大会には全学のメンバーが応援に駆け付け、競技運営の全般をサポートしてくれた。

男子は松本、上村、布田、宮川、吉田を始め３年生中心のレギュラーメンバー、女子は河北、甲斐、宮本、水野ら３・４年生のメンバーは競技に全力を傾注し、男子団体の初優勝を収め、まさにわが青春のエポックであった。私は、万感の想いで、競技の面では名ばかりの主将として優勝カップを頂いた。その後の西医体四連勝につながる第一期黄金時代の幕開けであった。

バドミントン部の想い出

昭和40年卒　　奥村　恭久

私が入学したのは昭和34年。入学して間もない頃、城内の体育館でバドミントンの練習をしている先輩たちの姿を覗いたのがきっかけだった。友成先生に「君もやってみない」と声をかけられ入部した。私以外、同級生男子学生の入部はなく、その後女子学生のみが入部してきた。気の多い私はバドミントン以外にも色々なクラブに所属し、練習も不熱心で影の薄い存在だった。でもバドミントンで汗を流すのは爽快ではあったし、辞めることもなく６年間続いた。

そのころ西医体に出る資格は医学進学課程（今の一・二年生）にはなく、専門部（三～六年）のみが認められていた。専門部に進級し、さて今年から試合に参加できるとなった年に規約変更があり、医進も出場可となった。確かその年は京都で行われたが、戦績の記憶はない。私を含めて先輩たちも大学に入ってバドミントンを始めた者ばかりであったようだ。まだ同好会の域を超えるものではなかった。しかし一年下の松本君たち高校時代からバドミントンをしてきた連中の入部で俄然元気がある部となった。もちろん、全員私よりも上手で練習熱心であった。今までの様な一回戦敗退もなくなった。

西医体が熊大の主管で開催され、二塚先生を中心に私も裏方で動いた。この年松本君たちの活躍で優勝。翌年、私が主将になった。医学部体育部会での予算会議で、それまで弱小だったバドミントン部も鼻息が荒くなった（バドミントン部ではなく私の鼻息だけだったのかもしれないが・・・）「西医体で優勝した部が一回戦敗退の部と同じこの程度の予算ではまかりならぬ。もっと増やせ」と。その年、西医体は石川県小松市であった。前年度優勝校のキャプテンが選手宣誓と言うことで、試合では活躍しない私が声高らかに選手宣誓をしたことが想い出される。これがバドミントン部における私に当たった唯一のスポットライトであったろうか。そうしてこの年男女アベック優勝の偉業を成し遂げた。しかし不謹慎なる私にとっては一回戦敗退がなくなり、西医体や九山医体終了後の観光旅行がしにくくなった。と言いながらもこの年は「宇奈月温泉」に泊まり、トロッコ列車に乗り「黒部峡谷」の紅葉を楽しんだ。

卒業して40余年、永年勤めた国立病院を退職。仕事の合間に原稿をしたためながら、久しぶりに青春時代を想い起こした。

バドミントン　遥かなる想い出

昭和40年卒　　原　　陽子
（旧姓　河北）

バドミントン部創設50周年を心よりお祝い申上げます。

私が入部しましたのは、バドミントン部が創設されて間もないころのことです。中学時代に陸上競技・バスケット、高校時代にバスケットに熱中した私には、一周400mのトラックや大きいボールに代わってラケットと小振の球を使うバドミントンは、全く異種のスポーツでした。しかし練習を始めてみますと、バスケットよりずっと狭いコートながら、運動量はバスケットのそれに匹敵しました。部員は十数名、西日本医科学生総合体育大会の入賞に向け皆意欲十分の雰囲気でした。暑い夏に体育館で汗を流しながら練習したことは今も新鮮な思い出です。

熊本大学医学部バドミントン部は当時から、松本先生を中心に圧倒的な強さを誇っていました。西日本医科学生総合体育大会では必ず、優勝者・入賞者が出ました。出場した全ての大会についての詳細な記憶は薄れましたが、清田祥子先生からいただいた昭和39年９月５日のデイリースポーツ（神戸）に、第16回西日本医科学生総合体育大会バドミントン　男子シングルス準優勝　松本、男子ダブルス優勝　松本・上村、女子シングルス優勝　水野（現　清田）、女子ダブルス優勝　水野・河北（現　原）と報道されています。松本先生の長身から振り下ろされる強烈なスマッシュと前後左右の強固な守り、清田先生の切れのいい鋭いスマッシュと球を追う素早い動きを、いまも鮮明に思い出します。清田先生は、いつの大会でも素晴らしい活躍をみせられました。第16回大会バドミントン女子シングルス決勝戦、清田先生は２セットの得点11－２・11－１という圧倒的な強さでした。先生と組んで出場したダブルスでも、先生の活躍のおかげで優勝することができました。

卒業後今日までラケットに触れることなく過ごしてまいりましたが、後輩の皆さまの活躍ぶりをお知らせいただくたびに、当時の部の活躍が連綿と受け継がれていることを誇らしく思ってきました。創設50周年にあたり、松本先生はじめ幹事・監督の先生方のご努力、ご尽力が部の継続と活躍の牽引力となってきましたことを思い、これからも歴史が受け継がれていきますことを祈念いたします。

“休講、やったそれ練習だ”

昭和41年卒　　上村　邦紀

私が、医学生だった昭和30年代後半は、アメリカの空爆により徹底的に焼け野原となった町もやっと傷跡が見えないくらいに修復され活気がではじめた時代でした。そして、何より、昭和39年の東京オリンピックを成功さしたことが、国民が自信を取り戻す契機になりました。さて、わが熊大医学部では、年配の教授が多かったことや景気が良くなりお金も回り出し、研究も忙しくなりつつあったのか、結構、突然休講になることがありました。そんな時表題の声が決まって聞こえてくるのでした。普通には、休講ともなると図書館に出かけて静かに専門書を広げるとか、喫茶店に集まって週末の遊びの相談とかに使うものでしょうが、同級に７名のバド仲間がいて、練習相手に事欠かないこと、全員ほぼ真面目に授業には出ていた上に、バドミントン一筋、バドミントンを取ったらただ背が高いだけという超熱心な仲間がいたこと

が、“休講、やった、それ練習”ということになったのですが、よく練習したと今ではなつかしく思い出します。打倒熊大と挑んでくる西医体各校を気持ちよく退けて４連覇を達成できたのは、どこよりも多くの練習をし、自信を積み上げたことによると今でも誇りにしています。春休みも夏休みも練習に明け暮れた学生生活でした。年に１回ぐらい仲間と川や海に出かけたことが、いっそう輝く思い出となっています。当然というか、残念というか恋人を作ってデイトするものも無く、黒髪のおんぼろ体育館で嫌になるほど顔を合わせたものでした。そんな仲間ですから、今でも顔を合わせればどんなことを考えているか顔色を見るだけで想像でき、バドミントンが繋いでくれた絆と大切にしています。バドミントンは女の子の羽子板遊びぐらいの認識しか持たなかった私が、何故バドミントンをやることになったのかおかしな因縁、偶然がありました。私は、中学、高校（済々黌）の６年間ソフトテニスに夢中でした。高校三年の秋には、国体出場をもう一歩のところで逃すくらいに大学受験そっちのけで打ち込んでいましたので、大学でもソフトテニスをつづけることしか頭にありませんでした。今は、二の丸となっている熊本城内に当時医学部の基礎教室や学生寮があり、ソフトテニスのコートがあると聞いて入学後、早速、見学にいきました。確かにコートがありしかもやや大人びた男性が２、３人練習している姿が見られました。ところが、コートはでこぼこでボールはとんでもない方向に弾んでいることにまずびっくり、次に練習している姿を見ると女子高校生にも劣るかと思えるほどの玉のスピードを見るに及んでがっかり、すっかりソフトテニス部に入る気持ちがうせました。私が育った中学でも高校でもコートの手入れは先輩から厳しく指導された最重要項目でしたから、特に霜が降りる冬場は重いローラを引いて入念に整備した経験からあまりのひどさに愕然としたこと、さらに大学生だからとかすかな期待をこめてみた部員の力ない球筋を見るに及んで失望し、大げさに表現すれば失意の姿でその場を後にしました。ところが、世の中は良くできているものですね、広場の片隅に小さな体育館があり覗いて見るとバドミントンをやっていました。部員も少ないのか、覗き見を待っていたみたいでちょっと試してごらんといわれるままにラケットを手にしたのがことの始まり、熊高出の一流選手も入部しますからと誘われるままに、前述したごとくバドミントン漬けになりました。それにしても、この体育館はひどかった。天井は低くすぐシャトルが天井の桟に引っかかるものですから試合中止、よくシャトルを取りに天井に上りました。教育学部の体育館も五高時代の遺産で床が痛んで危ない練習場でした、どちらも今はなつかしい体育館です。バドミントンに青春を打ち込めたのは、シャトルを微妙に動かさねばならない面白さやなんといっても西医体で一度勝って喜びを経験したことが大きいですが、最大の要因は、改めて説明するまでもなく、バドミントン一筋、バドミントンを取ったらただ背が高いだけの仲間、松本会長（私どもは親しみを込めて“松チャン”と呼びます）がいたからにほかありません。この人がいなかったら、多分あれほどまでに打ち込まなかっただろうし、楽しい嬉しい思い出もなかっただろうと心から感謝しつづけています。50周年を機にこの会が、後輩を支援する組織として、又お互いの友情を育む会として発展することを願います。

平成20年３月14日

バドミントンと出会って

昭和41年卒　清田　祥子
（旧姓　水野）

最初の出会いは高校２年の夏休み、黒川温泉で例年開かれていた10日間の夏季合宿でした。まだ鄙びたままの温泉旅館に分宿して、近くの小学校の教室を借りて主要科目の授業を受けるのですが、休み時間は校庭のにわか作りのコートでバドミントン（ダブルス）に興じて過ごしました。その年の秋、松本孝一さんと工藤慎一郎さんたちが中心となって、まず同好会を立ち上げ、翌春には正式の部に昇格、本格的活動が始まりました。お二人は熊大にも一緒に進学し（工藤さんは工学部）、黒髪の体育館で全学仲良く練習されていました。私は最初の１年間は軟式テニス部でしたが、当時は城内二の丸にあったコートに通う必要があったことと、雨の日は練習できないこともあって、２年生になってバドミントン部に移りました。黒髪体育館での練習はとても楽しいものでした。すでに入部していた同級生６名（松本孝一、上村邦紀、吉田仁爾、布田龍佑、宮川洸平、前田利為の諸先生）に私を加えて７名、休講時や放課後はいつも一緒に練習していました。窓を締め切って蒸し暑い中での厳しい練習も苦にしたことはありません。お蔭で西医体での成績は男女とも優秀で、充実した学生生活を経験できました。社会人になっても何かあると集まります。今年の１月には落ち込んでいた私を励ます会を開いていただき心から感謝しています。

この50年は私にとって青春時代から現在までの人生に重なります。その間のバドミントンを通してのつながりは、８歳年下の実弟まで巻き込み、大きく拡がっています。仕事はもちろん、子育てを含めて多方面に亘りお世話になりました。そしてこれからもますますお世話になると思います。今の私には西医体遠征時のささやかな寄付ぐらいしか応援できることはありませんが、OB会名簿が増え続けることを、学生の皆様や先生方のさらなるご健闘とご活躍を願ってやみません。

「一枚の写真」

昭和41年卒　松本　孝一

ここに一枚の写真がある。（写真　次ページ左）

第16回西日本医科学生体育大会バドミントン競技男子シングルス決勝だ。ときは昭和39（1964）年９月、ところは県立和歌山体育館である。学部３年生のときだ。対戦者は岡山大学の波柴忠利選手で私の１年先輩である。

その前年、我々熊本大学医学部バドミントン部は石川県小松市で開催された第15回西医体で男女団体戦・個人戦（単・複）すべてのタイトルを取り完全優勝を成し遂げた。

翌年も当然２年連続の完全優勝を目指した。そして私の男子シングルスのタイトル以外はすべて優勝したのである。つまり、この一枚の写真は０－２で波柴先輩になすところなく敗れ、がっくりきて握手しているところである。試合終了直後、思わずコートに駆け込んで波柴さんを祝福しているのは、我々より３学年下の岡山大学の若きエース森口隆彦君である。

昭和40年は医学部最終学年である。卒業試験が12月から始まり、ポリクリ始め勉強に励まねばならない。しかし、私は全く勉強せず、秋の西医体を目標に定めて、バドミントンだけに専念した。我々41年卒に

とって最後の第17回西医体は、山口県宇部市で開催された。男子団体戦は予定通り４連覇をはたした。男子シングルスでは、一戦一戦気を抜かずに全力で戦った。決勝の相手は、波柴先輩は卒業されたので森口君であった。波柴さんの代わりに対戦した森口君に勝ったけれども納得のいく試合内容ではなかった。そして、上村邦紀さんと組んだダブルス決勝は、鹿児島大学の早川（現姓・野川）松本（私の弟）組に完敗であった。

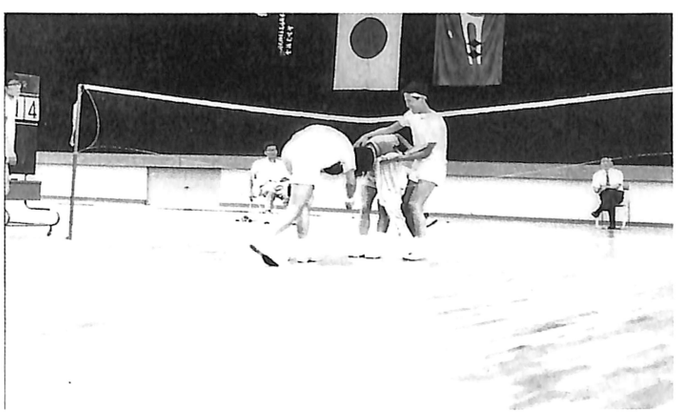
昭和40年秋の西医体で、学生スポーツとしてのバドミントンは終わった。私は腑抜けのようになり、講義にもポリクリにも出席せずぼんやりしていた。上村邦紀さんと上通りアーケードでお会いし、上村さんは「おい」と声をかけられたが、返事もせず無言ですれ違ったことを覚えている。当時はこんな医学用語はなかったが立派な「燃え尽き症候群」である。その後、気持ちを切り替えて無事「卒業試験」はクリアできた。

私は、卒業して１年間のインターン後、昭和42年第２外科に入局した。昭和51年６月26日父が急逝したので外科医院を継承し、33年になる。平成14年４月13日京都で内科医院を開業しておられる波柴先生をお訪ねした。森口君の姉上である奥様とは初対面であったが、「こんな背の高い人にシングルスで勝って、お父さんはえらい」と言われた。私は38年目にして初めて「あー！波柴さんに負けてよかったかな」と思った次第である。

そして、平成20年５月22日学会の特別講演で来熊した現在は川崎医科大学形成外科教授の森口隆彦先生と久し振りにお会いし、学生時代よく飲みに行き、今もやってる「スナック淀」で楽しくも懐かしい夜を過ごした。（写真　右）

今、素晴らしい先輩・同輩・後輩に恵まれバドミントンをやってよかったとしみじみ感じている。皆さん本当に有り難うございます。

追記　「この一枚」を撮ってくれた方はどなたでしょうか？私にそっと教えてください。



昭和39年　西医体　男子シングルス決勝



松本　　森口先生

バドミントンと私

昭和40年　岡山大学卒　　波柴　忠利

熊本大学医学部バドミントン部、創立50周年誠におめでとうございます。

小生が岡山大学を卒業してもう43年になります。高校時代に半年あまりバドミントンをしていたので、

大学に入って、総合のバドミントン部に入部し、入り浸っておりました。学生生活といえばバドミントンに尽きる生活を送りました。

思い出深いこととしては、大学1年生の時の合宿で、ユーバー杯で優勝した湯木博江氏（歌手の新沼謙治氏と後に結婚）とダブルスの試合をしたこと。そして、4年生の時、中国五大学でシングルで2位になったこと。6年生で西医体でベスト8、ベスト4の時、フルセットで勝ち抜き、決勝で熊大の松本先生に勝利したことでしょうか。

バドミントン部を通して、医学部以外の沢山の人たちとも出会うことができ、いろいろな経験が出来ました。そして縁あって京都で開業した時、同じ医師会に西医体で試合した関西医科大学出身の重住先生がおられ、開業以来一番親しい友人として付き合っていただいています。

5年ほど前に松本先生が京都へ学会に来られた時、西医体で当時活躍された神戸大学の瀬藤先生、三戸先生、大阪市立大学の堀口先生、京都大学の井村先生、重住先生とで集まり、学生時代を懐かしんでお酒を飲みました。同じ青春時代を過ごした仲間がいるというのは素敵なことです。

現在は自己流のゴルフを楽しんでいます。年の割にはドライバーが飛び、学生時代何か運動していたか聞かれたりしています。最後になりましたが、これからの皆さんのご活躍、そして貴部のますますのご繁栄を心からお祈り申し上げます。

高い目標・スタミナ

昭和41年卒　　吉田　仁爾

私のバドミントンの競技人生は僅か6年間である。正確には、医学部の3年から6年までの4年間に凝縮されている。しかも栄光の西医体4連覇として輝いている。

この西医体4連覇のメンバーの中では高校時代の経験者は松本君1人であった。しかし1人でもレベルの高い目標があればこそ、他のメンバーも実力をつけたと思う。（これは仕事でも遊びでも一緒）

思えば西医体の団体戦の大事な試合は最後の私のシングルできまるケースが多かった。メンバーの中では一番図々しかったので、実力の上の相手としても気持で後れを取ることはなかった。フルセットになればこちらのものといつも思っていた。日頃の猛練習でスタミナには絶対の自信があった。殆どが第1セットを落とし、第2セットを接戦でとり、第3セットを圧勝するというパターンだった。

この40年間は、ゴルフだけになっていて、ラケットを握ることは全くない。しかし、リストの強さは今もゴルフに生かされ「飛ばし屋」といわれている。スタミナは年々落ちていて前半がよくて後半が悪いという若い頃と逆になった。それでも70歳以上の日本グランドシニア選手権への出場の夢は捨てていない。あと3年。

バドミントン回想

昭和41年卒　　宮川　洸平

私は、今でも週に１～２回バドミントンが出来ることを何よりも楽しんでいます。この年齢までスポーツが出来るのを幸せに思います。それも、自分の子供、またはそれ以下の年齢の医学部の学生さん達とプレーできるのは大きな喜びです。

思い返せば、それははるか昔、熊大医学部バドミントン部に入部したことから始まります。同級生（実を言うと小学校以来）の松本孝一君が、入学してまもなくバドミントン部に誘ってくれたことを大変感謝しています。この機会がなかったら、今の私はなく、生涯バドミントンとの出会いはなかったと思います。大学６年間継続できて、今またプレーができていることは、多分、バドミントンというスポーツと自分の相性が合ったと考えています。学生時代よくもバドミントン一筋に熱中できたと思います。また私は、ダブルスを同級生の布田龍佑君と組めたことが幸せでした。私がミスをした時、励ましてはくれても、嫌な顔一つ見せず決して怒らない、そんな彼の人柄にどれだけ助けられたでしょう。勉強や授業、試験も大変お世話になりました。バドミントン部員に同級生が７人もいて助けられたので無事卒業できました。もう40年以上も昔の記憶なので多くは薄れていますが、１年365日、バドミントン漬けであったように思います。その他の遊びや行動も同級生部員と共に楽しみました。

熊大黒髪キャンパスの武夫原グランドの片隅にあった、古い木造体育館のたった２面のコートで毎日練習に明け暮れました。途中でめまいがするほどくたくたになって、グランドの横の小高い芝生の上に寝転び意識を失い、しばらく眠った毎日がなぜか今でもまず一番に思い浮かびます。あの恍惚感ほど幸せな時間はなかったように思います。医学部卒後、上京したり、精神科医局の時代も仕事で忙しく、O.Bとしての部員との関わりはありませんでした。そして時代が数十年過ぎました。

ある時、バドミントン部員が途絶えかけて、部の存続が危惧された時期があります。あれは確か平成３年頃、当時、私の病院に体育館を造って１年くらい経った頃だったと思います。私も卒後以来、25年振りにラケットを握り、職員や地域の人と遊んでいました。その年の冬、本田雅博君（平成５年卒）が、松本孝一君の紹介で突然やって来ました。部員たった一人になり、練習場所も仲間もいなくなったということでした。それが機会（縁）で、本田君が私たちの練習に参加することになりました。更に彼はその翌年から毎年、新入部員を精力的に勧誘し、数年で見違えるように部員が増えました。まさに本田君は、救世主的役割を果たしました。その頃、野村教授から二塚教授に部長は代わり、二塚先生も体育館に励ましに来てくださいました。以来、毎週月曜と水曜が熊大医学部バドミントン部員の練習日となって今日に至っています。火曜日と木曜日は病院のクラブ（杏仁会バドミントンクラブ）と近隣の人、その他の仲間で練習しています。一部の学生さんは、火・木に我々の仲間に参加して実力を磨いています。２、３年前からは熊大O.Bの先生達が数人参加し、また他大学のO.Bも参加して、大変賑やかで多彩な顔ぶれになりました。特に、久留米大学O.Bの安武博英先生（昭和51年卒）は平成７年から参加され、部員の指導を積極的にしていただき、大変お世話になっています。今では、市内の病院の看護師、薬剤師、レントゲン技師、OT、PTなども入れ替わり参加しています。私の性格上、来る人は拒まず、去る人は追わずで、みんなからこのクラブの雰囲気が良いと言われると嬉しくなります。なお、先に述べた本田雅博君が卒後精神科に入局してくれたことが、私は嬉しくて今でも忘れられない思い出になっています。

さて、熊本県には、昭和62年頃から同好会が集まって熊本県病院対抗バドミントン大会がありました。

熊本大学事務局が世話人となり、熊本機能病院の米満先生が会長で毎年春夏２回開催されていました。私の病院も第12回大会から（松本孝一君に紹介されて）参加していました。それが平成13年を最後に途絶えていました。松本孝一君の勧めもあり、平成18年から私が会長となり、私の病院の世話で再開しています。これにも多くのO.Bの先生が参加してくれます。学生さんにも審判など手伝ってもらっています。今後もできる限り世話を続けていくつもりです。

思いつくままに書き続けると話は尽きませんが、平成４年以来、多数の学生さんとプレーをして、その６年間の成長（心身ともに）を見つめて送り出してきました。彼らの若いエネルギーに刺激を受け、自らも成長し、幾多の思い出ができた幸せに、心から感謝しています。

さて、最後に我が医学部バドミントン部は、創部以来優れた戦績を残しています。その歴史を飾る団体戦の優勝杯、トロフィー、楯などは現在私の病院の応接室に一時保管しています。これは、平成16年に二塚先生が大学を退官されるまで、教授室に置いてありましたが、その後、よい保管場所がなかったので、私が大切に一時預かっています。どうぞご安心ください。 終わりに医学部バドミントン部の益々の発展と先輩、後輩諸氏並びに現役部員の皆様のご健勝をお祈りいたします。

低空飛行の時代

昭和45年卒　　松元　寛仁

1964（昭和39）年にアジアで初めてのオリンピック大会が東京で開催された。あまり関係はないが、その年に我々の学年は入学した。入学時の上村先輩のクラブ紹介には殆ど関心はなかったが、５月か６月頃先に入部していた得平君に誘われて、武夫原のハト小屋に練習を見に行ったのがバドミントンとの出会いであった。背の高いハムレット風の先輩にラケットは野球のピッチャーと同じ要領で振りなさいと教えられたが、そう簡単にできる筈もなく、力まかせの手打ちだった（これは最後まで直らなかった）ので、この後１～２週間は右手が震えて箸を持てなかった。同じ頃　麻生、小山両君も入部したが、そのうち得平君は来なくなったので結局同級生は３人だけが残った。翌年　宮川民平、吉村、堀川、鎌田の諸君と松永、戸泉さんが入部し、その後の４年間は主にこのメンバーで苦楽（楽は殆どない？）共にすることとなった。医学部だけで３回（湯浦、人吉、日田）全学とも泰勝寺などで合宿して、無食欲・脱水状態になるまで練習した記憶がある。

遠征については、九山医体の方はあまり記憶にないが、鹿大の松本忠さんが参加しない時には割と好成績だったと思う。西医体には医進２年の山口大会から参加した。松本孝一先輩から熊大は３連覇しているのだから君達ももっと胸を張って歩け！と言われたが、なかなかそうは行かない。ところがその夜宿舎に戻ったところ、そこには険悪な空気が漂っていた。５連覇で取り切りと決っていた優勝カップを、４連覇にしてはどうかとキャップ会議で上村先輩が提案されたらしい。むろんこれは否決されたが、これを聞いた松本先輩が烈火の如く怒り、その夜は二人は顔も会わせず、他のメンバーを通じて議論は人生論にまで及んだのである。しかし翌日の本番になると、何事もなかったかのように、上村・松本組、布田・宮川洸平組、シングルスの吉田先輩の活躍で順調に勝ち進み、４連覇が成ったのである。

翌年は大阪であり全員入れ換えの新メンバーで臨んだ。熊本駅で松本先輩に「大丈夫」とおだてられ、試合当日は徹夜で車を飛ばして駆けつけてくれた吉田先輩の勘が冴えてオーダーがどんぴしゃり、鳥取大

を破ってベスト4に進出、シードを死守したのである。我々も嬉しかったが、4連覇の偉大な先輩方の喜びようも尋常ではなかった。次の年鹿児島で、同じ鳥取に敗れてシードを失ったが、学Ⅳの時の名古屋では我々としては有終の美とも言える団体戦3位を自分達の力で勝ち取ったと記憶している。我々の時代はいわば低空飛行の時代で他人に誇れるような成績は残せなかったが、バドミントンに打ち込んだ6年間は自分史の中では間違いなく重要な1頁である。

バドミントン部活の思い出

昭和46年卒　　鎌田　龍二

小生がバドミントン部に入部したのは昭和40年春でした。特別な動機はなく、ただ何となく取り付き易いことからでしたが、予想に反しハードなスポーツで軟弱な自分にはとても向かないと直感したほどでした。当時は松本孝一先輩を先頭に西医体優勝をめざしてレベルの高い厳しい練習が行われていました。シングルでは長身の松本孝一先輩の高いハイクリアーと角度のあるスマッシュ、摺り足の早い動きとリストの利いた鋭いストロークの吉田仁爾先輩、ダブルスでは前低後高隙を許さぬ極端な凹凸コンビの松本孝一、上村邦紀先輩ペア、そして布田龍佑、宮川洸平先輩ペアの回転レシーブまがいの素早いネット際攻撃リターンは鮮やかで、熊大チームは他大と違ったユニークな団体のようでした。そして念願の西医体初の団体個人優勝を勝ち取られたのは見事でした。

その大会を観戦し、まだ駆け出しの何もしらない小生は大いに感激し、その後の練習に発奮したものでした。強い先輩達からの叱咤激励にも拘わらず充分な実績を残せず気まずい思いはありましたが、反面6年間このハードで不向きなスポーツをよくぞ続けたという自信は何とか感じることができました。6年間苦しい辛さよりさわやかな汗、幸い病弱な体は強健になり、日頃の基礎ランニングの甲斐あって、医学部の運動会の10キロマラソンで陸上部を抜いて優勝することができたこと、そして当時はまだ九山医体が大学で認可されていなかったのですが、小生評議員の時、奔走して資料を作成し、当時の部長野村茂先生のお力添えでやっと認可がおりたことも鮮やかな思い出の一つです。

この度の熊医バドミントン部創設50周年をお慶び申し上げますとともに、今後の若い現役諸兄のますますのご活躍を期待したいと思います。紙面をお借りしましてOBとしての日頃のご無沙汰失礼をお詫びいたします。

熊大医学部バドミントン部50周年記念によせて

昭和46年卒　　後藤　倶子
（旧姓　松永）

熊大医学部バドミントン部50周年記念おめでとうございます。

永年、伝統を受け継ぎ育てて来られた松本孝一先生、バドミントン部の役員および部員の皆様に心よりお喜び申し上げます。私は仕事一筋でバドミントン部からは遠ざかっていましたので、軌跡を語るにはふさわしくないのですが、監督をされていた柴田先生や濱田先生、吉永先生、魚住先生と当院（熊本中央病

院）で仕事を一緒にしていた関係で一言お祝い申し上げます。

私にできることは素晴らしい先人達との出会いを紹介することです。吉永先生から寄稿するようにと勧められていた所、たまたま手にした臨床麻酔に「子育ては楽し」と本（文芸社）の紹介を諏訪邦夫先生（呼吸生理の大家）が書かれていました。4人の子育てと麻酔科医を続けてこられたスーパーウーマンと紹介されています。優秀な子供さんを育て上げられ、なお現在も現役として働かれている伊地知紀子先生（昭40年卒、ペンネーム：薬師寺紀）です。随分前に産業医科大学の九州麻酔学会でお会いしました。家の仕事も全て一人でこなして、子育て、麻酔科医を続けられているとお聞きして、私の師匠である森岡亨先生と帰りの車の中で並み大抵のことでは出来ませんねと感心しながら話した事を思い出しました。

自分自身の能力から、人間一人で出来ることは限られていますので、医師として子育てをするには多くの人の協力が必要と女医さん達に話し、全て他力本願でやってきました。伊地知先生は、子育てや仕事を楽しみながら、かつ子育てを終えても本を書く事にチャレンジされています。人生は多くの方々との出会いで色取られます。バドミントンと同じように果敢に挑戦する人達が排出することを願って止みません。50周年記念に際して熊大医学部バドミントン部が益々発展することを祈念しております。

昭和46年卒　　吉村　力也

創部50周年おめでとうございます。私も大学を卒業してもう37年近くになります。本当に月日が経つのは早いものです。最近はとみに時間の過ぎるのを早く感じております。

さて、私達の頃の医学部バドミントン部は、ほとんどが大学から始めた人達の集まりで、いわゆる第1期と第2期黄金時代との間の谷間の時代（昭和40年前半）にあたります。それでも九山医体では何回となく？優勝もできましたし、西医体では3位が最高の成績だったと記憶しております。“鳩小屋”なる木造の体育館での練習のこと、休講の時間には龍田山へ走って、頂上で熊本の町を眺めながら昼寝をしていたこと（現在は木が大きくなって町は全く見えません）、夏の合宿では飯も食えなくなるほど鍛われたこと、などが懐かしく思い出されます。和気藹々と、苦しい中にも楽しく、思い出に残る青春の一時期でした。最近は、気力と体力の乖離を痛切に感じております。体力維持のために、田舎の体育館で週1回はバドミントンで汗を流すように努めております。

ところで私事ですが、故郷の嘉島に約1年半前に内科を開業しました。気は確かか？、十年遅かったな！などと激励をいただきました。それでも、焦らず、ボチボチとがんばっております。開業以来、バドミントン部の先生方（特に松本、小山、濱田、吉永先生）には大変お世話になっており、心から感謝しております。元来運動能力はさしてない方ですが、1つの事を続ければ結構なんとかなるものです。継続は力なりです。バドミントンを続けたということが、仕事やその他いろんなことで役立っていると感じています。

今後のバドミントン部の益々の発展を期待しております。



昭和41年卒の先生方
（清田祥子先生を囲んで）

2．昭和50年代～60年代

創部50周年によせて

昭和51年　久留米大学卒　　安武　博英

昭和46年、２年の春入部し、血気盛んな折り、先輩に尋ねました。「過去の名選手は誰ですか？」と、「岡山の森口さん、熊本の松本さん、宮川さん」との返事でした。ようし、俺も名を残す選手になってやるとばかり練習に明け暮れたものでした。現役時代は熊本の浜田先生の時代と重なり、我が高校の後輩ながらあっぱれな奴で、次は勝つぞ、次は勝つぞ、打倒浜田！の４年間でした。１度ダブルスで14点先取したのが最大で、とうとう１勝もできず終わりました。浜田先生は、自分が強かったこと以外に３～４年後の後輩達までしっかり鍛え上げて強くし、多数の西医体優勝者を出しています。ここが一番並と違い、後輩ながら尊敬できる人物です。

想い出を２つ、ある年九山終了後中洲で皆で飲んでいたら、久留米と熊大だけになってしまい、中洲のことはお互い判らず“え～い、皆久留米へ来い！”となって久留米で無茶苦茶飲み、岡を筆頭に酔っぱらった順に私の８畳の下宿に布団なしで泊まらせ、その楽しかった事楽しかった事。（後日談：その下宿からこっぴどく怒られ、結局下宿替えになってしまいました）。もう１つ全医体で松本へ行った時の事、優勝熊大、準優勝久留米だったのですが、団体戦の前日信州の連中と飲みに行く事になり川沿いに歩いて飲みに行ってたら、後方より熊大の浜田、吉永が走ってきて「俺らも、行く」と、結局わけわからぬ料亭みたいな所で、熊本出身とかいうおばさんの三味線でわけわからぬ歌を歌いまくり、戦略上翌日の対戦に備えて浜田にしこたま飲ませたけど翌日きっちりお返しされた覚えがあります。

熊大眼科に入局したら、布田先生、鎌田先生とOBもいらっしゃりびっくりしました。浜田、吉永、柴田先生達とは帰ってからも仲良くしてもらい、しばしば酒を酌み交わしたりしていました。

ある時、布田先生から宮川先生の杏仁会を紹介してもらい、あの伝説の「宮川先生」とバドミントンできるとばかりに、心躍らせ、仲間に入れてもらい、未だに先生の後を追って今日に至っています。

50周年おめでとうございます。

熊大医学部バドミントン部と私

昭和52年卒　　浜田　泰之

医学部バドミントン部との出合いは大学合格発表の日でした。その当時は夜に発表があり、全学の主将であった稲津さんに偶然出会ったため、そのまま松本先生の家に連れて行かれたのでした。先生は驚いて、信じられないということで近くのスナックにいき、テレビで私の名前を確認しました。余談になりますが、合格放送の中でインタビューを受けていたのが私の妻であります。

そのような関係で半強制的に全学の春合宿に参加させられ、入学前から一日中練習漬けの毎日を送りました。入学後から全学の団体戦メンバーであり、医学部の試合など簡単に勝てると思っていたし、また先輩からもそう言われていたので、過信した気持ちで京都での西医体に臨みました。結果は久留米大の星野

さんにシングルスで負け、苦い経験をさせられました。ただ唯一の救いは宮川先輩と組んだダブルスで練習試合を含み、すべての試合に勝ち、優勝したことでした。その後、毎年優勝してくると言いながら、結局西医体の団体戦で勝てたのは2回だけでした（個人単4回、個人複5回）。学生時代の一番楽しい思い出は、3年の時に松本市で開かれた全医体に私と林田さんと竹口君と吉永君の4人で参加した事であります。団体戦では西医体の決勝で負けた山口大学に勝ち、初めて優勝することができました。その夜は懇親会で嬉しくて遅くまで酒を飲み、睡眠不足の状態で翌日の個人戦も勝ち、結局2日間15戦全勝で、三冠王になれました。次の日は4人一緒に上高地や白骨温泉などをめぐる旅行ができ、幸せな青春の日々を過ごすことができました。

医者になってからも熊本にいた関係でバドを続け、県総合のミックスダブルスではパートナーのおかげで2回優勝できました。また、昭和57年熊本での西医体の時にOB戦をしようと発案し、昔の試合仲間に呼びかけ、学生の助けを借り開催することができました。それが西日本医師バドミントン大会と発展し、今年27回目で参加者も増加しており、同窓会と同じように昔話に花を咲かせながら、楽しく試合し懇親を深めています。

現在、医師会の理事などの雑用が増え、バドをする時間が少なくなっていますが、今後できる限りバドを続けていきたいと思っています。

昭和52年卒　　竹口　東一郎

今、熊羽会の初打ちの写真を見ています。懐かしい顔がみんな笑っています。久しぶりにシャトルを追っかけ汗を流したあとでしょう。とびきりの笑顔です。懐かしい顔ぶれがそろい一瞬のうちに学生時代にタイムスリップしてしまいます。

私は昭和46年入学、52年卒業、この間全学のバドミントン部でいろいろな経験をさせていただきました。先輩から「コートの中には人生が落ちている。」といわれて、ひたすらランニング、基本練習、オールロング、オールショートに励みました。目標は同級生で自分をバドミントンに誘ってくれた浜田（現　熊本中央病院　泌尿器科部長）でした。正式な試合ではまったく話にならず、後にも先にも彼の体調が悪いときに練習で15点1セットマッチでまぐれで1回勝ったのみでした。しかし、彼のおかげでバドミントンにめぐり合え、インカレ、九山、西医体、全日本医学生大会にも参加することができました。またずっとダブルスのペアーを組んでくれた林田さん（以前からずっとこう呼んでいました）にも感謝です。卒業後もどこに行ってもバドを通じてすぐ親しくなれます。また天草から県民体育祭の一員として出場する機会もありました。

また11月1日、開校記念日に毎年行われている阿蘇山頂からの遠歩大会も思い出のひとつです。バド部同級生3人でチーム参加し団体で2回優勝、個人では5年時の3位が最高でした。草千里を通り過ぎると眼下には阿蘇谷の民家や街灯が輝き別世界のように見えます。最大の難所は大津街道です。まっすぐな変化のない杉並木道をひたすら走りました。11月の阿蘇は気温も低く肩には白く霜が降っているときもありました。こんなとき考えていることは「足を止めなければ間違いなくゴールに近づいている」という極々単純なことでした。外科医となった現在も、手術のとき腸管の癒着が強かったりどうしようもなく時間がかかりそうなとき「終わらない手術はない。ゴールには近づいている」という信念でやっています。

数年前、仕事に夢中になりすぎ精神の風邪といわれる状態になってしまいました。先輩の医師にお世話になり心配も掛けましたが、おかげさまでほぼ軽快いたしました。大きな仕事上のストレスがかさなり、そのときはそうでもなかったのですが、ボディーブローのように徐々に精神にダメージを受け、気づいた時には「これは何だ？！」という状態でした。主治医の勧めで仕事量を減らし内服治療とカウンセリングで徐々に回復してきました。本当に回復を実感したのは２年ほどたって病院対抗のバレーボール大会があり大きな声で応援したのがきっかけです。声を出すことはいいことです。同級の浜田みたいに言いたいことを言う破れ口ならもっと精神的にいいのかもしれませんが、なかなかそうは行きません。

その後、散歩から体を動かし始め、１年半前より水泳を始めました。30分ほど離れた苓北町の温水プールにドライブを兼ね週１～２回のペースで通うようになりました。天草育ちですが家は海から程遠く、中学までは水泳というよりも川遊びくらいで、高校になって初めてプールでの水泳を授業で習ったくらいでした。また泳ぐのも30年ぶりのため最初は有酸素ならぬ無酸素運動そのもの、またおいしくないプールの水もしこたま飲んでいました。そのうちプール仲間の近くのおっさん、おばさんからプールのサウナでつり情報、魚のさばき方なども聞かされるようになりました。熟年者の数人は、後ろにレタスや農作業器具のはいったコンテナをつんで50cc のカブでプールがよいをしています、が、その泳ぎのきれいなこと。スイスイと泳いでまたカブに乗って帰っていきます。これこそメタボリック対策の理想の形と感心させられることしきりです。

１年を過ぎたころよりやっと泳ぐことが楽しくなり、今年の４月から近くの会員制のプールに入会しました。家ですこしなが風呂をしたようなかんじで仕事帰りに30分ほど泳いでいます。水泳は筋肉のストレッチを兼ねているようで、泳いだ後の疲労感が心地よく感じます。

運動は、陸上、バドミントン、テニス、ジョギングなどいろいろやってきましたが　今回のことで精神のリフレッシュに体を動かすことの大事さを実感しました。たくさんの方にお世話になり心配も掛けましたが、運動が自分を助けてくれたところも少なからずあります。

最近、人に役立つ仕事があり、それに運動と芸術があれば申し分無しかなと思っています。欲張りでしょうね。卒業して30年、そろそろあちこちにがたが来る年頃です。がたが来ている人もこれから迎える人も、体力に応じて適度な運動をやっていきましょう。

熊大バドミントン部の発展を祈念いたします。

中年諸氏へのバドのススメ

昭和53年卒　　吉永　　健

熊本高校でバドを始めてはや40年。アキレス腱切断と50肩で半年ずつ休止した以外は、いつもバドと二人三脚であった。けっして体力、気力、技術のどれをとっても秀でたものはないが、羽を追うのが楽しくて50半ばの今も週１～２回は体育館に足を運んでいる。

二十歳前後の10年間は競技としてのバドミントンに明け暮れた。インターハイ団体県予選で九学に決勝で負けて全国大会に行けなかったこと、医学部に入学して１年目に浜田先生と組んで長崎大学の白浜・古河組に３回続けて負けたこと（九山、西医体、全医体）、西医体初優勝（在学中計３回）の感激、全学で九州学生リーグ１部優勝（５年生でした）、などなど学生時代にはたくさんの思い出がある。

医師になってからは不規則な生活と急激な体重増加でバドの回数は月１～２回に減ってしまった。それでも西日本医師バド大会には必ず参加しており、真夏の体育館で学生時代のライバルと羽を追いかけ、そのあと酒を酌み交わすのが大きな喜びであった。

50歳になってから再びバドとの付き合いが深くなった。これは入院患者の担当をはずれて、いくらか時間に余裕ができた事がひとつ。もうひとつの理由はご近所さんとの付き合いにある。５年前に自宅を白山小学校の近くに移転したが、近所に小学校の幼なじみがいて、その彼に地域のバドミントンクラブに誘われたのである。幼なじみの彼やほかのメンバーもほとんど素人同然の人ばかり。そしてもうひとつの特徴は夫婦連れが多いクラブである事だった。

私の家内は全くバドをやった事はなかったが、白山クラブは素人が多かったのが幸いして、50の手習いでバドを始めた。皆さんご想像どおり、クリアが飛ばない、バックハンドができない、フットワークはよたよたという家内であるが、このクラブのよいところはアフターバド（要するに焼き鳥屋で一杯）が充実している事である。それが支えとなって、今も毎週土曜の７時半に夫婦仲良く体育館に通っている。最近は特訓の甲斐あって、ミックスの前衛はいくらか上手になってきており、バドの楽しみもちょっぴり味わっているようである。

このクラブに通うようになって、医療関係者以外の方々と付き合あえるようになったのは大きい。医療に対して一般の方々は色々な誤解をしていることもよくわかった。なにしろ幼なじみでもあり、アルコールが入ってくると遠慮のない発言がどんどん出るのだ。医療界を代表して釈明をしている気分になる事もしばしばだが、率直な意見を聞ける事はありがたい。これもバドの効用であろうと感謝、感謝。

中年諸氏よ、バドをお勧めする。私はこれからも足腰たつうちは羽を追いかけて走り回るつもりである。

昭和54年卒　　柴田　三郎

私は昭和48年入学ですが、入学式の前だったと思います、家に電話がかかってきました。高３時の同級生である濱田泰之先生からです。“バドミントン部に入らんね、竹口（同じ高３時の同級生）もおるけん”とのことです。はっきりいってバドミントンには何の興味もありませんでしたが、何かのクラブには入ろうと思っていましたし、またラケットもくれるとのことでしたので、入部したしだいです。

私は入学当時、体重が75kgとかなりの肥満でしたが、バドミントンがどういう競技かよく知らなかったため、特に不安なく入部しました。ところが、我々初心者の練習といえば、素振りとランニングのみで、特にランニングは立田山の展望台までの往復なのですが、全くついていけず、展望台まで行き着くことが出来たのは入部後半年のことでした。そんなわけで、ランニングの度にいつやめようか、いつやめようかと思ったものでした。ただ私は気が小さかったため、辞めますという一言がいえず、６年間続けたわけです。さいわい、75kgの体重も１年後には60kgとなり、一つの目標であるダイエットには大いに効果があったようです。もしバドミントン部に入部しなかったら全く違った人生になったわけで、本当によかったかどうかはわかりませんが、友人関係はバドミントンの連中が第一であり、現在の趣味もバドミントンのみであることを思うと、今の自分からバドミントンがなくなれば、非常に悲しい状態であることだけは確かなようです。

現在、荒尾で週１～２回程度やっており、実力的にはバドミントンを始めて半年くらいのレベルですが、

それなりに楽しくやってます。ただいつまで続けられるかわかりませんので、別の趣味もとは思っていますが。

熊本大学医学部バドミントン部創設50周年に寄せて

昭和54年卒　乃木田　俊辰
（旧姓　陳）

このたびは、熊本大学医学部バドミントン部の創設50周年、誠におめでとうございます。私は、昭和48年に熊本大学に入学し、昭和54年に卒業し、現在は、東京、新宿で皮膚科を開業しています。

当時のバドミントン部時代をふりかえると、正直言って、辛いことばかりです。また、不真面目な部員で、練習後は、特別練習もせず、すぐに帰っていました。東京から来た私にとっての初めての強烈な印象は、歓迎コンパでした。まったく酒など飲んだことのない自分にとって、先輩方の日本酒？焼酎？をおわんについで、新人が飲み干す光景をみて、これはできないと、咄嗟に判断し、お酒をつがれたおわんをテーブルの下に隠し、飲まないようにしたことです。確か、その時は、見つからず、難をのがれました。しかし、廊下で突然、ある先輩に会い、訳も無くひどく叱られたことも覚えています。大変なことになったと感じていました。高校時代もバドミントン部に属しており、練習、試合の辛さは身にしみてわかっており、大学に合格したら、二度とバドミントン部には入らないつもりでいましたが、ふらふらと、体育館でのバドミントン部の練習風景を見にいき（なんとなく懐かしく思ったか）、魔がさして、入部してしまいました。その後は、ハードな練習、特に、毎回の竜田山までのランニングはこたえましたが、徐々に慣れ、本気でTOPを目指すようになったことも覚えています。その訓練の成果で、開学記念日の阿蘇マラソンも完走することができました。しかし、肉体と精神の極度のストレスで、当日、航空券を購入し、そのまま東京の実家まで帰ってしまいました。合宿もよくできたと思っています。初日が終わった時から、もう、すぐに帰りたいと思うのが毎回でした。

バドミントン部で良かったと感じることができたのは、卒業し、大学病院での研修中でした。それは、研修医としての毎日のハードな仕事をこなすには、もやしのようなひ弱な肉体では、医者として到底生き残れないと感じたからです。バドミントン部で知らずに鍛えられた肉体と精神（忍耐力、持久力、瞬発力）がここで生かされたのです。熊本大学の皮膚科で６年（皮膚科専門医）、その後は地元の東京にもどり、東京大学（医学博士号）、そして東京女子医科大学（助教授）を経て、現在は開業医として、なんとか頑張ることができるのも、バドミントン部での訓練があったからこそと、感謝しています。

不思議な縁と思いますが、長女は東京近郊のＫ大学の医学部のバドミントン部に入っています。私にはまったく相談なしで、そして、ルールも知らずに試合にでたりしています。どこまでやりぬけるか心配です。

熊本大学医学部バドミントン部のますますのご発展を祈念しています。

そうは問屋がおろさない？バドミントンとともに

昭和54年卒　　片渕　美和子
（旧姓　岡）

高校３年の時、わが天草高校の理系クラスは女子が６人しかいなかったため、体育の時間といえば大好きなハンドボールではなくおもしろくないバドミントンばかりであった。「二度とせん！」と思ったものだった。大学に入りあまりの退屈さに、同級生の木村君に誘われ、バドミントン部練習の見学にふらりと訪れたのが運の尽き（？運の始めかもしれない）であった。彼は「何でも良いから、とにかく女を入れろ！」という指令を受けていたらしい。次年度以降の団体戦に出るためのメンバーが必要だったのである。

初めてあんなバドミントンを見た。「バドミントンの羽はこんなふうに飛ぶんだ」と驚き、そのように打っている部員の姿がとてもかっこよく思われた。それから黒髪の体育館で他の学部、看護学校（現在の医学部保健学科）、さらに女子大（現在の県立大）のバドミントン部員とともに６年間を過ごした。おそらく色々な人のいる部の居心地が良かったのと、「何か続けよう」という意地があったのだろう。学部の講義などへの出席は必要数ぎりぎりで済ませた。全学の試合に出掛けて実習を休んだら「ここは体育学部ではない」と当時の産婦人科の助教授に叱られた。しかし体育館や部室への出没は必要以上であったので、単位が十分に取れたのかは不明ながらも、バドミントン部卒業を任じている。

さてそのバドミントンである。とにもかくにも「ひどかった」の一言に尽きる。頑張ってまじめに練習すれば、順調に成長して結果が出るほど、バドミントンは甘くない。そうは問屋がおろさないのである。期待の（？）女子部員であったにも拘らず、松本先生をして「こりゃだめばい！」と言わしめたのであった。ところが本人には「こりゃだめばい」と言う予後不良の病識はなかった。練習を止めることもなくひたすら続けたのだったが、「知らない」ということは恐ろしい、と今にして思う。どんなに頑張っても平均点すら取れない分野であるのに、なぜあんなに続けられたのだろう、と不思議でもある。

確かに「豚もおだてりゃ木に登る」の転機はいくつかあった。メンバー不足で全学の試合にもレギュラーとして出ることができたこと、医学部の試合で「勝つ」という経験ができたこと、などが挙げられようか。大きな誤解なのだろうが、頑張れば何とかなるのではないか、と思ってしまったのである。今と違って参加大学もまだ多くなく、時代も味方したのであろう、それなりの結果を残すことができるようになった。

試合はやはり団体戦での勝利が嬉しいものだ。４年生のとき、初めて女子後輩ができ、１年生のテニス経験者の神川勢津子さん（現姓・山本）とダブルスが組めるようになった。団体戦に出る、こんな嬉しいことはなかった。おまけにその初めての九山大会で団体優勝してしまった。５年・６年では九山大会・西医体・全医体すべて団体優勝できた。彼女はその後順調に成長し、その記録を伸ばしてくれたようだ。やはりセンスのある人は違う。

それから約30年、「お母さん、前から見ても横から見ても同じ太さ」と言われ、ジム通いと相成った。「バドミントンができるように」を目標に、ようやく学生時代の体重に戻った。しかしコートに入ってみると、またもやそうは問屋がおろさない。確かに「こりゃだめばい」だったんだなあ、と思うこの頃である。

思い出話

昭和56年卒　魚住　秀昭

クラブに関する思い出は大きくふたつ。一つは入部したての１年生時代。

－　バドミントンはそれまで体育の時間でラケットを振ったくらいでルールも知らないずぶの素人でしたが縁あって熊大バドミントンに入部の運びとなりました。その時代は本学バドミントン部としての部活であり、医学部の活動は九州山口大会及び西医体の試合の時だけ医学部のチームになるといったものでした。本学と一緒というとかなりハードな練習を想像し、運動経験のないこの身は長くもたないかもと思っていました。しかも我々の学年は一時50人を超える新入生がいたと記憶しています。（それゆえ肩たたきのための基礎トレーニングが多かったような...）　僕の同級生といえばおとなりのフランス語選択クラスの瀬戸君でした。ばりばりの鹿児島県人ですが体格は似たり寄ったり。同じ学部の同級生がいなければたぶんドロップアウトしていたでしょう。それにしても入部してから半年ほどのトレーニングのきつかったこと（標準語では“つらかったこと”の意）。高校生時代は望遠鏡を担いで天体観測に登った立田山を武夫原（漢字が思い出せなかった）から競走し、地獄坂とよばれる斜面でダッシュやらなにやら..。ほんの最後の５分だけシャトルを打たせてもらった記憶ありですね。今だったら続かないかもですが当時それこそ金はない、今の時代のしゃれた遊びもないということで莫大な時間をクラブ中心で過ごしましたね。

－　そしてもう一つは...　最終学年となった６年生。

６年の春、大学生として残る大会もふたつ。春の九山、夏の西医体。勉強も忙しくなっていたけれど変に頭がさえ、勉強もそこそこに空いた時間を練習に振り向けていました。最後を優勝で飾りたいという思いはとても強いものでした。６年生の春の九山はどんなだったかまったく覚えがないんです。たぶん優勝はしていない。どこかに負けて準優勝だった気がします。春の雪辱と有終の美を飾るべく夏の岡山へ...。たしか準々決勝にて地元岡山大を下し、準決勝では当時の大分医科大とあたりました。大分は若いチームで勢いはありましたが春の九山ではあっさり勝っていたこともあり、負けるという意識は持っていませんでした。しかし、結果的には決勝進出を前にして敗退です。あっけないものです、負けを考えてもいなかったゲームで散ったのですから。呆然としたまま三位決定戦にまわったのを思い出します。“油断大敵”、“勝負は下駄をはくまでわからない”という言葉の勉強をさせていただきました。くやしいのなんのって。これがいまでも鮮明な思い出として残りバドミントン部卒業となりました。

社会に出て早いもので27年、いまも肝に銘じていますよこの言葉。

バドミントンの思い出

昭和56年卒　瀬戸　弘

昭和50年から56年に在籍していたものです。当時はバドミントン部は全学といっしょに黒髪で練習をしており、かなり体力と根性を鍛えられた気がします。医学部では大先輩の浜田さん、竹口さんが専門の３年生で活躍しておられ、他に吉永さん、林田さん、柴田さん、女性の岡さん（現在の片渕さん）も、全学の試合にも出て活躍しておられ、すごいなと思っていました。

私はバドミントンには全くのドシロウトで入部したのですが、昔軟式テニスをやったことがあり、ラ

ケットを使う感覚はわかっていたつもりでした。しかし、入部してみるとなかなかうまくならないし、はじめはまずは素振りとランニングなど体力作りのトレーニングの日々でした。夜は先輩に連れられ、下宿荒らしをしながら飲み歩いたりしました。立田山で朝を迎えたこともありました。今考えると、ぞっとするような日々でした。トレーニングはきつかったですが、ダッシュやマラソンでなんとか先輩や同級生に勝とうと必死になったことを覚えています。阿蘇からの60km遠歩に何回か参加したこともありました。医学部のバドミントンでは魚住君とダブルスを組むようになり、少しずつ上達はしてきていましたが、私はあまりに練習と酒にのめりこんだため、しばしば再試験を受けるはめになり、専門の1年生および3年生に上がるときは留年の恐怖がいつもよぎっていました。なんとか危ない橋を渡り終え、どうにか卒業できたのですが、当時同じバドミントン部の女子から、「そんなにバドミントンばっかりやってると留年するよ」と忠告を受けたことを覚えています。とにかく当時の飲まされ方は半端じゃなかったので、それを私も後輩に教育しながらつぶれた後輩を先輩の病院には担ぎ込んだこともありましたが、幸い重症者はいませんでした。今だと大変なことだと思いますが、、。

なんやかやしながら、強い先輩方や全学の強い同級生（本田君：西日本学生チャンピオン）等に恵まれたこともあり、私と魚住君もなんとか医学部の試合で上まで残ることができるようになりました。専門の3年生のときはシングルで魚住君と決勝戦をやりました。4年生のときもシングル優勝でき、ダブルスもはじめて優勝できました。しかしながら、私たちは自分たちが幹部のとき、団体戦は一度も優勝できず、先輩から怒られたことを覚えています。もう、他の詳細は覚えていませんが、あの頃、鍛えられたことが今日まで仕事で辛い時にも耐えられているのかな？と思います。

社会人になってからも、時々バドミントンをする機会があり、試合で先輩や後輩に会うときはうれしく思います。現在、鹿児島県の出水市というところにおり、16年目になりました。こちらにきて1年目にバドミントンの試合で左足のアキレス腱を切ってしまい、手術しましたが、その後はマラソンに出たこともあり、元気でやっております。現在、こちらの公立病院で院長をさせてもらっており、医師不足問題で悩まされております。どうかバドミントンもできますので、診療科にかかわらず出水に行きたいと思われる方、ぜひご一報ください。特に内科の先生を募集中です。よろしくお願いいたします。

体育館で過ごした青春時代

昭和56年卒　　興津　貴則

生まれ育った熊本を離れて20年が過ぎてしまいました。海と山に囲まれた風の町下関は、古来より文化交流の町であり、源平、毛利、厳流島、明治維新と大河ドラマには欠かせないところです。下関厚生病院整形外科研修医から部長になり、創部したバレー部をバドミントン部に移行し、現在も部活動を続けています。平成18年には下関リハビリテーション病院院長となると同時にバドミントン部を作り、月曜（厚生病院）と水曜（下リハ病院）で練習しています。

中学高校はサッカー、大学はバスケットで、現役引退後、隣で練習していたバドミントン部に顔を出すようになり、いつしかOBみたいになってしまいました。当時、西日本一位の本田君がいて、夏休みに東日本一位の石黒君（NHK解説している）や陣内貴美子さん訪ねてきていました。学生幹部はバイトもせずに日曜の朝から先輩が練習に来るのを部室で待ち、入れ替わる先輩の相手をして夜遅くまで練習してい

ました。そのひたむきさを今でも心に感じバドミントンに対する情熱がさめず、娘たちが皆バドミントンをしています。学生時代、暇暮らしをしていた私の相手をしてくれた皆さんありがとうございました。今の自分をつくりあげてくれた熊大バドミントン部に感謝しています。これからもがんばってください。

昭和59年卒　　後藤　良三

医学部バドミントン部創設50年、大変おめでとうございます。

自分がこのような長い歴史のある部の一員であったことを思うと、非常に感慨深く改めて誇りに思います。

さて、私の学生時代はバドミントンとは切っても切れず、学生生活＝バドミントンと言っていいほどでした。当時医学部は全学と一緒に練習していましたので、毎日の練習はとてもハードなものでした。しかし、一生懸命練習した割にはうまくならず、先輩方にはいつもお叱りをうけていました。選手としては殆ど貢献できなかった私ですが、一つだけ微力ながら役に立ったと思うことがあります。それは私の学生時代に熊本で西医体と初めてのOB選手権が行われた事です。私は前年の主将でしたが、そのままバドミントン部門の責任者を引き受け、前年の西医体後さっそく会場探しを始めました。しかし水前寺体育館はすでに予約が入っており使用できません。当時大きな体育館といえば水前寺体育館くらいしかなかったので、どうしたものかとあわてましたが、いろいろ探し回りやっと商大付属高校体育館を借りることが出来、熊大体育館と商大付属高校体育館を中心に開催にこぎつけました。開催途中、２日目に雷のために商大付属高校体育館の照明が全部消えるというアクシデントがあり、あわてて残りの試合を熊大体育館に移し難を逃れたということもありましたが、何とか西医体もOB選手権も無事に終えることができました。この時、当日の実際の運営では全学の皆の全面協力を受け、大変世話になったと感謝しています。

最後に、バドミントンという競技は大変厳しいものでしたが、それをやり遂げたという自信はその後の人生に大きく役立ちました。改めてバドミントンをしていてよかったと感じています。

昭和60年卒　　吹上　忠祐

昭和53年初心者で入部しました。教養で単科留年して、いろいろあって１年間休部しました。切りがいいからもうバドは止めようと思ったのですが、行き掛かり上残り４年間卒業まで在籍しました。

思い出に残る大会、試合いろいろあります。医進１年の昭和53年西医体での柴田先生が個人単優勝、岡先生・神川先生による団体優勝、個人単優勝、準優勝、複優勝、そして医進２年の昭和54年西医体での岡山大学との団体戦など印象深いです。このときは魚住先生が主将をされ、背水の陣で臨まれた団体戦でした。今でも瞼を閉じると熱戦を繰り広げられた先輩方の姿が当時の若々しさでヴィヴィッドに浮かんで来ます。

次は私事で、学２の８月熊本で西医体開催。部員７名で大変でした。この人数で西医体の練習に加え、後藤先生が中心になり宿泊関係、試合会場設営、試合組合せ、日程調整など大会運営準備に追われました。結果ですが、団体戦はトーナメントで大分医大とあたり、私と後藤先生で、まず勝ちはないと思っていた

中村・宮崎ペアに勝ちました。欣喜雀躍、狂喜乱舞したことがまるで昨日の事のようです（すみません、レベルの低い話で）。でも、結局取りこぼしがあり、この団体戦は落としました。個人複ベスト8（後藤・吹上）、個人単4位（吹上）でかろうじて面目を保ちました。二塚先生はじめ諸先輩方、全学バド部員が多く観戦されている中、結果が残せず残念です。歴代の綺羅星の如く輝かれる諸先輩方のつくられた医学部バドミントン部を次の時代を担う後輩の安部先生、水本先生にバトンタッチすることができました。

部在籍中は先輩後輩の皆様に大変お世話になりました。有難うございました。最後に、私がバドをしなければ殺されなかったであろう多数の「水鳥さん」多くの羽を使わせてくれて有難うございました。

50周年に寄せて

昭和63年卒　　安部　利彦

熊大医学部バドミントン部の夏は過酷であった。6月下旬から8月上旬までの2ヶ月間の間に九州学生、熊大選手権、九州インカレ、西日本学生、西医体と5つの大会に出場していた。夏休みになると、医学部早朝ランニング、立田山登り、午前体育館で練習、午後OB挨拶回り、夕方全学の体育館練習、夜には先輩方とバドミントン談義とバドミントン漬けの日々が続いた。その中でも印象に残っているのは、2年時の西医体準優勝である。予選リーグから勝ちあがり決勝まで勝ち上がった。決勝で吹上・安部組、中嶋・永瀬組がともに1 stゲームを取ったのであるが、ともにフルセットで負けてしまった。このときは十二分に実力を発揮したと喜んで帰熊した。しかし西医体報告会で盛り上がりに欠けていた。熊大には過去に2度の黄金期があり3度目の呪いもある、「盛り上がるためには優勝せなんばい」と吹上、中嶋さんから言われた。

3年時は西医体優勝と思いきや準優勝に終わった、ペアを組んだ吹上さんが最後の年であったので誠に申し訳ないと思った記憶がある。4年時中嶋、永瀬、安部、水本の4人で西医体優勝し、その勢いで全医体も優勝した。全医体優勝した日の夜、懇親会があったのであるが、一人宿舎に残り静かに優勝トロフィーを前に想いを馳せていた6年生中嶋さんの姿が今でも印象に残っている。昨年亡くなられた中嶋さんのご冥福をお祈りいたします。

5年時は同級の弥永が加わり、2連覇を達成した。30周年目であったため西医体優勝カップを永久に手に入れることが出来た。6年時は安部、弥永、水本、本田の4人で臨んだのであるが3連覇ならず準優勝に終わった。この間、九山団体戦は4連覇していたのであるが、印象にほとんど残っていない。先輩方の励ましがなければあの夏を6度も経験できなかったであろう。先輩方、同輩後輩に感謝します、熊本大学医学部バドミントン部の今後の繁栄をお祈り致します。

3．平成の時代

好きだからできた

平成４年卒　　水本　圭彦

僕は学生時代にはバドミントンが上手くていいですねってよく言われたものです。しかし、僕なりの苦しみや挫折の日々も多々ありました。大学へは浪人して入学したため、高校時代のスピーディーなプレイとは正反対の重ーく遅ーいプレイでした。気持ちだけが先走り、いいストロークは打てず、浪人時代の体重増加と運動不足からくるハンディーを短期間で仕上げるなど到底できませんでした。不安だらけの医学部九山が入学後最初の試合でしたが（全ての先輩から楽に３冠とれると言われていたため）疲労困憊の３日間でした。運良く３冠とれましたがしばらくは歩くことすらやっとだった記憶があります。連休直後の県学生選手権、九州リーグ、九州学生選手権と試合は続き、最後は真夏の西医体とまさしく満身創痍の状態で戦ったものでした。勝利という結果を求められる立場はかなりのストレスであり試合期間中は不眠も多く疲労の蓄積は相当なものでした。そんな状況でも部活動を続けることができたのはやはりバドミントンそのものが好きだったからでしょう。実際、結果よりもプレイ自体が好きで相手をフェイントで誤魔化し、多くのギャラリーが沸くのを快感に思っていたような気がします。

安部先輩との黄金時代も終わり、本田君と２人になったときには、さすがにへこたれました。もうー、バド人生も終わりかなあ？　年とってシングル１本かあ？　試合の時も基本練習すら不安だし・・・。団体も出場できず、ダブルもきっとダメだろう。目標を一時失った時期だったと思います。しかし、本田君がいるから、あいつが頑張ろうとしているから（彼は本学の主将だったため）、いっちょやってみるかと始めたトップ＆バックの非典型のダブルス。最初は皆から笑われました。ほんと、ジョークの世界で、勝つなんてとてもとても・・・。ところが、本田君はめげずに僕の指導通りに練習をこなしてくれました。毎日毎日、２時間以上のフットワークとサーブ、そしてダッシュ。それ以外の練習はわずかでした。ただ、ただ、この積み重ねが、この地味な練習が最後に大輪の花を咲かすことになるのでした。１年目は西医体で３位、我々の攻略法を合宿で教えてあげた佐賀の後輩に負けました。２年目は弟子の後輩達が相次いで途中で敗れ、中四国チャンピオン、近畿東海チャンピオンを撃破して（翻弄して！）優勝できました。たった２人の僕たちを九山の弟子の後輩達、他大学の多くの
方が応援してくださり、優勝決定直後、彼と抱き合ったのは鮮明に覚えております。彼は泣いていました。今回、言いたかったのは、ひとつの競技を好きになり、目標を持って努力すればそれが人生において幸いであるということです（結果は様々ですが）。そしてこの部は最高の先輩方、後輩達により永遠に発展することでしょう。僕ももうしばらく監督として頑張りますね。　　お・わ・り

部員が1人だった時の状況

平成5年卒　　本田　雅博

熊大医学部バドミントン部創立50周年おめでとうございます。それぞれの部員は、同じ時期に在籍した他の部員と様々な思い出を共有し、人生上の貴重な財産になっていると思います。それは仮に文章に記録しなくても、現在再興した部活の大人数で語り継がれていく事でしょう。

しかしながら、部員が1人だった時の状況は、少なくとも現役部員として、私以外に目撃した人間はおらず、私が考えていた事を知る人もいませんでした。この際ですから、記録も殆ど残っていない当時の事情と私の気持ちを書き、抜け落ちた空白期間の情報を補足しておこうと思います。

昭和61年4月の入部当時、医学部バド部は実体として存在せず、全学バド部に所属する医学生が、九山と西医体の時にチームを編成しての活動でした。私は、昭和62年11月に全学バド部で主将を拝命し、昭和63年秋に五大学の学連で委員長に就任しました。平成元年8月には卒業学年の水本さんと一緒に西医体に行き、幸いダブルスで優勝する事が出来ました。その後、私は「部活存続」との至上命題を遂行する立場となりました。

当時、数年前より、全学バド部での退部者を「九山と西医体だけでも参加」として医学部バド部の部員と解釈し、廃物リサイクル同然の人員補填が行なわれてきました。この事が、一部OBOGから「医学部だけのクラブでは、精神が腐っていく」などと再発足後も非難された原因だと、私は受け取っています。しかし、誤解のないように説明しますが、そんな腐った部員がクラブを再興した訳ではありません。

当時の状況は、まるで経済的デフレスパイラルのような状態でした。

部員が少ない　→　引きとめる人が少ない　→　すぐに退部する　→　クラブを弁護する人が在学していない　→　部活の事情でウソを言っても外部の人は信用してしまう　→　退部者は安心して部活の悪口を言う　→　さらに入部者が少なくなる

こんな下降トレンドから脱するのは容易ではありません。なぜなら、小手先の対応ではなく、トレンドそのものを反転させる必要があるからです。私は「株価底値作戦」と名付けたショック療法を考え、クラブの再興を図りました。即ち、一旦は恐れず底打ちさせ、これ以上の下は無いどん底の状況から、善循環の開始を目指す方法です。勿論、上昇に反転するよう持っていく事は非常に困難で、博打同然でした。

まず行なった事は、あてにならないリサイクル部員に対し、踏み絵を迫る厳しい対応です。すると連中はたちまち「再」退部し、その時点で医学部バド部の部員は私1人だけになりました。次に、医学部バド部を形式的ではなく実体あるものにするため、部活についての基準を、生々しい言い方をすれば「おきて」を作りました。

1．部活が軌道に乗っても、全学バド部との再合併をしない。
2．全学の時代でも部活分離後でも、一旦退部した者は再入部させない。
3．部員か否か不明な者を存在させない。
4．再興責任者の本田が先に精神的疲弊に陥らない。

部員が1人の時は、幸い（？）私が留年しており、時間がふんだんにあった事から、このような遠大な計画を立てる事が出来ました。活動の場所は全学体育館から移し、宮川洸平先生の好意で熊本精神病院の体育館を使用する事が出来ました。平成3年2月には、在学中の鷺島そして赤坂が入部し、それを土台に同年4月には、井上、西、坂田と、後に再興バド部を引っ張って行く有力部員が次々と入部して来ました。

この時期は、私が部活に在籍していた期間で最も幸せでした。この時期の事を思い出すと、廃部恐怖の苦しみと再興時の喜びに、文字通り涙が止まりません。

話が少し前後しますが、私が今でも忘れられないのは、平成２年６月の九山報告会です。出席者は、二塚先生（部長）、松本先生（OB 会代表世話人）、浜田先生（当時監督）、柴田先生（次期監督）、水本さん（卒業直後）、本田（主将で一人部員）の僅か６人だけであり、料亭いけす丁半で「どうやったら部員が入るとかね〜〜？？」と全員が猫背で暗い話をしていました。その後１年間、私は地獄の思いでクラブを作りましたが、そんな状況でも二塚先生と松本先生には絶え間ないご助力を頂きました。また、オールマンの中野さんには、外からの視点で数多くの貴重な助言を頂きました。お世話になった方々に感謝を述べ、筆を置こうと思います。本当にありがとうございました。

バドミントン部の思い出

平成７年卒　　赤坂　威史

平成７年卒の赤坂威史と申します。私は高校生時代にバドミントンをしており、本田雅博先生（平成５年卒）に大学入学時に入部を勧誘されました。当時のバドミントン部は全学と一緒に練習が行われており、練習が厳しいというイメージを持っていました。私はのんびりした学生生活を送りたいと思っていたため、その勧誘をかなり冷たく断ったような記憶があります。

その２年後に、医学部部員が本田先生だけになってしまい、練習を医学部単独にするという勧誘を受けました。「医学部単独なら練習が楽かも」という不純な動機もありましたが、その頃の私はまたスポーツをやりたいという気持ちがあったため、４人の１年生男子部員と共にバドミントンを再び始めることにしました。今思えば、クラブ特有の人間関係が恋しくなっていたのかもしれません。

私は主将も務めさせてもらいましたが、試合での成績は散々なものでした。今でも、先輩方の輝かしい戦績をお聞きするたびに恥ずかしい思いをしています。「部員を減らさないため」ということを言い訳にして、自分に厳しい練習を課さなかったため、当然の結果でした。しかし、弱いなりに練習の計画を立てたり、後輩は自分の計画についてくるだろうかと迷ったりしたことはいい思い出です。

戦績はひどいものでしたが、私はバドミントン部に入って本当に良かったと思っています。すばらしい先輩方と出会えたこと、多くの後輩が入部してくれて、途中で辞めずにクラブを続けてくれたことに本当に感謝しています。ほかの大学にも友人が出来ました。バドミントン部に入っていなかったら、私の学生生活は人との出会いの少ない貧弱なものになっていたかもしれません。クラブで出来た人とのつながりはいい思い出であり、いつまでも続いていくものだといつも思っています。

平成12年卒　　井形　元維

自分が主将を務めた1997年の春に熊本で九山が開催されました。このとき全体の主幹は大分医科大学だったのですが、その数年前に部員が少なかったということで熊本開催を断念した経緯があり、その代わりということで我々が主幹をすることになったのでした。同級生の田爪を責任者としてみんなで１年前か

ら準備にとりかかりました。この年は確かハンドボールの世界大会が熊本で開催されたこともあり、体育館の確保に非常に苦労したことを覚えています。松本先生にも力をお借りして何とか体育館を確保することができました。レセプション会場探しにも苦労し奔走したこともよく覚えています。会場によっては芸で行えることの制限があったと思います。最終的に少し距離はありましたが、今はなき神水苑ホテルにてレセプションを行いました。確かうちの部が芸の「とり」を務めましたが、足立、玉ちゃん、北村らによる芸を今でもよく覚えています。またこの年は新たな試みとしてコメディカルの試合も同時開催しました（その後はたしか開催されていないと思いますが・・・）。残念ながら試合に関しては良い成績を残した記憶はありませんが、大きな仕事をみんなでやり遂げたことはいい経験であったと思います。

その他試合以外でもたくさんの思い出がこの部にはあります。その中でもやはり飲み会が一番印象的でしょうか、飲みすぎて点滴を受けたこともありました。また春には熊本城での花見・強化合宿、夏にはキャンプ、秋には本九祭で出店など季節ごとの行事もありました。強化合宿は山鹿、人吉、水俣と県内のあちこちに行きました。練習の合間にはサッカーや野球、バレーボールをしたり、夜は遅くまで話し込んだり、本田先生がいつも差し入れを持ってきてくれたり、と今思い返すと本当に楽しかったと思います。まだまだ書き足りないことがたくさんありますが、このバドミントン部を通じてたくさんの先輩・後輩と出会うことができ、共有する時間を持てたことに心より感謝しています。

平成15年卒　　足立　博紀

平成15年卒業の足立博紀と申します。12年度のキャプテン、11年度の副キャプテンを務めさせていただきました。拙い文章で恐縮ですが、医学部バドミントン部での６年間を振り返りたいと思います。

中学校で実はバドミントン部に入部したのですが、その時は１年しか続かず、その後バドミントンはおろか運動自体に無縁な日々を送っていました。しかし、大学入学の日に、井形先輩方に勧誘していただいたおかげで医学部バドミントン部に入部しました。当初はバドミントンより部活後のビールの方にひかれていましたが、日々の練習や試合を行っていくうちにバドミントン自体の面白さにも目覚め、本学のバドミントン部の練習に混ぜてもらうなど、金曜以外はバドミントンをしているという立派なバドマニアになっていきました。

入部時は比較的少人数であった医学部バドミントン部でしたが、先輩方の勧誘の努力が実を結び、私がキャプテンをさせていただいた時には30人を越える大所帯になっていました。その後の西医体で見事優勝を果たした田尻・中塚もちょうど１年生に迎え、強いバドミントン部にしたいという思いで１年間臨みました。厳しい面もあったかと思いますが（キャプテン引退後に後輩達のぼやきを度々受けました）、みんな一生懸命練習に励んでいて充実した１年間を過ごさせていただきました。

６年間で一番思い出に残っている自分自身の試合は、やはり最後の西医体です。春の九山は、怪我で悔しい思いをしたので、満足とまではいきませんでしたが、最後まであきらめずやることが出来てよかったと思っています。

私事で恐縮ではありますが、バドミントン部で知り合いともに幹部をした旧姓菊川芙美と結婚し、昨年娘が生まれました。妻の理解もあり、私の唯一無二の趣味がバドミントンとなっています。代謝内科の大学院生になってからは宮川先生率いる熊本青明病院での練習に週２回参加させていただいており、仕事等

で参加できない時は体調が思わしくありません。

バドミントン部には大変感謝しております。OBの先生方のように還暦を過ぎてもなおバドミントンを続け、医学部バドミントン部を応援していくことが私の目標です。

バドミントンと私

平成16年卒　須加原　一昭

ちっさなころから運動嫌いの私とバドミントンとの出会いは中学校に入ってからでした。友達に誘われ、出水中のバドミントン部に入ったのが最初です。中2の山鹿中では山鹿市のチームで社会人に混ざって練習していました。中3の時は楠中でたった3か月でしたが、中体連では団体戦で出水中に当たるなどの体験をしました。高校時代は熊高バドミントン部に所属、OB会などでいろんな先輩方ともお会いしていたはずなのですが、当時はそのありがたさなど、知る由もありませんでした。

というわけで、なんだかんだでバドミントンを継続。熊大に入学した際はその年のドラフト1位でスカウトされました。しかも、前代未聞の11人が入部するという事態に。生まれて初めて期待されたということもあり、練習が楽しくて楽しくてたまりませんでした。しかし、徐々に化けの皮がはがれ・・・。

でも、まぁいいんです。とにかく、なんとかがんばりました。一番の戦績は4年生の春のキャプテン就任直前の九山で岡村先輩とのダブルスでベスト8になれたことくらいです。そして、キャプテンに就任。いろいろ前途多難のように思えたけど、周りのメンバーに支えられて、なんとかうまくいった気がします。同級生が多くて良かったなぁと思いました。

自分自身は、全学の練習に参加させてもらったり、練習前に独りでペットボトル抱えて立田山を走ったり、試合前の4か月間酒断ちをしたりだの、今の自分に爪のアカを煎じて飲ませたいくらいにがんばっていました（効果のほどは不明）。

だけど、なんか分かってきたのは、引退してからです。とりあえずスマッシュじゃだめなんだぁと。身体が動かない分、頭を使ったりする。そうしたら、ますます楽しくなってきました。この春まで球磨郡にいましたが、そこでもバドミントンをしてる人たちがいて、歓迎してもらえること。60代、70代なのにうまい人たちがいる。すごいなぁと思います。そんなんで幸せを感じて、思わずニヤニヤしてしまいます。

というわけで、今後もラケットを握り続けようと固く決意するのでした・・・。

平成18年卒　伊達　泰彦

私は現在京都大学精神科の修練医として勤務しております。京都はこの4月からですが、花の季節にやって来たので木も町並みもきれいですっかり気に入り、勤務はそれなりに忙しいですが充実した毎日を送っております。最近はバドミントンもすっかりご無沙汰でして、土曜に体育館に行き、京大バド部が練習しているのを見て、そういえば京大も強かったなと思い返す程度です。

今回は熊本大学バドミントン部創部50周年という事で、現役のころの写真や後輩に作ってもらったアルバムを見返しつつ、不得手ながらも寄稿させていただきましたが、試合に関する思い出で個人的なものは、

本当に思い返しても苦笑いしたくなるものばかりでして。それを改めて痛感する機会になりました。しかし、自分の残した結果、幹部の時の練習方法などに関しては、あーすればこーすればと思い返すことばかりの一方で、そういったことを後悔しながら思い返す時間もそれはそれで、楽しく感じるものだなと思いました。先輩や後輩とがんばって突破した西医体の一回戦の勝利が、特別なものとして思い出されますし、そういった一体感をもって練習や大会に臨めたことが大事だったのだと思います。これから大会に向けて練習に励む現役のみなさんも、そういった一体感を持って、１つのチームとしてがんばってもらえたらいいなと思います。

遠く離れてはいますが、できればまた、後輩が懸命に試合に臨んでいる姿を見に行きたいと思います。がんばってください。

フットワーク

平成20年卒　　出口　秀治

熊本大学バドミントン部創立50周年、心よりお祝い申し上げます。

先日、佐賀にて行われた九州・山口医科学生体育大会の応援に行って参りました。男子の団体戦を中心に見たのですが、どれも手に汗握る展開・・・勝った試合は全て３－２で、フャイナル試合ばかりでした。興奮しすぎて次の日には熱で寝込んでしまいました。会場で久留米大学 OB の安武先生にお会いし、「自分がプレーするより応援するほうがよっぽど疲れるやろっ」と言われ、まさしくその通りだと実感しました。自分が卒業して初めての九山でした。現役の時ほどはエキサイトしないと思っていたのですが、熱くなる心を抑えきれず、気がつくと大きな声を出し、アドバイスまでする始末でした。本当に現役部員のみなさんお疲れ様でした。

よく学生時代にOB·OGの先生方から臨床研修はきついと聞いていました（最近では松本先生がバドミントンはしばらくお預けで頑張りなさいとご挨拶されます）が、実際にはいろいろな面できついことが身に染みてわかりました。寝不足による肉体的なきつさはもちろん、自分の力不足による対患者、対スタッフとの間で生じる気苦労・・・。もちろん、始まったばかりなのでわからないことばかりですし、自分がミスをするはずはないなどと自惚れた考えも毛頭ありませんが、やはり、周囲に迷惑をかけると落ち込んでしまいますし、その結果精神的に疲れてしまいます。その現状を少しでもいい方向に持っていくために心掛けていることがあります。それはフットワークを軽くすることです。患者さんやスタッフの質問や問いかけにはとりあえず、すぐにその現場に行くようにしています。緊急の薬や注射も時間が許せば自分でしに行くようにしているつもりです。フットワークはバドの基本です。下手でも足が動けばラリーは続きますし、いつかはポイントにもなります。自分は初心者からバドミントンを始めたので、ラケットさばきで勝負したら負けてしまいます。とにかく動いてシャトルを拾い、平凡だけど相手が嫌がる配球をして団体戦で勝負してきました。またバドができるなら外部の練習にも積極的に参加するといったフットワークの軽さも現役時代は意識していました。医療関係者以外の人と出会う絶好の場でもありました。

バドミントンにおいても医療現場においても‘動く’ということが大事だと実感しています。特に自分のような器用でない人間は動いてなんぼでしょう。今後は一人の OB としてバドミントン部の行事へもフットワークを軽くし、ますますの部の発展の一助となるよう努力していく所存です。今後とも何卒よろ

しくお願いします。

僕とバドミントン部

平成20年卒　　高城　克暢

今年の三月に卒業したばかりなので、まだOBになったという実感がわきません。先日佐賀で行われた九州山口大会に応援に行ってまいりました。後輩達の試合を観て、これからの活躍がさらに楽しみになりました。それと同時にバドミントンを好きなだけできる立場にいる後輩達をとてもうらやましく思いました。

僕は四月から熊本市民病院で研修しています。現在外科を回っていますが、一日の大半を病院で過ごし、疲れて家帰るとすぐに寝てしまいます。薬の名前や検査など分からないことばかりで、覚えることで毎日が必死です。たまには練習に顔を出したいのですが、しばらくは無理そうです。今までは当たり前のように好きなだけバドミントンをできていたのが、今はなかなかできなくてストレスが溜まっています。しかしバドミントンはいくつになってもできるすばらしいスポーツなので、これからも時間を作って続けていこうと思います。

現役からOBという立場に変わりましたが、僕がバドミントン部であることは一生変わらないので、これからも報告会やOB戦その他のイベントにはできるだけ顔を出そうと思います。後輩の皆さんも見かけたときは気軽に声をかけてください。

最後に、医者としても人間としてもまだまだ未熟者ですが、バドミントン部で培った人間関係と体力を活かしてこれから精進していきたいと思います。OB・OGの先生方どうぞご指導よろしくお願いします。

部活を通して

平成20年卒　　田上　裕教

熊本大学バトミントン部創立50周年迎えられたこと、心よりお祝い申し上げます。

学生時代適当だった私も今ではそのころとうって変わり、毎日大変忙しい日々を過ごしております。学生の頃あんなにもたくさんあった時間が今ではとても懐かしく思い、あの頃に戻れたらと毎日のように考えたりしています。

先日、佐賀で行われた九山の応援に足を運びましたが、現役部員たちの一心不乱にシャトルを追いかける姿、そして選手の勝利を信じ、声かれるまで応援に徹するチームメイトを見て、後輩部員たちをとても頼もしく思うと同時に、ついこの間まで一緒にプレイしていたはずなのにその当時をとても懐かしく思い出していました。50年もの間バドミントン部が存続してきた理由がわかる気がします。

人はそれぞれ自分の人生の中で輝ける瞬間があり、私にとってその時間は大学生活であり、部員と過ごした時間もその一つとして大きな部分を占めています。私は入学当初なかなか自分というキャラを表に出そうとせず、先輩にどう接していいか戸惑い、つい自分中心のペースで部活に取り組んでいました。先輩方にはかなり気を使わせていたのではないかと思います。しかし、その頃の自分には先輩方の配慮に気付

けるほど大人ではなく（今でも大人になりきれていませんが）自分が先輩となり、後輩との接し方、及び指導方法に悩むことになって初めて自分がどれだけ迷惑をかけていたのかに気付くこととなりました。幸運なことに私の後輩たちは皆気を使ってくれる人達ばかりで、むしろ私よりしっかりしている人が多く悩み事は少なくてすみましたが、時には下に指導しなくてはならない時もあり、できることなら嫌われたくないのにきつい事を言わなければならないということがこんなにエネルギーを必要とするのかを知りました。

人は一人では決して生きては行けず、他者と助け合い、支えあって生きています。その際大事なことは相手を思いやり、相手の気持ちを察することだと思います。それは仕事の場にも当てはまることであり、患者を始め、指導医の先生が何を今自分に求めており、それに対しどう対応していかなくてはならないのかを常に考えていかなくてはなりません。そのような人との関わり方の基礎をこのバドミントン部で学べたと思っています。今では部で過ごした思い出すべてが宝物となっています。これもすべてOB、OGの先生方がバドミントン、およびバドミントン部を愛し、その意思を次の世代に伝えてこられたからだと思います。この思いを後輩にも伝えていくことが私たちに仕事でもあり、またそのためにOBとしてできる限りのことはさせていただきたいと思っています。

長くなりましたが、最後にこれからも熊大医学部バドミントン部が100年200年と活気あふれる部であり続けることを願い、簡単ですが挨拶としたいと思います。

バドミントン部での日々と現在と

平成20年卒　　中原　智史

熊本大学バドミントン部創立50周年記念お祝い申し上げます。私はバド部創立50周年というこの節目の年に熊本大学医学部を卒業し、現在は初期研修医として医療の現場で鍛錬の日々を送っています。

その日々のなかでふと思うのですが、職場での上級の先生方とのつながりが部活のときの先輩～後輩のつながりにどことなく似たものを感じています。むろん取り組む内容は『人の命を預かる仕事』と、部活のときとは違い厳粛なものであり、決して楽しみながら活動するものではありません。しかしながら、学校での先生と生徒のような関係ではなく、はたまた親子のような関係でもない、仕事や時にはプライベートでも苦楽を共有し、先輩方に見守られながら己を鍛錬していくこの日々に、かつての部活の日々の思いを重ねながら過ごしております。

思いが先走ってしまいますが、やがては私も2年目、3年目となり、いずれは後輩たちの指導などもしていく立場を迎え行くことになります。その時にまた再び、バド部で初めて後輩を迎えたときの気持ち、喜びと不安、ともに練習し互いを高めあい、試合で勝利したときの笑顔や涙を思い出すことになるでしょう。

医療の現場では『負け』はあってはならない、常に『勝ち』続けなければと考えています。『負けること』自分にとってそれは、患者さんにとって満足いく結果が得られないことと考え、そのようなことがないように、ミスも実力不足もないように、日々の職務で『勝ち』続けなければいけないと思っています。もし自分自身が学生だったころから、これくらいストイックにバドに取り組んでいたならば、きっと団体戦に出場したり、もっと多くの勝ち星を部に献上できたのかもしれませんが…。

６年間を通し、私自身も多くの先輩方、本当にたくさんの同級生や後輩たちと出会い、いろいろなことを学びました。人間として成長できたところ、まだまだ足りないところなどありますが、しっかりと後輩を支えてやれる人間になること、ただそれだけのことが昔も今も私を毎日衝き動かす原動力になっています。後輩をしっかり引っ張っていくこと、それは自分自身がそれだけの揺るぎない力を兼ね備えていることに等しく、そのこともまた部活で感じたことです。

舞台は変わってもこの気持ちは変わらない、バド部での日々の思いはどこまで行っても消えることはありません。

熊本大学バドミントン部が今後なお一層盛り上がっていくことを祈りつつ、文の結びとさせていただきます。バドミントン部での６年間、本当にお世話になりました。

第４部

バドミントンと私
――― 現役部員の部







1．平成20年度　1年～6年

1年　　石黒　久恵　　入学年度：平成20年度　　入部年度：平成20年度
バドミントン歴：1年目

私はバドミントン初心者ですが、先輩方が優しく丁寧に教えてくださるので、とても楽しいです！まだまだ未熟ですが、早くしっかりとしたフォームを身につけて、先輩方のようにかっこいいバドミントンが出来るように頑張りたいです！

1年　　佐多　俊紀　　入学年度：平成20年度　　入部年度：平成20年度
バドミントン歴：4年目

私は、高校からバドミントン部に所属していたんですが、大学に入ってからもするつもりは実のところありませんでした。2年浪人したので、元のように動けるかも心配でしたし、大学に入って、新しいことに挑戦するのもいいかなーとか考えていたんです。バド部に入って、またバドをしようと思ったのは、偏に、先輩方の温かい勧誘のおかげでした。これも、バドとの縁だったのでしょうか？ともかく、やるからには頑張ろうと思います。

1年　　白濱　裕一郎　　入学年度：平成20年度　　入部年度：平成20年度
バドミントン歴：1年目

バドミントンを初めてしたのは中学校のときの選択授業です。高校では水球をしていましたが、いつかはバドミントンをやってみたいという気持ちはありました。大学に入ってバドミントン部を見学したとき、先輩方はやさしく接してくださり、また練習の雰囲気も良くて入部しようと決めました。初心者ですが、これから六年間がんばってうまくなっていきたいと思います。

1年　　都　剛太朗　　入学年度：平成20年度　　入部年度：平成20年度
バドミントン歴：7年目

年上の従兄弟にバドミントンを誘われて約6年、大学に入学してからもバドミントンをやっています。高校の時は帰宅部、中学生の時も部員数が多く、まともな練習もなかったため強くなることはできなかったが、熊医のバドミントン部は内容の濃い練習をしていて、OBの先生方とも練習する機会もあるので、積極的に練習に参加してもっと強くなって、そしてできれば九山や西医体で結果を残したいと思います。

2年　　朝倉　寿久　　入学年度：平成19年度　　入部年度：平成19年度
バドミントン歴：2年目

バドミントンを始めてまだ1年ですが、個人競技としてのおもしろさや団体競技としての難しさを日々実感しています。去年は多くの先輩方から数多くの刺激を与えられ、競技以外の様々なところでも活かすことができたと思います。今後もバドミントンを通しての多くの経験、またたくさんの人たちとの繋がりによって成長していきたいと思います。

2年　　今泉　裕貴　　入学年度：平成19年度　　入部年度：平成19年度
バドミントン歴：2年目

私は、大学からは全く別のスポーツに挑戦したいと思い、バドミントンを始めました。そして実際に始めてみると、すぐにバドの魅力にひきつけられました。シャトルが微妙に思った通りに飛ばないときは悔しく、その分できた時は凄く嬉しく感じます。また部員の皆と切磋琢磨しながら、練習する事はとても新鮮です。そして何よりバドを通して、素晴らしい先輩や同級生に出会う事ができ、バドを始めて本当に良かったと思います。

2年　　坂田　悦郎　　入学年度：平成19年度　　入部年度：平成19年度
バドミントン歴：2年目

私は大学からバドミントンを始めました。最初は先輩方の指導の下での素振りから始まり、フットワーク、基礎打ち、そして試合とその組み立てへと、だんだんとできることが広がっていくのが面白く、とても深いスポーツだと感じました。まだまだ弱くてなかなか勝てないので、これからもできるだけ長い時間バドミントンとつきあいながら技術を磨いていき、強くなって一回でも多く勝利を得られるようになりたいです。

2年　　平松　晶子　　入学年度：平成19年度　　入部年度：平成19年度
バドミントン歴：2年目

私は高校ではテニス部でしたが、大学ではテニス以外のラケットスポーツをしたいと思いバドミントン部に入部しました。はじめは打ち方の基礎から教えてもらいましたが、なかなかクリアやサーブなどが打てるようになれず大変でした。先輩方が丁寧に教えてくださったおかげで、最近になってようやく前よりは打てるようになりバドミントンが楽しくなり始めました。ただ、まだまだクリアが遠くまで飛ばなかったりフットワークができていないのでこれからマイペースに、でもしっかりと練習を積み重ねて卒業するころには自信を持ってバドミントンをやっていましたと言えるようになりたいです。また、今度の九山で初のダブルスを経験するので、試合に向けてがんばって練習していこうと思います。

2年　　森永　真矢　　入学年度：平成19年度　　入部年度：平成19年度
バドミントン歴：2年目

私は入学当時には、なにか運動系の部活に入ろうかな、くらいの漠然とした考えしか持っておらず、勧誘の際にバド部が一番優しくて和気あいあいとしていて楽しそうだった、という理由でバドミントンを始めました。入部して一年経った今、あの時の自分に拍手を送りたいです。羽根を打つと非常に爽快な気分になれますし、なによりも部内の方々とのふれあいが楽しくて仕方がありません。この一年で素敵な思い出を沢山くださった皆様に、感謝の気持ちでいっぱいです。

2年　　山田　敏寛　　入学年度：平成19年度　　入部年度：平成19年度
バドミントン歴：2年目

私は大学からバドミントンを始めました。それまでラケットを握ったこともほとんどなく、始めたばかりの頃は空振りばかりでした。それでもバドミントンを始めて1年が経ち、最近では少しずつですが形に

なってきたのではないかと思います。バドミントンは上達すればするほど試合中の選択肢が増え、よりおもしろくなってきます。これから卒業までの間、楽しく、そして一生懸命にバドミントンを続けていきたいと思います。

3年　　坂田　憲亮　　入学年度：平成17年度　　入部年度：平成17年度
バドミントン歴：4年目

バドミントン部に入部して、早くも丸三年が過ぎてしまいました。入部して得られた最大の財産は、先輩や後輩といった人と人との繋がりを作ることが出来たことです。それに加えて部活動があることで、生活にメリハリができ心身のリフレッシュを図ることもできています。また、試合を通じて目標に向かって努力し技術を磨くと共に、自分にいかに克つかということを常に考えさせられることも、大学生活を送る上での大きな収穫であると感じています。

3年　　田中　憲一郎　　入学年度：平成18年度　　入部年度：平成18年度
バドミントン歴：9年目

中学からバドミントンを続けてきた私にとって、バドミントンに関わる思い出は愛情深いものです。かつてゲーム中に、シャトルが白帯の上に乗ったまま止まってしまったことがあります。私がラケットで扇いだらなぜか自分のコートに落ちてきて、それがおかしくて皆コートに倒れこみました。こうした青春の思い出やバドミントンを通じて知り合えた人たちとの関わりを胸に、私は『誰よりも速く、誰よりも強く、誰よりも輝いて』コートに立ちたいと思っています。

3年　　原　万里恵　　入学年度：平成18年度　　入部年度：平成18年度
バドミントン歴：6年目

私は今年でバドミントンを始めて5年になります。熊大のバドミントン部に入部して感じたのは部の雰囲気の良さです。みんながバドミントンに一生懸命で、団体戦では一丸となって応援しています。この部の雰囲気は創部以来ずっと受け継がれてきたものだと思います。そんな中で私は以前よりもバドミントンが好きになり、今ではバドミントン無しの生活は考えられないほどになっています。これからも自分の目標に向けて練習をがんばっていきたいと思います。

3年　　古家　圭士郎　　入学年度：平成18年度　　入部年度：平成18年度
バドミントン歴：3年目

元々運動が苦手な私が入部を決めたとき、正直バドミントンの経験なんてゼロなのに練習についていけるかすごく心配でした。しかし先輩方に親切丁寧に指導して頂き、最初は必死にラケットを振ってもシャトルに当たりもしなかったのが、だんだんと打てるようになり、ショットの精度が上がり、いろんな球を使い分けられるようになって、やればやるほど楽しさが増してきました。これからさらなる技術向上を目標にすると同時に、今度は自分が教える番、後輩に技術面だけでなく、なによりバドミントンの楽しさが伝えることができたらいいなと思います。

3年　　前田　顕子　　入学年度：平成18年度　　入部年度：平成18年度
バドミントン歴：3年目

大学に入って始めたバドミントンですが、バドミントンのおかげで沢山の人とつながりを持つことが出来ました。大学に入ってからの楽しい思い出の中心には常にバドミントン部が関係しています。また、部活以外でも辛い時、悲しい時、私が頑張ることが出来たのはバドミントン部のみんながいてくれたからでした。バドミントン部は私にとって、今の私を作ってくれたものだと思います。そんなバドミントンに感謝します。バド万歳！

4年　　上野　満徳　　入学年度：平成17年度　　入部年度：平成17年度
バドミントン歴：4年目

バドと出会って数年が経ち、本当の『強さ』とは何か、と考える機会が多くなりました。必ずしも派手な技術に頼る『巧さ』ではなく、基本動作の徹底という確実な部分からなる『強さ』こそ、自分が真に目指すべきだと思えるようになったのです。その思いはバドのみならず、実生活のいたる場面で活きていると度々実感しています。自分の人生観に大きな影響を与え、成長させてくれたバドミントンという存在に、とても感謝しています。

4年　　寺本　周平　　入学年度：平成17年度　　入部年度：平成17年度
バドミントン歴：4年目

バドミントンを通してここ最近考えるようになったことは、自分の弱点をしっかりと見つめて、それをどう克服していくかということです。1，2年生のときは何の考えもなしにシャトルを打っていただけでしたが、現在はバドミントンの楽しさに気づいた感じがして、日ごろの練習でも課題を見つけて取り組めるようになったと思います。このようなことを、バドミントンに限らず他のことにも役に立てて行きたいと思っています。

4年　　山田　倫　　入学年度：平成17年度　　入部年度：平成17年度（再20年度）
バドミントン歴：3年目

一度は部を去りましたが、今年度再び戻ってきました。それも部の楽しい雰囲気とバドミントンの魅力のためだと思います。部から離れた立場に立つことにより、部員の皆さんの優しさ、部活を続けることの大切さ、運動できる機会の素晴らしさをより感じることができました。迷惑ばかりかけていますがこれからは部に少しでも貢献できるように頑張っていきたいと思います。

4年　　横田　康宏　　入学年度：平成17年度　　入部年度：平成17年度
バドミントン歴：7年目

私は高校時代にバドミントンをしていたことから、大学でもバドミントン部に入部しました。入部した当時は、まさかこんなにもバドミントン中心の大学生活になるとは思ってもいませんでした。それはバドミントンの面白さももちろんですが、同時に部活を通じて得られる充実感や部員との関わりに大きいものがあると思います。今の私にとって、バドミントン部はかけがえのないものであり、この部活に入って良かったと心底思っています。

5年　　桑原　千恵　　入学年度：平成16年度　　入部年度：平成16年度
バドミントン歴：7年目

熊本大学に入学しバドミントン部に入部してからもう4年が経ちますが、部活なしの学生生活では味わえないたくさんの経験をさせていただいています。バドミントン部に入っていなければ、出会って話すことさえなかったはずの先輩方、後輩のみんなと日々バドミントンをすることができるのはとても幸せなことだと感じています。現役の私達がこのように感じることができるのも、50年間、歴代の先輩方がバドミントン部を支え、受け継いできて下さったからこそだと感謝しております。

6年　　石井　正将　　入学年度：平成15年度　　入部年度：平成15年度
バドミントン歴：6年目

バドミントンに出会ってから早5年が過ぎました。たった5年間ではありますが、部活の先輩方や後輩たち、そしてOB·OGの先生方とたくさんの人達とめぐり会うことができました。また、試合を通じて他大学の方や社会人の方とも交流を深めることができました。このバドミントンによって結んだ絆を大事にしさらに絆を深めていくためにも、これからもずっとバドミントンを続けていきたいと思います。

6年　　伊良波　諭　　入学年度：平成15年度　　入部年度：平成15年度
バドミントン歴：6年目

現在、入部時からは想像もできないほどバドにはまっています。6年間という長い学生生活の間に、こんなにも打ち込めるものを見つけることができて、本当に良かったと思います。また、練習以外でも、常識や礼儀を学ぶことができ、さらには多くのすばらしい先輩・後輩・同級生と出会うことができたバド部に感謝しています。卒業してからもOB·OGの方々のようにバドミントンを続けて、多くの繋がりを作っていきたいです。

6年　　江頭　翔　　入学年度：平成15年度　　入部年度：平成15年度
バドミントン歴：6年目

大学に入るまで集団競技しかしたことのなかった私にとって、バドミントンという競技はいい意味でも悪い意味でも新鮮なものでした。始めはなんとなくで選んだバドミントンも、競技としての面白さに魅かれ、気がつけばもう6年目に突入しています。この間、医学部だけでなく社会人の方々とも練習を共にし、様々な職種の、そして年齢層の方と知り合うことができました。失敗したことも含め、たくさんのかけがえのない経験をさせてくれたこのスポーツに、今は本当に感謝しています。

6年　　舘野　丈太郎　　入学年度：平成15年度　　入部年度：平成15年度
バドミントン歴：6年目

この度、バドミントン部創立50周年記念という節目に立ち会えたことを大変嬉しく思っています。自分がバドミントンを始めてみようと思ったきっかけは競技そのものに惹かれたと言うより、部活の楽しい雰囲気に惹かれたというのが一番大きいです。入学して以来、バドミントンをしているおかげで多くのすばらしい先輩やかわいい後輩に出会うことができたことが、自分にとってかけがえのないもので、それを与えてくれたバドミントン部に心から感謝します。

6年　谷口　理丈　入学年度：平成15年度　入部年度：平成15年度
バドミントン歴：6年目

熊大バドミントン部50周年の節目に現役部員として立ち会えたことを非常にうれしく思います。大学入学までスポーツに全く縁のなかった私にバドミントンをする機会を与えてくださり、部の伝統を守り続けていただいた先輩方にとても感謝しております。大会では応援を主戦場としていましたが、部活動を通して多くの楽しさや喜び、辛さを分かち合えたことが何より大きな財産となっています。バドミントン部での6年間は一生の宝物です。

6年　中田　志穂　入学年度：平成15年度　入部年度：平成15年度
バドミントン歴：6年目

バドは誰か一緒に打ってくれる人がいて初めてできるスポーツで、ダブルスになればペアを組んでくれる人がいないとできません。当たり前のことですが、高校まで個人競技の部活をやっていたのでバドをしていると仲間の大切さを前よりずっと強く感じます。残念ながらこの6年間上達したとは言いがたいですが、6年間続けることができたのは羽を打てば返してくれる人がいたからです。あと少しで引退ですが、これからもどこかで続けて、皆とのつながりを大切にしていきたいと思っています。

6年　柚留木　秀人　入学年度：平成15年度　入部年度：平成15年度
バドミントン歴：6年目

現在私はバドミントンを競技スポーツとして日々勝利を求めて練習を行っています。OB·OGの皆様のご支援を受けて、幸いにもほぼ毎日練習できる環境が整っています。そればかりか少なくとも週に4回は先輩方のご指導を直接受ける機会に恵まれています。その中で残り少ない学生としての競技生活を悔いの無いものにしたいと羽を追いかけているところです。

2．歴代主将（平成17年度～平成19年度）

6年　　岩崎　肇　　入学年度：平成15年度　　入部年度：平成15年度
（平成17年度主将）　　バドミントン歴：6年目

私がキャプテンを務めていた時は部員数50人弱の大所帯でした。そのなかで如何にしたら部員全員が満足のいく練習ができ、且つ強くなれるのかというのが一番の悩みでした。当然50人もいればバドのレベルも違い、バドに対する考え方も様々で、それを一つにまとめることは困難です。練習方法について幹部で考え話し合い、多くの先輩方に相談に乗ってもらい、いろいろと試行錯誤しながらやっていきました。

そんな我々幹部の行った練習の真価が問われた鹿児島での九山（2006年度）では、男子団体戦は惜しいところまでいったものの、「あと1点」が取れずに決勝トーナメント進出を果たすことができませんでした。そしてその「あと1点」はとても遠く、その1点を取って勝つためには練習の質・量ともにまだまだ不十分であったことを痛感させられた大会で、幹部として勝つための練習を提供できなかったことを反省しています。

この5年半で、私にとってバドミントンはごく当たり前の日常生活の一つとなりました。月・水・土の正規練、火・木の自主練、そんなバド生活が残りわずかで終わってしまうのかと思うと非常に寂しい気持ちになりますが、このバド部での経験をこれからの自分の人生に生かしていき、バド部での出会いと思い出を今後も大切にすることで、新たな形として私のバド生活は続いていくのだろうと思います。

6年　　上原　朋子　　入学年度：平成15年度　　入部年度：平成15年度
（平成17年度女子主将）　　バドミントン歴：12年目

熊医バド部に入っていつの間にか6年目を迎えました。振り返ってみると、大学生活のほとんどをバドミントンに費やしたように思います。特に女子キャプテンとして過ごした1年間は、それまで自分がどうやったらうまくなれるかと、自分中心でバドミントンをしていた時とは違い、幹部として伝統あるこのバド部をより良くするにはどうしたらよいかと頭を抱える毎日で、文字通り寝ても覚めてもバド部のことが頭から離れないという、バド部一色の生活を送っていました。それは、決して楽しいことばかりではなく、悩み苦しみ何度涙を流したかわかりません。しかし、要領が悪くキャパの狭い私の周りには、厳しくも優しく指導してくださる先輩方と、嫌な顔せず仕事を手伝ってくれる後輩たち、そして何より、苦しみを分かち合い一緒に乗り越えようと頑張る同学年のみんながいました。失敗もありましたが、なんとか幹部をやりとげることができたのは、そんな心強い仲間に恵まれたからこそだと思います。これからは自分を育ててくれたこの熊医バド部に、部員として、ゆくゆくはOGとして、少しでも恩返しをしていきたいと思っています。そして最後に、熊医バド部を通じて出会った大切な仲間に心から感謝の気持ちを伝えたいと思います。ありがとうございました。

5年　　原　崇史　　入学年度：平成16年度　　入部年度：平成16年度
（平成18年度主将）　　バドミントン歴：5年目

私は光栄なことに入部当初からキャプテンとなることが約束されておりました。なぜならば、男子が1人の学年ですから。バドミントンの腕前もたいしたことがないうえ、キャプテンを任されるほどの人徳も

備わっていない私が部の運営の舵を取ることに大変な不安を感じたことを覚えています。幹部自体も少なく、現在熊大の部活のなかでも有数の大所帯をまとめることの難しさは、想像するだけで心が折れそうでした。

しかしながら、キャプテンになってみますと、思いのほか円滑に運営出来ました。それは本当に多くの方々に支えられたからだと思います。少ないながらも幹部全員がそれぞれ任せられた仕事を迅速に行ってくれたこと、部のことを思って、すぐにご注意をして下さった先輩方、嫌な顔せず雑用に徹してくれた後輩、そして、足繁く練習に参加していただいた監督をはじめ、多くの先生方が部を気遣い、支えて頂きました。

先日ある人が“己を犠牲に出来る人間しかトップに立てない”とおっしゃっていました。これを聞き、振り返ってみた時、私がキャプテンとして自分自身を犠牲にしてきたのかは疑問が残ります。周りの方々にしてみれば本当に形だけのキャプテンであったのかもしれません。

幹部を終え、上級生になってみて、本当に後輩達が円滑に部を運営していることに感心してしまいます。懸命に頑張る姿に私自身襟を正さねばと感じています。私がキャプテンだった頃に先輩方にして頂いたように後輩達を温かく見守りながら、プレーで貢献出来ないですが、違った形で支えていければと思います。

50年という歴史の中で、一部の人にしか経験できないキャプテンをさせていただけたこと、そして多くの人に支えられてその責務を果たせたことは私にとって財産です。このように素晴らしい伝統がこれからも続いていくように、また、熊大バドミントン部がますます繁栄いたしますように、一部員としてこれからも貢献出来ればと思います。

5年　　亀田　和花子　　入学年度：平成16年度　　入部年度：平成16年度

（平成18年度女子主将）　　バドミントン歴：８年目

私は、２年前の九山後から１年間、女子キャプテンを務めさせていただきました。大学１年、２年と、完全に先輩方に甘えきって、部の運営のことなど全く考えずに過ごしてしまっていた私にとって、急に幹部、しかも女子キャプテンを務めることは、不安以外の何物でもありませんでした。いざ幹部となっても、初めて経験することばかりで、手探りで目の前の仕事をこなすしかできなかったような状態で、先輩方には多大なご心配、ご迷惑をおかけしたことと思います。しかし、そうやって悪戦苦闘する中で初めて、先輩方の経験してこられた努力と苦労が分かり、先輩方の凄さを改めて痛感しました。そして、そうした先輩方の努力と苦労が積み重なって築き上げられたバドミントン部の歴史の重みを知り、その歴史を汚すことなく、次の世代に繋いでいくことの責任を感じました。幸いなことに、私は、温かく見守って下さる先輩方、いつも一緒に頑張ってくれる心強い幹部の仲間、そしてかわいくて頼もしい後輩たちに恵まれて、何とか乗り切ることができました。幹部を務めた１年間で経験したことは、私にとってかけがえのない財産になりました。

早いもので、幹部を終えてもう１年が経ち、いつの間にかたくさんの後輩に囲まれるようになった今、改めて自分が部のためにできることは何かを考えると、やはり、自分が先輩方に教えて頂いたことを少しでも多く後輩に伝えて、先輩方のバドミントン部に対する想いを繋いでいくことだと思います。そのためにも、バドミントン部の「バドミントン」と「部」、それぞれに対して、真剣に向き合い、今の自分にできる限りの努力を続けていきたいと思いますので、これからもどうぞよろしくお願いいたします。

4年　　近藤　大祐　　入学年度：平成17年度　　入部年度：平成17年度
（平成19年度主将）　　バドミントン歴：6年目

ちょうどこの原稿の締め切り1週間前まで、私は熊本大学医学部バドミントン部主将を務めさせていただきました。終わってみるとあっという間でしたが、任期中は何かが起こってばかりで、長く感じていました。また、いつも先輩方や後輩に「疲れているね」と言われていました。が、殆ど疲れていません。おそらく疲れていたのは、副主将、女子主将、主務など、私の周りにいた人たちばかりだと思います。

私はバドミントンでは、どちらかといえばシングルスが好きです。私は技術が未熟で、試合中もすぐに血が昇ってしまうタイプなので、前衛が大事であり、戦略が重要なダブルスは苦手です。もちろんこれからダブルスもやっていかなくてはならないのですが、とにかくシャトルを相手に返して、相手がミスするのを待つというシングルスのほうが私は好きです。

また、シングルスが好きな理由に、全て自己責任だからというものがあるかもしれません。コートの中では自分一人と相手一人。自分のミスは自分のせい。一方ダブルスは自分のミスで、パートナーにまで迷惑がかかってしまいます。私は心配性なので、ダブルスでミスをする度に気にしてしまい、最後まで引きずってしまいます。どれほど心配性かというと、そのミスがコートを出てからもお互いの中に影響するんじゃないか、と思うくらい心配性です。そんなわけで私は、気楽にできるシングルスが好きでした。

しかし主将を経験し、感じたことは、シングルスにしても、ダブルスにしても、部の運営にしても、一人ではできないし、決して一人で行っているわけではないということです。シングルスの時には、応援がいます。部の運営には副将、女子主将などがいます。彼らたちと一緒に戦っている、頑張っていると思うことで、一人で抱え込むことなく、常にいろんな人に助けられ、やっていくことができました。これからは自分が助けられたように他の部員を助けていけたらいいなと思っています。

4年　　川本　めぐみ　　入学年度：平成17年度　　入部年度：平成17年度
（平成19年度女子主将）　　バドミントン歴：4年目

大学に入学した当時、漠然と体力づくりのために運動部に入ろうと考えていた私がバドミントン部に入部したのは、先輩方の雰囲気が良いからという実に安直で単純な理由からでした。そんな私が学年で女子が1人ということから、必然的に女子キャプテンという大役を頂くことになってしまい、歴代の女子キャプテンを務められた素晴らしい先輩方にお会いするにつけ、プレッシャーを感じることも多々ありました。最初の頃はバドミントンを始めて2年程しか経っていない時期で、競技としての面白さといったものが自分でもまだよくわからないまま新入部員に指導をし、女子全体をまとめていかなければならない立場に就き、失敗を重ねながら手探りの日々を過ごしていました。それでも沢山の周囲の協力を借りてこの役を終えた今、振り返るととても充実した得るものの多い1年間だったと思います。周囲のことをよく見ながら行動することや、人の気持ちを動かすことの難しさを感じることも多く、また、人と話し合いをするのが苦手な方だったのですが、自分の意見を言い人の意見をきちんと聞くことの重要さを強く実感したときもありました。バドミントンについても、指導をすることで自分自身の弱点をよく知るきっかけとなり、次第にバドミントンの面白さを感じるようになりました。こういった経験のほとんどが、おそらくこの役を務めなければ決して得ることのできないものだったと思います。今このように感じることができるのは、時に優しく時に厳しく指導してくださった諸先輩方と惜しみなく協力をしてついてきてくれた後輩、そして励まし合ってきた同級生の存在があるからこそであり、いろんな方々に対する感謝を忘れてはいけない

と学んだことが一番の大きな収穫です。入学当初にバドミントン部を選んで本当に良かったと思うと同時に、この先そう思ってくれる後輩を１人でも増やすことを今後の目標とし頑張っていきたいと思います。



平成20年　50周年祝賀会にて

第５部

熊本大学医学部バドミントン部の戦績













昭和33年度
第10回　西日本医科学生総合体育大会
場所　　名古屋市　　（主管　名古屋大学）
期日　　昭和33年10月

団体戦　　男子
1回戦

熊本大学		金沢大学
1	—	4

個人戦　　男子ダブルス、シングルス
初戦敗退

昭和34年度
第1回　九州地区医科学生大会
場所　　久留米市
期日　　昭和34年5月（？）

団体戦　　男子　　リーグ戦

優勝　　熊本大学　　1勝　1敗

熊本大学		九州大学
5	—	0

熊本大学		久留米大学
0	—	5

昭和34年度
第11回　西日本医科学生総合体育大会
場所　　大阪市　　（主管　大阪大学）
期日　　昭和44年10月

団体戦　　男子
1回戦

熊本大学		大阪大学
0	—	5

団体戦　　女子
1回戦

熊本大学		大阪大学
1	—	2

個人戦　　男子 男子ダダブルス
友成・秋月　組　　ベスト8

昭和35年度
第2回　九州地区医科学生大会）
場所　　福岡市
期日　　昭和35年5月（？）

記録なし

昭和35年度
第12回　西日本医科学生総合体育大会
場所　　呉　市　　（主管　広島大学）
期日　　昭和35年10月7日～14日

団体戦　　男子
1回戦

熊本大学		神戸医科大学
0	—	5

団体戦　　女子
1回戦

熊本大学		大阪大学
0	—	3

昭和36年度
第3回　九州地区医科学生大会
場所　　熊本市
期日　　昭和34年6月11日

記録なし

昭和36年度
第13回　西日本医科学生総合体育大会
場所　　京都市
期日　　昭和36年10月10日～13日

団体戦　　男子　　3位
1回戦

熊本大学		長崎大学
4	—	1

松本 上村	15 15	2－0	1 0	伊達木 道祖尾
谷口 二塚	15 15	2－0	4 7	原田 荒牧
吉見	7 7	0－2	15 15	道祖尾
秋月	15 15	2－0	6 2	伊達木
松本	15 15	2－0	1 1	原田

2回戦

熊本大学		金沢大学
3	—	2

松本 上村	8 15 15	2－1	15 12 5	土田 亀田
谷口 二塚	15 15	2－0	11 7	中島 青木
秋月	15 7 15	2－1	9 15 11	中島
上村 （松本）	4 8	0－2	15 15	亀田
谷口	4 7	0－2	15 15	土田

3回戦

熊本大学		和歌山医科大学
4	—	1

谷口 二塚	15 7 13	1－2	12 15 15	山西 山下

松本 上村	15 15	2－0	3 7	坊岡 島本
秋月	15 15	2－0	11 13	山下
松本	15 15	2－0	4 0	坊岡
吉田 （谷口）	15 15	2－0	9 7	島本 （山西）

準決勝

熊本大学		大阪市立大学
2	—	3

松本 上村	15 15	2－0	4 4	沢井 大橋
谷口 二塚	5 6	0－2	15 15	山本 堀口
松本	15 15	2－0	5 6	沢井
秋月	3 6	0－2	15 15	堀口
谷口	8 10	0－2	15 15	山本

3位決定戦

熊本大学		久留米大学
3	—	2

松本 上村	15 15	2－0	9 7	武谷 元島
谷口 二塚	2 3	0－2	15 15	日吉 松永
秋月	12 15 15	2－1	15 6 5	武谷
松本	15 15	2－0	1 1	日吉
奥村 （上村）	? 13	0－2	15 15	永代 （松永）

団体戦　女子

1回戦

熊本大学		岐阜医科大学
3	—	0

甲斐 水野	15 15	2－0	5 11	中村 清水
河北	11 11	2－0	6 5	中村
宮本	8 11 11	2－1	11 6 4	清水

2回戦

熊本大学		金沢大学
1	—	2

甲斐 水野	4 10	0－2	15 15	加藤 早稲田
河北	0 4	0－2	11 11	早稲田
宮本	11 8 11	2－1	5 11 5	林

個人戦　男子ダブルス

秋月・松本　組

2回戦	2－0	津田・柏井（和歌山医科）
3回戦	1－2	重住・中野（関西医科）

2回戦敗退　布田・宮川　組、二塚・吉見　組

個人戦　男子シングルス

松本　2位

1回戦	2－0	飯尾（京都）
2回戦	2－0	栗原（大阪市立）
3回戦	2－0	波柴（岡山）
4回戦	2－0	竹中（神戸医科）
準決勝	2－0	西川（関西医科）
決勝	0－2 （13－18、12－15）	堀口（大阪市立）

谷口

1回戦	2－0	青木（金沢）
2回戦	1－2	村島（三重医科）

1回戦敗退　奥村、吉田、上村

昭和37年度
第1回　九州山口地区医科学生体育大会
場所　福岡市
期日　昭和37年5月

記録なし

昭和37年度
第14回　西日本医科学生総合体育大会
場所　菊池市　（主管　熊本大学）
期日　昭和37年10月8日～11日

団体戦　男子　優勝

1回戦

熊本大学		九州大学
5	—	0

上村 松本	15 15	2－0	1 2	重松 中村
布田 宮川	15 15	2－0	1 2	矢野 広瀬
吉田	15 15	2－0	6 1	中村
松本	15 15	2－0	1 0	広瀬
前田 （上村）	15 15	2－0	2 5	矢野

2回戦

熊本大学		鹿児島大学
2	—	1

布田 宮川	15 15	2－0	0 2	西瀬戸 渡辺
上村 松本	15 15	2－0	2 4	早川 高木
吉田	15 15	2－0	0 4	渡辺
松本	15 15	2－0	5 4	早川

上村	15 15	2－0	10 6	高木

準決勝

熊本大学 4 — 和歌山医科大学 1

布田 宮川	15 15	2－0	9 12	坊岡 島本
上村 松本	15 15	2－0	4 4	山下 山西
松本	15 15	2－0	7 2	山西
吉田	11 15 15	2－1	15 6 3	山下
前田 （上村）	2 0	0－2	15 15	坊岡

決勝

熊本大学 4 — 神戸医科大学 1

上村 松本	15 10 15	2－1	3 15 11	瀬藤 三浦
布田 宮川	15 6 18	2－1	12 15 16	中島 任野
松本	15 15	2－0	8 4	瀬藤
吉田	18 15	2－0	15 0	任野
上村	8 10	0－2	15 15	中島

団体戦　女子　3位

1回戦

熊本大学 2？ — 広島大学 ？

2回戦

熊本大学 2？ — 大阪大学 ？

準決勝

熊本大学 ？ — 久留米大学 2？

3位決定戦

熊本大学 2 — 長崎大学 1

個人戦　男子シングルス

松本　優勝

個人戦　女子ダブルス

河北・水野　組　3位

個人戦　女子シングルス

水野　3位

昭和38年度
第2回　九州山口地区医科学生体育大会
場所　鹿児島市
期日　昭和38年5月3日～4日

団体戦　男子　優勝

熊本大学 3 — 鹿児島大学 2

布田 宮川	8 11	0－2	15 15	松本 早川
上村 松本	15 15	2－0	0 1	高木 西瀬戸
上村	3 0	0－2	15 15	早川
吉田	15 15	2－0	2 8	高木
松本	15 15	2－0	2 2	松本

熊本大学 5 — 山口大学 0

松本 上村	15 15	2－0	0 4	延谷 池江
布田 宮川	15 15	2－0	6 3	上田 山県
吉田	15 15	2－0	0 1	松浦
前田	15 15	2－0	1 4	岡本
服部	15 15	2－0	3 4	佐藤

熊本大学 4 — 長崎大学 1

松本 上村	15 15	2－0	1 1	三宅 浅山
布田 宮川	15 15	2－0	1 2	荒牧 原田
松本	15 15	2－0	3 2	浅山
吉田	15 15	2－0	5 3	三宅
服部	15 12 13	1－2	8 15 15	楠本

熊本大学 4 — 久留米大学 1

宮川 布田	17 15 15	2－1	18 6 12	松永 薬師寺
上村 松本	15 15	2－0	6 2	林 小林
吉田	15 15	2－0	1 1	東辻 （松永）
上村	15 15	2－0	7 4	小林
服部 （松本）	12 8	0－2	15 15	林

熊本大学 4 — 九州大学 1

布田 宮川	15 15	2－0	10 10	中村 ウイ・キムシン
服部 前田	15 15	2－0	12 5	広瀬 矢野
吉田	15 15	2－0	0 3	矢野

宮川	15 15	2－0	4 7	中村
前田	1 3	0－2	15 15	ウイ・キムシン

団体戦　女子　リーグ戦　優勝

熊本大学 3 — 山口大学 0

水野 甲斐	15 15	2－0	8 2	梅田 浅海
河北	11 11	2－0	3 2	小田
宮本 （水野）	11 11	2－0	2 3	梅田

熊本大学 3 — 九州大学 0

水野 甲斐	15 15	2－0	11 0	平島 一柳
河北	11 11	2－0	2 0	一柳
宮本	11 11	2－0	2 5	平島

熊本大学 2 — 長崎大学 1

水野 甲斐	15 15	2－0	11 10	坂口 福田
河北	12 11	2－0	11 2	福田
宮本	5 2	0－2	11 11	坂口

昭和38年度
第15回　西日本医科学生総合体育大会
場所　小松市
期日　昭和38年10月12日～14日

団体戦　男子　優勝

優勝　熊本大学
2位　神戸医科大学
3位　大阪市立大学

2回戦
熊本大学 4 — 岡山大学 1

布田 宮川	15 15	2－0	1 3	森口 原
上村 松本	15 13 15	2－1	2 15 6	波柴 鈴木
上村	4 16	0－2	15 17	波柴
松本	15 15	2－0	0 2	森口
吉田	15 15	2－0	12 1	鈴木

3回戦
熊本大学 5 — 大阪大学 0

松本 上村	15 15	2－0	0 4	延谷 池江
布田 宮川	15 15	2－0	6 3	上田 山県
吉田	15 15	2－0	0 1	松浦
前田	15 15	2－0	1 4	岡本
服部	15 15	2－0	3 4	佐藤

準決勝
熊本大学 3 — 鹿児島大学 2

松本 上村	15 15	2－0	7 4	早川 松本
布田 宮川	15 15	2－0	5 2	高木 長島
松本	15 15	2－0	0 3	早川
吉田	10 2	0－2 棄権	15 10	松本
上村	6 11	0－2	15 15	高木

決勝
熊本大学 3 — 神戸医科大学 2

宮川 布田	15 15	2－0	2 0	福田 ？
上村 松本	15 18 11	1－2	17 16 15	瀬藤 鷲尾
松本	15 15	2－0	1 0	鷲尾
上村	1 4	0－2	7 4	瀬藤
吉田	15 15	2－0	4 4	福田昌

団体戦　女子　優勝

優勝　熊本大学
2位　長崎大学
3位　大阪大学

1回戦
熊本大学 2 — 関西医科大学 1

河北 水野	15 1 18	2－1	3 15 17	矢島 伊藤
水野	11 11	2－0	0 6	伊藤
深水 （河北）	0 2	0－2	11 11	矢島

2回戦
熊本大学 2？ — 神戸医科大学 ？

準決勝

熊本大学				広島大学
3		—		0
水野	15	2－0	2	西丸
甲斐	15		0	藤井
河北	11	2－0	7	西丸
	11		3	
水野	11	2－0	0	藤井
	11		0	

決勝

熊本大学				長崎大学
2		—		1
河北	15	2－0	9	藤原
水野	15		7	坂口
甲斐	11	2－0	5	福田
	11		0	
深水	0	0－2	11	藤原
（水野）	2		11	（坂口）

個人戦　男子ダブルス

上村・松本　組　優勝

準々決勝	2－0	堀口・田中（大阪市立）
	（15－1、15－3）	
準決勝	2－0	早川・松本（鹿児島）
	（15－9、15－1）	
決勝	2－0	中島・河合（金沢）
	（15－11、15－3）	

布田・宮川　組　ベスト4

準々決勝	2－0	波柴・鈴木（岡山）
	（15－10、15－10）	
準決勝	1－2	中島・河合（金沢）
	（10－15、15－11、8－15）	
3位決定戦	0－2	早川・松本（鹿児島）
	（15－7、2－15、8－15）	

個人戦　男子シングルス

松本　優勝

2回戦	2－0	大辻（大阪）
	（15－0、15－0）	
3回戦	2－0	芦田（関西医科）
	（15－3、15－3）	
4回戦	2－0	林（久留米）
5回戦	2－0	堀口（大阪市立）
	（15－3、15－1）	
準決勝	2－0	中島（金沢）
決勝	2－0	瀬藤（神戸医科）
	（15－5、15－4）	

上村

1回戦	2－1	大島（関西医科）
	（4－15、15－1、15－10）	
2回戦	2－0	中島（徳島）
	（15－1、15－4）	
3回戦	0－2	堀口（大阪市立）
	（5－15、11－15）	

吉田

1回戦	2－0	大島（大阪）
	（15－0、15－3）	
2回戦	2－0	早川（関西医科）
	（15－7、15－1）	
3回戦	0－2	中島（金沢）
	（3－15、11－15）	

宮川

1回戦	0－2	桧垣（京都）
	（15－1、15－0）	
2回戦	0－2	松本（鹿児島）
	（12－15、6－15）	

布田

2回戦	0－2	早川（鹿児島）
	（1－15、16－17）	

個人戦　女子ダブルス

河北・水野組　優勝

個人戦　女子シングルス

水野　優勝

昭和39年度
第3回　九州山口地区医科学生体育大会
場所　長崎市
期日　昭和39年5月3日～4日

団体戦　男子　リーグ戦

優勝　熊本大学　3勝　1敗

熊本大学				長崎大学
3		—		2
吉田	7	0－2	15	三宅
服部	10		15	浅山
布田	15	2－0	8	楠本
宮川	15		1	吉弘
服部	0	0－2	15	浅山
	1		15	
吉田	15	2－0	10	楠本
	15		7	
宮川	15	2－0	7	三宅
	15		7	

熊本大学				鹿児島大学
2		—		3
布田	15	2－0	1	高木
宮川	15		6	長嶋
吉田	1	0－2	15	松本
服部	1		15	早川
吉田	15	2－0	5	高木
	15		4	
布田	7	0－2	15	松本
	6		15	
宮川	5	0－2	15	早川
	4		15	

熊本大学				山口大学
5		—		0
布田	15	2－0	2	大山
宮川	15		0	池江
吉田	15	2－0	4	上田
服部	16		14	山県

服部	15 15	2－0	5 1	原
吉田	15 15	2－0	2 2	岡本
布田	15 15	2－0	0 1	延谷

熊本大学　3　—　2　久留米大学

吉田 服部	6 12	0－2	15 15	林 小林
布田 宮川	15 15	2－0	5 5	西原 薬師寺
吉田	15 6 17	2－0	10 15 15	小林
宮川	15 15	2－0	12 8	林
服部	2 1	0－2	15 15	薬師寺

団体戦　女子　リーグ戦

優勝　熊本大学　3勝　0敗

熊本大学　3　—　0　久留米大学

水野 深水	15 15	2－0	2 0	江崎 織部
深水	11 11	2－0	4 8	江崎
水野	11 11	2－0	1 0	織部

熊本大学　2　—　1　長崎大学

水野 深水	15 15	2－0	11 8	坂口 藤原
深水	5 0	0－2	11 11	坂口
水野	11 11	2－0	5 4	藤原

熊本大学　2　—　1　山口大学

水野 深水	18 15	2－0	16 8	梅田 小田
深水	0 1	0－2	11 11	山内
水野	11 11	2－0	1 0	小田

昭和39年度
第16回　西日本医科学生総合体育大会
場所　和歌山市
期日　昭和39年9月1日～4日

団体戦　男子　優勝

1回戦

熊本大学　4　—　1　和歌山医科大学

2回戦

熊本大学　5　—　0　鳥取大学

準決勝

熊本大学　3　—　2　鹿児島大学

決勝

熊本大学　4　—　1　岡山大学

優勝　熊本大学
2位　岡山大学
3位　鹿児島大学、久留米大学

団体戦　女子　優勝

2回戦

熊本大学　2　—　1　和歌山医科大学

準決勝

熊本大学　2　—　1　京都大学

決勝

熊本大学　4　—　1　大阪市立大学

優勝　熊本大学
2位　大阪市立大学
3位　京都大学、関西医科大学

個人戦　男子ダブルス
上村・松本　組　優勝

個人戦　男子シングルス
松本　2位

個人戦　女子ダブルス
河北・水野　組　優勝

個人戦　女子シングルス
水野　優勝

昭和40年度
第4回　九州山口地区医科学生体育大会
場所　熊本市（主管　熊本大学）
期日　昭和40年5月2日～3日

団体戦　男子　リーグ戦　2位

熊本大学　3　—　2　山口大学

布田 宮川	15 15	2－0	9 3	藤山 大池
上村 吉田	15 15	2－0	5 3	原 岡本
宮川	15 15	2－0	15 15	岡本
小山	2 7	0－2	10 9	大池

松元	0 2	0－2	15 15	藤山

熊本大学　1 — 4　久留米大学

上村 吉田	6 13	0－2	15 15	林 小林
布田 宮川	15 15	2－0	10 6	薬師寺 枝国
吉田	2 5	0－2	15 15	小林
宮川	15 5 4	1－2	9 15 15	林
上村	6 15 8	1－2	15 13 15	薬師寺

熊本大学　4 — 1　長崎大学

布田 宮川	15 15	2－0	5 0	井上 木下
上村 吉田	15 17 15	2－1	2 18 10	三宅 楠本
吉田	15 15	2－0	6 1	井上
上村	3 15 15	2－1	15 7 8	楠本
麻生 （宮川）	6 8	0－2	15 15	木下

熊本大学　3 — 2　鹿児島大学

上村 吉田	10 10	0－2	15 15	早川 松野
布田 宮川	15 15	2－0	4 11	高木 長嶋
吉田	15 7 13	2－1	12 15 15	早川
宮川	15 15	2－0	0 5	高木
上村	15 15	2－0	9 6	松野

団体戦　女子　リーグ戦　3位

熊本大学　1 — 2　九州大学

深水 大島	10 15 7	1－2	15 3 15	高木 鯨津
大島	11 9 1	1－2	8 12 11	川埜
深水	11 11	2－0	15 12 18	高木

熊本大学　3 — 0　久留米大学

深水 大島	15 15	2－0	5 2	織部 吉貴
深水	11 11	2－0	1 1	江崎
大島	7 12 8	2－0	11 10 11	溝田

熊本大学　0 — 3　山口大学

深水 大島	9 11	0－2	15 15	浅海 山内
深水	4 0	0－2	11 11	山内
大島	9 3	0－2	12 11	浅海

熊本大学　3 — 0　長崎大学

深水 大島	15 15	0－2	7 10	石井 松尾
大島	11 11	0－2	1 2	松尾
深水	11 11	0－2	2 0	吉田 （石井）

個人戦　男子ダブルス

布田・宮川　組　優勝

1回戦	2－0	楠本・三宅（長崎）
2回戦	2－0	枝国・西原（久留米）
準決勝	2－0	大池・藤山（山口）
決勝	2－0	上村・吉田（熊本）

上村・吉田　組　2位

1回戦	2－0	岡本・原（山口）
2回戦	2－0	林・小林（久留米）
準決勝	2－0	早川・松野（鹿児島）
決勝	0－2	布田・宮川（熊本）

個人戦　男子シングルス（新人戦）

小山

1回戦	2－0	林田（長崎）
2回戦	0－2	清水（久留米）

松元

1回戦	2－0	鈴山（長崎）
2回戦	0－2	王丸（久留米）

1回戦敗退　得平、麻生

個人戦　女子ダブルス　リーグ戦

深水・大島　組　2位　（3勝1敗）

深水・大島	2－0	吉崎・梅田（山口）
深水・大島	2－0	松尾・石井（長崎）
深水・大島	2－0	吉田・寺谷（長崎）
深水・大島	0－2	山内・浅海（山口）

昭和40年度
第17回　西日本医科学生総合体育大会
場所　山口
期日　昭和40年7月26日～29日

団体戦　男子　　優勝

2回戦

熊本大学			鳥取大学	
4		—	1	
布田 宮川	15 15	2−0	3 3	玉田 内藤
上村 松本	15 15	2−0	7 1	周防 蓮尾
吉田	15 15	2−0	6 5	蓮尾
小山 (松本)	4 2	0−2	15 15	周防
上村	15 15	2−0	6 10	寺原

3回戦

熊本大学			神戸大学	
5		—	0	
上村 松本	15 15	2−0	3 1	福田義 宮地
布田 宮川	15 15	2−0	3 3	福田 北見
松本	15 15	2−0	0 0	福田義
吉田	15 15	2−0	1 6	下浦 (福田)
松元 (上村)	15 15	2−0	2 6	中路 (北見)

準決勝

熊本大学			久留米大学	
4		—	1	
上村 松本	15 15	2−0	7 1	林 小林
布田 宮川	15 15	2−0	3 7	薬師寺 枝国
吉田	18 15	2−0	13 11	薬師寺
松本	15 15	2−0	2 1	林
上村	7 9	0−2	15 15	小林

決勝

熊本大学			岡山大学	
3		—	2	
布田 宮川	15 9 12	1−2	10 15 15	森口 清水
上村 松本	15 15	2−0	1 1	鈴木 森永
松本	15 15	2−0	2 6	清水
上村	5 3	0−2	15 15	森口
吉田	15 15	2−0	13 1	鈴木

団体戦　女子

2回戦

熊本大学			長崎大学	
1		—	2	

個人戦　男子ダブルス

上村・松本　組　　2位

2回戦	2−0	久保・柏井（和歌山） (15−2、15−3)
3回戦	2−0	福田・北見（神戸） (15−0、15−1)
4回戦	2−0	中江・田中（大阪市立） (15−4、15−3)
準決勝	2−0	布田・宮川（熊本） (15−12、15−5)
決勝	0−2	早川・松本（鹿児島） (8−15、12−15)

布田・宮川　組　　3位

2回戦	2−0	杉田・宮武（大阪）
3回戦	2−0	高木・長嶋（鹿児島）
4回戦	2−0	薬師寺・枝国（久留米） (15−6、15−6)
準決勝	0−2	上村・松本（熊本）
3位決定戦	2−1	鳥巣・福田（徳島）

小山・松元　組　　ベスト16

1回戦	2−0	浅田・尾上（和歌山） (15−0、15−0)
2回戦	2−1	福田・宮地（神戸）
3回戦	0−2	鳥巣・福田（徳島）

個人戦　男子シングルス

松本　　優勝

2回戦	2−0	麻生（熊本） (15−1、15−0)
3回戦	2−0	楠本（長崎） (15−0、15−0)
4回戦	2−0	枝国（久留米） (15−3、15−3)
5回戦	2−0	田中（大阪市立） (15−1、15−0)
準決勝	2−0	鳥巣（徳島） (15−8、15−10)
決勝	2−0	森口（岡山） (15−5、15−9)

吉田　　ベスト16

2回戦	2−0	植田（山口）
3回戦	2−0	阿部（大阪）
4回戦	0−2	清水（岡山）

松元

2回戦	2−1	寺原（鳥取）
3回戦	0−2	鳥巣（徳島）

1回戦敗退　　麻生、小山

個人戦　女子ダブルス

深水・大島　組

2回戦	0−2	浅海・山内（山口）

個人戦　女子シングルス

深水

2回戦	0−2	中野（鳥取）

大島

2回戦	0－2	矢尾（岡山）

昭和41年度
第5回　九州山口地区医科学生体育大会
場所
期日　　昭和41年

昭和41年度
第18回　西日本医科学生総合体育大会
場所
期日　　昭和41年

昭和42年度
第6回　九州山口地区医科学生体育大会
場所
期日　　昭和42年

昭和42年度
第19回　西日本医科学生総合体育大会
場所
期日　　昭和42年

記録なし

昭和43年度
第7回　九州山口地区医科学生体育大会
場所　　福岡大学記念会堂、九州大学体育館
期日　　昭和43年4月28日～29日

団体戦　男子　リーグ戦

1位	熊本大学	5勝　0敗
2位	久留米大学	4勝　1敗
3位	鹿児島大学	3勝　2敗
4位	山口大学	2勝　1敗
5位	長崎大学	1勝　4敗
6位	九州大学	0勝　5敗

熊本大学		久留米大学
4	—	1
松元 小山	2－0	清水 福田
宮川 吉村	2－0	枝国 薬師寺
宮川	2－0	袖田
松元	2－0	枝国
江上	2－0	吉岡

熊本大学		長崎大学
4	—	1
松元 小山	2－0	岡 木下
宮川 吉村	2－0	井上 白浜
吉村	2－0	岡
宮川	2－0	白浜
辻	1－2	森

熊本大学		九州大学
5	—	0
松元 小山	2－0	西原 丸山
鎌田 堀川	2－0	森 砂川
鎌田	2－0	西原
吉村	2－0	秦
本木下	2－0	丸山

熊本大学		山口大学
3	—	2
松元 小山	2－0	藤山 井上
宮川 吉村	2－0	植田 森木
吉村	1－2	藤山
宮川	2－0	井上
江上	0－2	植田

熊本大学		鹿児島大学
3	—	2
松元 小山	1－2	松本 大石
宮川 吉村	2－0	佐藤 北原
宮川	2－0	佐藤
松元	1－2	松本
吉村	2－0	北原

団体戦　女子　リーグ戦

1位	熊本大学	3勝　0敗
2位	長崎大学	2勝　1敗
3位	山口大学	1勝　2敗
4位	九州大学	0勝　3敗

熊本大学		九州大学
3	—	0
松永 戸泉	0－2	川埜 福永
松永	1－2	福永
戸泉	0－2	川埜

熊本大学		山口大学
3	—	0
松永 戸泉	2－0	山内 鈴木
松永	2－1	山内
戸泉	2－0	鈴木

熊本大学		長崎大学
2	—	1
松永 戸泉	2－0	石井 松尾
松永	2－1	松尾
戸泉	0－2	石井

個人戦　　女子ダブルス
松永・戸泉　組

1回戦	2－0	岡本・小里（長崎）
2回戦	2－0	川埜・福永（九州）
3回戦	0－2	山内・鈴木（山口）

昭和43年度
第20回　西日本医科学生総合体育大会
場所　　名古屋金山体育館、名古屋大学体育館
期日　　昭和43年8月26日～29日

団体戦　　男子　　ベスト8
2回戦

熊本大学				岐阜大学
4		—		1
吉村 宮川	15 15	2－0	2 1	浅井 渡辺
松元 小山	15 15	2－0	3 4	西 位田
吉村	15 15	2－0	3 7	西
宮川	12 15 6	1－2	15 3 15	位田
本木下	15 15	2－0	10 8	山元

3回戦

熊本大学				岡山大学
2		—		3
吉村 宮川	15 18	2－0	6 15	森永 山本
松元 小山	5 7	0－2	15 15	森口 清水
吉村	8 18 15	2－1	15 17 3	清水
宮川	8 15 16	1－2	15 12 18	山本
松元	6 8	0－2	15 15	森口

団体戦　　女子　　3位
1回戦

熊本大学				岐阜大学
3		—		0
松永 戸泉	15 15	2－0	5 5	尾川 田中
戸泉	11 11	2－0	3 1	田中
畑本	13 9	2－0	9 3	尾川

2回戦

熊本大学				長崎大学
2		—		0
松永 戸泉	15 15	2－0	5 0	松尾 岡本
戸泉	13 11	2－0	12 6	岡本

準決勝

熊本大学				岡山大学
0		—		2
松永 戸泉	4 6	0－2	15 15	矢尾 浜田
戸泉	1 0	0－2	11 11	矢尾

3位決定戦

熊本大学				山口大学
3		—		0
松永 戸泉	15 5 15	2－1	4 15 0	山内 鈴木
戸泉	3 1	0－2	11 11	山内
松永	11 11	2－0	0 2	縄田

個人戦　　男子ダブルス
吉村・宮川　組　　ベスト4

2回戦	2－0	星野・千葉（久留米）
3回戦	2－0	？
4回戦	2－0	長　・重政（鳥取）
5回戦	2－1	浅山・　岡（長崎）
準決勝	0－2	森口・清水（岡山）
3位決定戦	0－2	周防・内藤（鳥取）

松元・小山　組　　ベスト8

2回戦	2－0	
3回戦	2－0	渡辺・山元（岐阜）
4回戦	2－0	藤山・井上（山口）
5回戦	0－2	松本・松野（鹿児島）

堀川・本木下　組　　ベスト16

1回戦	2－0	市川・吉岡（岡山）
2回戦	2－0	柏井・久保（和歌山）
3回戦	2－1	首藤・北村（大阪）
4回戦	1－2	周防・内藤（鳥取）

個人戦　　男子シングルス
吉村

1回戦	2－0	星野（久留米）
2回戦	2－0	植田（神戸）
3回戦	2－0	山田（和歌山）
4回戦	2－0	北原（鹿児島）
5回戦	2－0	藤山（山口）
6回戦	0－2	森口（岡山）

宮川

1回戦	2－0	矢崎（鳥取）
2回戦	2－0	井上（山口）
3回戦	2－0	瀬戸（金沢）
4回戦	2－0	津田（関西）
5回戦	0－2	森口（岡山）

松元

2回戦	2－0	村田（三重）
3回戦	2－0	中村（関西）
4回戦	1－2	内藤（鳥取）

本木下

1回戦	2－1	佐藤（鳥取）
2回戦	0－2	北見（神戸）
3回戦	2－0	山田（和歌山）

辻

2回戦	－2	大石（鹿児島）

堀川

1回戦	1－2	清水（久留米）

個人戦　　女子ダブルス

松永・戸泉　組

2回戦	2－0	神谷・藤掛（岐阜）
3回戦	0－2	中野・是石（鳥取）

斉藤・園田　組

1回戦	2－0	田中・尾川（岐阜）
2回戦	0－2	塩見・高畠（岡山）

個人戦　　女子シングルス

松永

2回戦	2－0	高畠（岡山）
3回戦	2－0	是石（鳥取）
4回戦	1－2	山内（山口）

戸泉

2回戦	2－0	田中（岐阜）
3回戦	0－2	山内（山口）

斉藤

1回戦	2－0	尾川（岐阜）
2回戦	2－0	
3回戦	0－2	矢尾（岡山）

園田

1回戦	2－0	山田（大阪市）
2回戦	2－0	小里（長崎）
3回戦	0－2	難波（岡山）

畑本

1回戦	2－0	日高（徳島）
2回戦	2－0	富田（神戸）
3回戦	0－2	中野（鳥取）

昭和44年度
第8回　九州山口地区医科学生体育大会
場所　　鹿児島南高校体育館
期日　　昭和44年5月4日～5日

団体戦　　男子　　リーグ戦

優勝　　熊本大学　　5勝　0敗

熊本大学 4 — 1 鹿児島大学

宮川 吉村	15 15	2－0	2 13	松野 大石
小山 松元	15 11 15	2－1	12 15 10	佐藤 北原
吉村	6 12	0－2	15 15	松野
松元	12 15 15	2－1	15 10 10	北原
宮川	15 15	2－0	14 9	大石

熊本大学 3 — 2 長崎大学

宮川 吉村	15 15	2－0	13 12	岡 白浜
小山 松元	15 15	2－0	3 2	木下 本田
本木下	4 7	0－2	15 15	丸山
藤本	1 2	0－2	15 15	岡
松元	15 15	2－0	12 3	古河

熊本大学 5 — 0 九州大学

堀川 鎌田	15 15	2－0	1 7	丸山 土師
本木下 藤本	15 15	2－0	6 2	森 砂川
本木下	15 15	2－0	2 3	丸山
鎌田	15 15	2－0	0 3	渋谷
辻	15 15	2－0	1 5	嘉田山

熊本大学 3 — 2 山口大学

宮川 吉村	15 15	2－0	4 5	井上 植田
小山 松元	12 10	0－2	15 15	藤山 仁科
吉村	15 15	2－0	8 8	井上
宮川	5 4	0－2	15 15	藤山
松元	15 15	2－0	9 5	仁科

熊本大学 3 — 2 久留米大学

宮川 吉村	15 15	2－0	7 6	吉岡 日吉
小山 松元	13 7	0－2	15 15	清水 星野
宮川	13 15 3	1－2	15 2 15	清水
吉村	11 15 15	2－1	15 9 7	星野
松元	15 15	2－0	2 1	福田

団体戦　　女子　　リーグ戦

優勝　　熊本大学　　1勝　0敗

熊本大学　3 — 0　長崎大学

松永	15	2−0	1	岡本
斉藤	15		5	西田
斉藤	11	2−0	2	西田
	11		2	
松永	11	2−0	0	岡本
	11		2	

個人戦　男子ダブルス

宮川・吉村　組　優勝

1回戦	2−0	木下・鈴木（長崎）
2回戦	2−1	福田・清水（久留米）
準決勝	2−0	佐藤・北原（鹿児島）
決　勝	2−0	藤山・井上（山口）

個人戦　女子ダブルス

松永・斉藤　組　優勝

決　勝	2−0	岡本・西田（長崎）

個人戦　女子シングルス

松永　優勝

2回戦	2−0	西田（長崎）
決　勝	2−0	斉藤（熊本）

斉藤　準優勝

2回戦	2−1	岡本（長崎）
決　勝	0−2	松永（熊本）

畑本

1回戦	0−2	岡本（長崎）

昭和44年度
第21回　西日本医科学生総合体育大会
場所　大阪府東淀川体育館
期日　昭和44年8月26日〜29日

団体戦　男子　2位

1回戦

熊本大学　4 — 1　名古屋市立大学

吉村	15	2−0	2	柴田
宮川	15		1	横山
松元	15	2−0	3	立松
小山	15		4	万歳
宮川	15	1−2	3	立松
	2		15	
	2		15	
吉村	15	2−0	3	万歳
	15		4	
鎌田	18	2−0	14	柴田
	15		10	

2回戦

熊本大学　3 — 2　徳島大学

吉村	15	2−0	2	宮本
宮川	15		1	後東
松元	9	0−2	15	木村勇
小山	8		15	木村好
吉村	15	2−0	7	木村好
	15		7	
松元	15	2−0	11	宮本
	15		4	
宮川	11	0−2	15	後東
	4		7	

準決勝

熊本大学　3 — 2　鹿児島大学

松元	15	1−2	5	松野
	9		15	
小山	9		15	大石
宮川	15	2−0	8	佐藤
吉村	15		3	北原
吉村	15	2−0	4	北原
	15		6	
宮川	15	2−0	6	佐藤
	15		3	
松元	3	0−2	15	松野
	1		15	

決勝

熊本大学　0 — 3　岡山大学

吉村	15	2−0	6	清水
宮川	18		15	山本
松元	5	0−2	15	森口
小山	7		15	松尾
松元	15	1−2	2	山本
	2		15	
	8		15	

団体戦　女子　3位

1回戦

熊本大学　2 — 1　関西医科大学

松永	15	2−0	2	白木
斉藤	15		5	山本
松永	11	2−0	2	山本
	11		0	
斉藤	6	0−2	11	白木
	2		11	

準決勝

熊本大学　0 — 3　岡山大学

松永	5	0−2	15	矢尾
斉藤	0		15	塩見
松永	8	0−2	11	塩見
	3		11	
斉藤	0	0−2	11	矢尾
	5		11	

3位決定戦

熊本大学　3 — 0　長崎大学

松永	15	2−0	14	石井
斉藤	15		7	松尾
松永	11	2−0	5	石井
	11		1	
斉藤	11	2−0	0	西田
	11		9	

個人戦　　男子ダブルス

吉村・宮川　組

2回戦	2－0	日吉・矢野（　）
3回戦	2－0	貝尾・赤垣（鳥取）
4回戦	0－2	岡・白浜（長崎）
	（13－18、9－15）	

松元・小山　組

2回戦	2－0	橋本・矢部（徳島）
	（15－5、15－4）	
3回戦	0－2	清水・山本（岡山）

鎌田・木下（長崎）　組　　オープン

1回戦	2－1	大西・関田（神戸）

個人戦　　男子シングルス

吉村　　3位

2回戦	2－0	星島（鳥取）
	（15－3、15－3）	
3回戦	2－0	大石（鹿児島）
	（15－11、15－11）	
4回戦	2－0	落合（鹿児島）
	（15－1、15－1）	
5回戦	2－0	後東（徳島）
	（13－15、15－7、15－10）	
6回戦	2－0	清水（岡山）
	（15－0、15－10）	
準決勝	0－2	森口（岡山）
	（7－15、13－18）	
3位決定戦	2－1	山本（山口）
	（5－15、15－11、15－3）	

宮川　　ベスト8

2回戦	2－1	茂幾（関西）
	（15－5、11－15、15－5）	
3回戦	2－0	加納（鹿児島）
	（15－1、15－3）	
4回戦	2－0	山下（関西）
	（15－1、15－2）	
5回戦	2－1	木村好（徳島）
	（15－3、9－15、18－16）	
6回戦	0－2	山本（岡山）
	（2－15、4－15）	

松元

2回戦	2－0	松下（関西）
	（15－0、15－0）	
3回戦	0－2	吉岡（久留米）
	（10－15、12－15）	

鎌田

2回戦	2－0	大曲（久留米）
	（15－1、15－2）	
3回戦	2－0	大津（神戸）
	（15－8、15－1）	
4回戦	0－2	立松（名古屋市立）
	（8－15、9－15）	

江島

2回戦	0－2	山田（和歌山）

個人戦　　女子ダブルス

松永・斉藤　組　　3位

1回戦	2－0	吉田・松尾（鳥取）
	（15－5、15－1）	
2回戦	不戦勝	柴田・川上（大阪）
3回戦	2－0	石井・松尾（長崎）
	（15－9、15－5）	
準決勝	0－2	矢尾・浜田（岡山）
	（17－18、16－18）	
3位決定戦	2－1	塩見・高畠（岡山）
	（12－15、15－0、15－12）	

個人戦　　女子シングルス

松永　　3位

1回戦	不戦勝	
2回戦	2－0	大林（神戸）
	（11－0、11－1）	
3回戦	2－0	松尾（長崎）
	（11－3、11－1）	
4回戦	2－0	浜田（岡山）
	（11－5、11－0）	
準決勝	0－2	中野（鳥取）
	（8－11、1－11）	
3位決定戦	2－1	塩見（岡山）
	（8－11、12－10、11－8）	

斉藤

1回戦	2－0	吉田（鳥取）
	（11－9、11－3）	
2回戦	2－0	宇野（神戸）
	（11－3、11－1）	
3回戦	0－2	是石（鳥取）
	（7－11、1－11）	

昭和45年度
第9回　九州山口地区医科学生体育大会
場所
期日　　昭和45年6月6日～7日

団体戦　男子　リーグ戦　3勝2敗

熊本大学		3	—	0		九州大学
吉村	15			0		渋谷
宮川	15		2－0	0		稲生
鎌田	15			2		嘉多山
本木下	15		2－0	2		土師
田淵	18			14		
	15		2－0	1		渋谷
又吉	9		中止	15		土師
	15			2		

熊本大学		0	—	3		久留米大学
吉村	?			15		清水
宮川	18		1－2	17		星野
	8			15		
鎌田	4			15		福田
本木下	7		0－2	15		吉岡
本木下	3			15		
	5		0－2	15		吉岡

熊本大学				山口大学
3		—		2
鎌田	?	? −2	?	仁科
本木下	?		?	成田
吉村	15	2−0	12	井上
宮川	15		12	植田
鎌田	5	0−2	15	仁科
	11		15	
吉村	15	2−1	9	成田
	11		15	
	15		12	
宮川	?	2−?	?	井上

熊本大学				鹿児島大学
3		—		1
鎌田	15	2−0	0	野口
本木下	15		6	加納
宮川	15	1−2	?	佐藤
吉村	5		15	北原
	10		15	
宮川		2−0		落合
本木下		0−2		北原

熊本大学				長崎大学
3		—		2
鎌田		0−2		白浜
本木下				岡
宮川		2−0		本田
吉村				古河
吉村		0−2		白浜
本木下		0−2		岡
宮川	15	2−0	8	古河
	15		10	

昭和45年度
第22回　西日本医科学生総合体育大会
場所
期日　　昭和45年8月4日～?日

団体戦　　男子　　4位

1回戦

熊本大学				名古屋市立大学
5		—		0
鎌田	15	2−0	8	立松
本木下	15		10	万歳
宮川	15	2−0	3	横山
吉村	15		1	能登
宮川	15	2−0	1	横山
	15		2	
吉村	15	2−0	4	立松
	15		0	
垂	15	2−0	3	能登
	15		10	

2回戦

熊本大学				鳥取大学
4		—		1
宮川	12	2−1	15	内藤
吉村	15		10	重政
	15		10	
鎌田	1	0−2	15	近藤
本木下	8		15	青山
宮川	15	途中棄権	14	青山
	○		×	
吉村	15	2−0	4	重政
	15		4	
本木下	15	2−0	10	内藤
	15		10	

準決勝

熊本大学				山口大学
2		—		3
吉村	15	2−0	10	仁科
宮川	15		11	成田
鎌田	11	0−2	15	植田
本木下	5		15	井上
本木下	8	0−2	15	成田
	4		15	
吉村	15	2−0	2	土居
	15		2	
宮川	6	0−2	15	仁科
	3		15	

3位決定戦

熊本大学				久留米大学
2		—		3
垂	17	0−2	18	日吉
堀川	13		18	石坂
又吉	15	2−1	18	宮城
田淵	18		13	矢野
	17		15	
又吉	15	2−0	5	矢野
	15		9	
田淵		1−2		宮城
垂	6	0−2	15	石坂
	5		15	

団体戦　　女子　　3位

1回戦

熊本大学				神戸大学
3		—		0
斉藤	15	2−0	3	大林
畑本	15		1	高雄
斉藤	11	2−0	0	矢野
	11		0	
柳瀬	11	2−0	1	高雄
	11		2	

2回戦

熊本大学				岡山大学
0		—		3
斉藤	6	0−2	15	塩見
畑本	11		15	梶野
畑本	3	0−2	11	塩見
	6		11	
柳瀬	3	0−2	11	高畠
	2		11	

3位決定戦

熊本大学				和歌山大学
2		—		1
斉藤	15	2−0	7	山本
畑本	15		2	藤井

斉藤	11 11	2－0	3 4	山本
柳瀬	1 2	2－0	11 11	藤井

昭和46年度
第10回　九州山口地区医科学生体育大会
場所
期日　　昭和46年

記録なし

昭和46年度
第23回　　西日本医科学生総合体育大会
場所　　京　都
期日　　昭和46年8月4日～7日

団体戦　　男子　　ベスト4（3位）
予選リーグ

熊本大学		金沢大学
5	—	0
熊本大学		京都府立医科大学
5	—	0

準々決勝

熊本大学		鳥取大学
3	—	0

準決勝

熊本大学		山口大学
2	—	3

本木下 垂	6 2	0－2	15 15	仁科 成田
宮川 濱田	15 15	2－0	8 10	土居 木矢
濱田	15 15	2－0	3 4	仁科
宮川	8 6	0－2	15 15	成田
垂	2 3	0－2	15 15	土居

団体戦　　女子　　2位
準々決勝

熊本大学		三重県立大学
2	—	0

準決勝

熊本大学		鳥取大学
2	—	0

決勝

熊本大学		岡山大学
1	—	2

斉藤 畑本	0－2	塩見 河野
斉藤	2－0	河野
柳瀬	0－2	塩見

個人戦　　男子ダブルス
宮川・濱田　組　　優勝

準々決勝	2－1 （13－15、15－7、17－15）	福田・吉岡（久留米）
準決勝	2－0 （15－4、15－9）	北岡・佐藤（鹿児島）
決勝	2－1 （13－15、18－14、15－0）	山本・木村（岡山）

個人戦　　男子シングルス
宮川　　ベスト32

個人戦　　女子ダブルス
斉藤・畑本　組　　3位

準決勝	0－2	塩見・河野（岡山）
3位決定戦	2－0	吉田・松尾（鳥取）

個人戦　　女子シングルス
斉藤　　3位

準々決勝	2－0	高畠（岡山）
準決勝	0－2	塩見（岡山）
3位決定戦	2－0	辻本（山口）

畑本　　ベスト8

準々決勝	0－2	辻本（鳥取）

昭和47年度
第11回　九州山口地区医科学生体育大会
場所　　久留米
期日　　昭和47年

団体戦　男子　　2位または3位

個人戦　男子ダブルス
濱田・吉永　組　　2位

昭和47年度
第24回　西日本医科学生総合体育大会
場所　　長　崎
期日　　昭和47年8月1日～4日

団体戦　　男子
予選リーグ

熊本大学		三重大学
5	—	0
熊本大学		関西医科大学
2	—	3

濱田 吉永	2－0	中根 中村
垂 又吉	1－2	山本 津田
濱田	2－0	中根
吉永	0－2	山本
又吉	0－2	津田

女子団体　　2位
準決勝

熊本大学		山口大学
2	—	1

決勝

熊本大学		岡山大学
0	—	2

個人戦　男子ダブルス

濱田・吉永　組　2位

準々決勝	2－0	木村・上田（徳島）
準決勝	2－0	星野・吉岡（久留米）
決勝	0－2	白浜・古河（長崎）
	（12－15、6－15）	

個人戦　男子シングルス

濱田　優勝

準々決勝	2－0	鹿子木（山口）
	（15－0、15－8）	
準決勝	2－0	成田（山口）
	（15－2、15－2）	
決勝	不戦勝	白浜（長崎）

個人戦　女子ダブルス

斉藤・柳瀬　組　3位

準決勝	0－2	塩見・河野（岡山）
3位決定戦	2－0	辻本・朝見（山口）

個人戦　女子シングルス

斉藤　3位

準決勝	1－2	河野（岡山）
3位決定戦	2－0	辻本（山口）

昭和47年度
第6回　全日本医科学生総合体育大会
場所　宇　部
期日　昭和47年8月31日～9月1日

個人戦　男子ダブルス

濱田・吉永　組　2位

準決勝	2－1	小林・桑田（滋賀医科）
	（15－3、1－15、15－12）	
決勝	0－2	白浜・古河（長崎）
	（12－15、10－15）	

個人戦　男子シングルス

濱田　優勝

準々決勝	2－0	古河（長崎）
	（15－0、15－4）	
準決勝	2－0	杉本（信州）
	（15－0、15－0）	
決勝	2－0	白浜（長崎）
	（15－9、15－3）	

昭和48年度
第12回　九州山口地区医科学生体育大会
場所　宇　部
期日　昭和48年5月2日～3日

団体戦　男子　リーグ戦

1位	山口大学	5勝0敗
2位	長崎大学	4勝1敗
3位	熊本大学	3勝2敗

熊本大学		長崎大学
0	—	3
ダブルス	0－2	
シングルス	0－1	

熊本大学		九州大学
3	—	0
ダブルス	2－0	
シングルス	1－0	

熊本大学		鹿児島大学
3	—	1
ダブルス	1－1	
シングルス	2－0	

熊本大学		久留米大学
3	—	2
ダブルス	1－1	
シングルス	2－1	

熊本大学		山口大学
0	—	3
ダブルス	0－2	
シングルス	0－1	

団体戦　女子　リーグ戦

1位	山口大学	4勝0敗
2位	熊本大学	3勝1敗

熊本大学		長崎大学
2	—	0
ダブルス	1－0	
シングルス	1－0	

熊本大学		山口大学
1	—	2
ダブルス	1－0	
シングルス	0－2	

熊本大学		久留米大学
2	—	0
ダブルス	1－0	
シングルス	1－0	

熊本大学		九州大学
2	—	0
ダブルス	1－0	
シングルス	1－0	

昭和48年度
第25回　西日本医科学生総合体育大会
場所　岐　阜
期日　昭和48年7月21日～24日

団体戦　男子　2位

予選リーグ

熊本大学		名古屋保健衛生大学
5	—	0

ダブルス	2－0
シングルス	3－0

熊本大学　4　—　1　川崎医科大学

ダブルス	2－0
シングルス	2－1

決勝トーナメント

1回戦

熊本大学　3　—　0　鳥取大学

ダブルス	2－0
シングルス	1－0

2回戦

熊本大学　4　—　1　岡山大学

ダブルス	1－1
シングルス	3－0

準決勝

熊本大学　3　—　0　徳島大学

ダブルス	2－0
シングルス	1－0

決勝

熊本大学　1　—　3　山口大学

林田 吉永	5 6	0－2	15 15	土居 鹿子木
濱田 竹口	17 15	2－0	14 5	成田 沼
吉永	2 5	0－2	15 15	土居
竹口	7 8	0－2	15 15	成田

団体戦　女子　2位

2回戦

熊本大学　2　—　0　岐阜大学

ダブルス	1－0
シングルス	1－0

準決勝

熊本大学　2　—　1　山口大学

ダブルス	1－0
シングルス	1－1

決勝

熊本大学　0　—　2　岡山大学

斉藤 柳瀬	0－2	塩見 河野
斉藤	0－2	塩見

個人戦　男子ダブルス

濱田・吉永　組　優勝

準々決勝	2－0	筒井・村山（関西医科）
準決勝	2－0	成田・土居（山口）
決勝	2－0	片山・梶田（岡山） （15－11、15－6）

林田・竹口　組　ベスト16

個人戦　男子シングルス

濱田　ベスト8

準々決勝	0－2	土居（山口）

林田　ベスト16

個人戦　女子ダブルス

斉藤・柳瀬　組　2位

個人戦　女子シングルス

斉藤　ベスト4

昭和48年度
第7回　全日本医科学生総合体育大会
場所　松　本
期日　昭和48年8月30日～31日

団体戦　男子　優勝

1回戦

熊本大学　4　—　1　信州大学

濱田 吉永	2－0	浅尾 杉田
林田 竹口	1－2	杉本 八木
竹口	2－0	松沢
濱田	2－0	杉本
吉永	2－0	八木

準決勝

熊本大学　3　—　1　弘前大学

濱田 吉永	2－0	石井 佐野
林田 竹口	1－2	大久保 奈良
竹口	1－1 （打切）	佐野
吉永	2－0	石井
濱田	0－2	大久保

決勝

熊本大学　3　—　2　山口大学

濱田 吉永	15 15	2－0	4 6	土居 鹿子木
林田 竹口	15 5 15	1－2	2 15 17	大村 沼
濱田	15 15	2－0	2 5	沼
吉永	6 12	0－2	15 15	土居
竹口	15 15	2—0	13 11	大村

個人戦　　男子ダブルス

濱田・吉永　組　　優勝

2回戦	2－0	尾仲・外部田（信州）
3回戦	2－0	矢野・安武（久留米）
準決勝	0－2	土居・鹿子木（山口）
	（15－6、15－10）	
決勝	2－0	星野・石坂（久留米）
	（15－7、15－11）	

林田・竹口　組　　ベスト4

1回戦	2－0	和気・伊波（信州）
2回戦	2－1	杉本・八木（信州）
3回戦	2－0	伊藤・南郷（慈恵医科）
準決勝	0－2	星野・石坂（久留米）
	（5－15、5－15）	
3位決定戦	0－2	土居・鹿子木（山口）

個人戦　　男子シングルス

濱田　　優勝

2回戦	2－0	伊藤（慈恵医科）
3回戦	2－0	大久保（弘前）
	（15－1、15－0）	
4回戦	2－1	竹内（岩手医科）
	（7－15、15－6、15－5）	
準決勝	2－0	星野（久留米）
	（15－9、15－5）	
決勝	2－0	杉本（信州）
	（15－3、17－14）	

林田　　ベスト8

2回戦	2－1	石井（弘前）
3回戦	2－0	小林（慈恵医科）
	（15－10、15－7）	
4回戦	0－2	星野（久留米）
	（9－15、5－15）	

竹口　　ベスト8

2回戦	2－0	竹前（信州）
3回戦	2－1	佐野（弘前）
	（10－15、15－7、15－3）	
4回戦	0－2	土居（山口）
	（6－15、7－15）	

吉永

2回戦	2－0	長沢（慈恵医科）
3回戦	0－2	杉本（信州）
	（7－15、7－15）	

昭和49年度
第13回　九州山口地区医科学生体育大会
場所　　福岡市民体育館
期日　　昭和49年5月3日～4日

団体戦　男子　　リーグ戦

1位	熊本大学	4勝0敗
2位	山口大学	3勝1敗
3位	長崎大学	2勝2敗
4位	久留米大学	1勝3敗
5位	九州大学	0勝4敗

熊本大学　　九州大学

5　　—　　0

林田	15	2－0	10	入田
竹口	15		3	本田
柴田	9	2－1	15	今山
木村	15		7	稲生
	15		5	
濱田	15	2－0	0	入田
	15		4	
吉永	15	2－0	4	本田
	15		0	
乃木田	15	2－0	1	飯田
	15		5	

熊本大学　　長崎大学

5　　—　　0

濱田	15	2－0	11	平井
吉永	15		4	浦田
林田	15	2－0	3	角田
竹口	15		3	土井
濱田	15	2－0	0	浦田
	15		4	
竹口	15	2－0	8	土井
	15		6	
垂	15	2－0	10	平田
	15		7	

熊本大学　　久留米大学

4　　—　　1

濱田	15	2－0	5	石坂
吉永	15		5	安武
垂	14	0－2	17	矢野
乃木田	7		15	岡
濱田	15	2－0	1	石原
	15		0	
吉永	15	2－0	3	石坂
	15		8	
竹口	15	2－0	10	安武
	15		10	

熊本大学　　山口大学

3　　—　　2

濱田	15	2－0	7	土居
吉永	15		3	鹿子木
林田	15	2－0	10	大村
竹口	15		9	沼
濱田	15	2－0	4	土居
	15		2	
吉永	15	1－2	10	大村
	16		17	
	12		15	
竹口	11	0－2	15	鹿子木
	10		15	

個人戦　　男子ダブルス

濱田・吉永　組　　優勝

2回戦	2－0	井上・本間（山口）
	（15－0、15－2）	
3回戦	2－0	矢野・岡（久留米）
	（15－2、15－6）	
準決勝	2－0	大村・沼（山口）
	（15－5、15－3）	

決勝	2－0	土居・鹿子木（山口） （15－12、15－11）

林田・竹口　組　　ベスト8

1回戦	2－0	中田・荘田（長崎） （15－0、15－1）
2回戦	2－0	高瀬・山口（長崎） （15－2、15－7）
3回戦	0－2	土居・鹿子木（山口） （11－15、4－15）

垂・乃木田　組　　ベスト8

1回戦	2－0	武藤・淵上（久留米） （15－0、15－2）
2回戦	2－1	角田・土井（長崎） （10－15、15－5、15－9）
3回戦	0－2	大村・沼（山口） （6－15、8－15）

柴田・木村　組

1回戦	2－0	久保・日吉（久留米） （15－3、15－3）
2回戦	0－2	平井・浦田（長崎） （5－15、5－15）

個人戦　　男子シングルス（新人戦）

柴田　　優勝

1回戦	2－0	中西（長崎） （15－2、15－9）
2回戦	2－0	飯田（九州） （15－2、15－4）
準決勝	2－1	乃木田（熊本） （15－2、10－15、15－12）
決勝	2－0	木村（熊本） （15－9、15－5）

木村　　2位

1回戦	2－0	平井（久留米） （15－3、15－0）
2回戦	2－0	花房（久留米） （17－15、15－1）
準決勝	2－1	本田（九州） （15－2、10－15、15－12）
決勝	0－2	柴田（熊本）

乃木田　　ベスト4

2回戦	2－0	荘田（長崎） （15－4、15－7）
準決勝	1－2	柴田（熊本）

個人戦　　女子シングルス

優勝	辻本	（山口）
2位	託間	（九州）
3位	岡	（熊本）

昭和49年度
第26回　西日本医科学生総合体育大会
場所　　神戸市立中央体育館、神戸大学体育館
期日　　昭和49年

団体戦　　男子　　決勝トーナメント

2回戦

熊本大学				岡山大学
2		—		3
濱田 吉永	15 15	2－0	8 6	片山 梶田
林田 竹口	4 6	0－2	15 15	藪野 宮崎
濱田	9 3	0－2	15 15	片山
吉永	14 7	0－2	17 15	梶田
竹口	6 15 15	2－1	15 4 8	室崎

団体戦　　女子　　エントリーミスのため
オープン戦のみ

個人戦　　男子ダブルス

濱田・吉永　組　　優勝

準々決勝	2－0	大村・沼（山口） （15－3、15－11）
準決勝	2－0	安武・石坂（久留米） （15－4、15－5）
決勝	2－0	片山・梶田（岡山） （15－6、15－5）

林田・竹口　組　　ベスト16
垂・乃木田　組　　3回戦敗退
柴田・木村　組　　3回戦敗退

個人戦　　男子シングルス

濱田　　優勝

6回戦	2－0	竹口（熊本） （18－13、15－3）
準々決勝	2－0	室先（岡山） （15－2、15－9）
準決勝	2－0	土居（山口） （15－7、15－6）
決勝	2－0	片山（岡山） （15－5、15－5）

林田　　ベスト8

6回戦	2－0	永瀬（関西医科）
準々決勝	0－2	土居（山口） （3－15、8－15）

竹口　　ベスト16
垂　　ベスト32
吉永　　ベスト32
4回戦敗退　　柴田、乃木田

個人戦　　女子ダブルス

柳瀬・岡　組　　2位

2回戦	2－0	上野・箸方（関西医科）
3回戦	2－0	西野・茅嶋（久留米）
4回戦	2－1	岸上・芝崎（和歌山）
準決勝	2－1	金谷・水野（神戸）
決勝	1－2	河野・渡辺（岡山） （17－15、7－15、5－15）

個人戦　　女子シングルス

柳瀬　　ベスト4

2回戦	2－0	山田（名古屋保衛）
3回戦	2－0	岸上（和歌山）
4回戦	2－0	難波（岡山）
5回戦	2－0	？
準決勝	1－2	正井（関西医）
3位決定戦	0－2	渡辺（岡山） （6－11、6－11）

岡　　ベスト8

1回戦	2－0	柴田（名古屋市）
2回戦	2－0	三田村（九州）
3回戦	2－0	西本（岐阜）
4回戦	2－1	金谷（神戸）
5回戦	0－2	河野（岡山）

昭和50年度
第14回　九州山口地区医科学生体育大会
場所　　鹿児島
期日　　昭和50年5月2日～3日

団体戦　　男子　　リーグ戦

優勝	熊本大学	6勝	0敗
2位	山口大学	5勝	1敗
3位	長崎大学	4勝	2敗

熊本大学　3　—　2　九州大学

林田 竹口	15 15	2－0	1 4	入田 飯田
柴田 乃木田	15 15	2－0	5 3	志間 清水
中村	11 12	0－2	15 15	田所
木村	15 15	2－0	10 9	真島
小野	5 7	0－2	15 15	志間

熊本大学　5　—　0　長崎大学

濱田 吉永	15 15	2－0	5 1	浦田 土井
林田 竹口	15 15	2－0	11 10	平井 角田
濱田	15 15	2－0	1 1	土井
林田	15 15	2－0	4 4	中西
吉永	15 15	2－0	2 4	角田

熊本大学　5　—　0　久留米大学

濱田 吉永	15 15	2－0	5 3	安武 岡
林田 竹口	14 7	0－2	7 11	石原 西田
柴田	12 15 15	2－1	15 6 11	安武
乃木田	15 15	2－0	2 7	山口
竹口	15 15	2－0	0 2	岡

熊本大学　5　—　0　山口大学

濱田 吉永	15 15	2－0	4 9	沼 鹿子木
林田 竹口	15 15	2－0	8 8	大村 本間
濱田	15 15	2－0	1 2	大村
吉永	15 15	2－0	8 9	沼
竹口	11 10	2－0	12 11	鹿子木

熊本大学　4　—　1　宮崎医科大学

柴田 乃木田	15 15	2－0	2 1	吉原 丸山
中村 小野	15 15	2－0	0 9	藤田 植木
木村	10 15 13	1－2	15 12 18	水野
柴田	15 15	2－0	1 0	河野
中村	11 10	2－0	1 1	丸山

熊本大学　3　—　0　鹿児島大学

柴田 乃木田	15 15	2－0	1 1	徳村 田島
中村 小野	15 15	2－0	10 2	宮原 吉開
吉永	10 15	2－0	11 6	中田

個人戦　　男子ダブルス

濱田・吉永　組　　優勝

1回戦	2－0	赤木・平井（久留米） （15－6、15－7）
2回戦	2－0	中西・西村（長崎） （15－7、15－8）
3回戦	2－0	中田・矢野（鹿児島） （15－0、15－7）
準決勝	2－0	浦田・土井（長崎） （15－8、15－4）
決勝	2－0	林田・竹口（熊本） （15－6、15－12）

林田・竹口　組　　2位

1回戦	2－0	城・久布白（久留米） （15－2、15－0）
2回戦	2－0	入田・飯田（九州） （15－8、15－8）

3回戦	0－2	鹿子木･井上（山口）
	（18－16、15－7）	
準決勝	2－0	大村･沼（山口）
	（15－6、15－12）	
決勝	0－2	濱田・吉永（熊本）

柴田・乃木田　組　　ベスト１６

1回戦	2－0	須子・黒岩（久留米）
	（15－6、15－2）	
2回戦	0－2	大村･沼（山口）
	（7－15、10－15）	

中村・小野　組

1回戦	0－2	石原・安武（久留米）
	（4－15、0－15）	

魚住・瀬戸　組

1回戦	2－0	野方・栗原（長崎）
	（15－3、15－11）	
2回戦	0－2	浦田・土井（長崎）
	（2－15、2－15）	

個人戦　　女子シングルス

岡　　2位

2回戦	2－0	西野（久留米）
	（11－1、11－0）	
3回戦	2－0	坂口（長崎）
	（11－3、11－0）	
決勝	0－2	託間（九州）
	（8－11、8－11）	

昭和50年度
第27回　西日本医科学生総合体育大会
場所　　岡　山
期日　　昭和50年7月26日～29日

団体戦　　男子　　予選リーグ

熊本大学　3　—　2　金沢医科大学

濱田	15	2－0	3	村田
吉永	15		2	枡崎
林田	15	2－0	3	?
竹口	15		1	?
林田	15	2－0	3	枡崎
	15		0	

熊本大学　5　—　0　大阪大学

柴田	15	2－0	7	松村
乃木田	15		13	和田
林田	15	2－0	1	加藤
竹口	15		1	曾我
吉永	15	2－0	1	松村
	15		1	
竹口	15	2－0	4	和田
	15		0	

決勝トーナメント
1回戦
熊本大学　3　—　0　奈良県立医科大学

濱田	15	2－0	1	布谷
吉永	15		2	菊池
柴田	16	2－1	17	松村
乃木田	15		7	村尾
	15		14	
林田	15	2－0	1	村尾
	15		4	

2回戦
熊本大学　3　—　0　山口大学

林田	15	2－0	4	大村
竹口	15		7	田中
濱田	15	2－0	3	鹿子木
吉永	15		2	沼
濱田	15	2－0	1	沼
	15		1	
吉永	5	打ち切り	15	鹿子木

準決勝
熊本大学　3　—　0　京都府立医科大学

濱田	15	2－0	5	太田
吉永	15		7	杉原
林田	15	2－0	11	北川
竹口	15		3	関
竹口	15	打ち切り	7	?
	10		2	
濱田	15	2－0	3	杉原
	15		0	

決勝
熊本大学　3　—　2　岡山大学

濱田	12	2－1	15	片山
吉永	15		4	梶田
	15		10	
林田	15	1－2	3	藪野
竹口	2		15	室崎
	6		15	
濱田	15	2－0	4	片山
	15		12	
吉永	3	0－2	15	室崎
	14		15	
竹口	6	2－1	15	梶田
	18		14	
	15		6	

個人戦　　男子ダブルス

濱田・吉永　組　　優勝

1回戦	2－0	大石･山本（九州）
2回戦	2－0	梶間・渡辺（岐阜）
3回戦	2－0	松村・村尾（奈良）
4回戦	2－0	田中・坪内（岐阜）
5回戦	2－0	姜・黒田（神戸）
	（15－2，15－1）	
準決勝	2－0	藪野・室崎（岡山）
	（15－2、15－2）	
決勝	2－0	片山・梶田（岡山）
	（15－6、15－9）	

林田・竹口　組　　ベスト１６

1回戦	2－0	荘田・酒井（長崎）
2回戦	2－0	井上・清水（岐阜）
3回戦	2－0	入田・飯田（九州）
4回戦	1－2	安武・岡（久留米）

柴田・乃木田　組

1回戦	2－0	不破・梅木（岐阜）
2回戦	0－2	大田・杉原（京都府）

木村・小野　組

0回戦	2－1	加藤・曾我（大阪）
1回戦	0－2	切田・岡本（神戸）

又吉・中村　組

1回戦	2－0	橋本・野村（鳥取）
2回戦	0－2	大村・沼（山口）

瀬戸・魚住　組

0回戦	不戦勝	金丸・田中（京都府）
1回戦	0－2	平井・浦田（長崎）

個人戦　　男子シングルス

濱田　　優勝

1回戦	2－0	岩瀬（岐阜）
2回戦	2－0	山門（三重）
3回戦	2－0	阪口（大阪市立）
4回戦	2－0	寺西（三重）
5回戦	2－0	中田（鹿児島）
6回戦	2－0	鹿子木（山口） （15－1、15－3）
準決勝	2－0	室崎（岡山） （15－1、15－3）
決勝	2－0	梶田（岡山） （15－1、15－9）

竹口　　ベスト16

1回戦	2－0	大元（川崎医科）
2回戦	2－0	斉藤（岐阜）
3回戦	2－0	元木（徳島）
4回戦	2－0	土井（長崎）
5回戦	0－2	鹿子木（山口）

吉永　　ベスト32

1回戦	2－0	坂本（大阪市立）
2回戦	2－0	池平（神戸）
3回戦	2－0	松村（奈良）
4回戦	1－2	宮崎（大阪市立）

柴田　　ベスト32

1回戦	不戦勝	福屋（川崎医科）
2回戦	2－0	伏見（名古屋市立）
3回戦	2－0	矢部（徳島）
4回戦	1－2	安武（久留米）

林田

1回戦	2－0	岩田（岐阜）
2回戦	2－0	日吉（久留米）
3回戦	1－2	関（京都府立）

乃木田

1回戦	2－0	古谷（神戸）
2回戦	2－0	田中（山口）
3回戦	0－2	片山（岡山）

又吉

1回戦	不戦勝	水野（名古屋保健衛生
2回戦	0－2	黒田（神戸）

中村

1回戦	2－1	井上（岐阜）
2回戦	0－2	上田（関西医科）

0回戦敗退　　魚住、小野、木村
1回戦敗退　　瀬戸、藤平

個人戦　　女子シングルス

岡　　3位

2回戦	2－0	山田（名古屋保健衛生）
3回戦	2－0	坂本（大阪市立）
4回戦	2－0	片山（岐阜）
5回戦	2－0	箸方（関西医科）
	（11－5、11－1）	
準決勝	1－2	渡辺（岡山）
	（11－7，2－11，5－11）	
3決定戦	2－1	上野（三重）
	（8－11、11－4、11－5）	

昭和51年度
第15回　九州山口地区医科学生体育大会
場所　　長崎国際体育館
期日　　昭和51年5月4日～5日

団体戦　　男子　　リーグ戦

1位	熊本大学	6勝0敗
2位	山口大学	5勝1敗
3位	長崎大学	4勝2敗

熊本大学		3	—	0		九州大学
濱田	15	2－0		0		志間
吉永	15			0		清水
林田	15	2－0		5		飯田
竹口	15			4		真島
濱田	11 12	0－2		0 3		入田

熊本大学		3	—	0		長崎大学
林田 竹口	12 15 18	2－1		15 2 16		浦田 土井
濱田	15	2－0		2		西村
吉永	15			2		中西
濱田	15 15	2－0		0 0		荘田

熊本大学		4	—	0		久留米大学
濱田	15	2－0		0		内山
吉永	15			2		名嘉間
柴田 乃木田	15 14 15	2－1		12 17 8		岡 山口
魚住	15 15	2－0		11 8		日吉

濱田	15 15	2－0	2 7	赤木

熊本大学 3 — 山口大学 0

濱田 吉永	15 15	2－0	2 0	井上 本間
林田 竹口	15 15	2－0	12 11	鹿子木 田中
吉永	15 15	2－0	2 3	本間

熊本大学 5 — 宮崎医科大学 0

林田 竹口	15 15	2－0	3 5	水野 河野
瀬戸 魚住	15 15	2－0	5 0	正岡 岡田
柴田	15 13	1－2	1 3	原田
藤平	15 15	2－0	9 3	正岡
中村	15 15	2－0	3 10	水野

熊本大学 3 — 鹿児島大学 0

柴田 乃木田	15 15	2－0	6 4	中田 梅原
吉永	15 15	2－0	13 4	中田
竹口	10 15	2－0	1 4	梅原

団体戦　女子　リーグ戦

1位	熊本大学	4勝0敗
2位	山口大学	3勝1敗
3位	久留米大学	2勝2敗

熊本大学 2 — 久留米大学 0

岡 神川	15 15	2－0	11 8	茅島 西野
岡	11 11	2－0	0 5	西野

熊本大学 2 — 山口大学 0

岡 神川	15 15	2－0	2 9	田中 平田
岡	11 11	2－0	0 3	平田

熊本大学 2 — 九州大学 0

岡 神川	15 15	2－0	5 4	詫間 神志那
岡	11 11	2－0	0 5	神志那

熊本大学 2 — 長崎大学 0

岡 神川	15 15	2－0	1 13	坂口 橋本
岡	11 11	2－0	0 3	別府

個人戦　男子ダブルス

濱田・吉永　組　優勝

1回戦	2－0	是石・清水（山口）
2回戦	2－0	名嘉間・内田（久留米）
3回戦	2－0	本間・井上（山口）
準決勝	不戦勝	中田・梅原（鹿児島）
決勝	2－0 （15－11、15－0）	鹿子木・田中（山口）

林田・竹口　組　ベスト4

1回戦	2－0	正岡・岡田（宮崎医科）
2回戦	2－0	大石・高橋（山口）
3回戦	0－2	入田・飯田（九州）
準決勝	1－2 （4－15、15－11、11－15）	鹿子木・田中（山口）
3決	1－2 （15－10、10－15、7－15）	中田・梅原（鹿児島）

柴田・乃木田　組　ベスト8

1回戦	2－0	淵上・城（久留米）
2回戦	2－1	土井・浦田（長崎）
3回戦	0－2	鹿子木・田中（山口）

魚住・瀬戸　組

1回戦	2－0	水野・河野（宮崎医科）
2回戦	0－2	山口・岡（久留米）

中村・藤平　組

1回戦	0－2	山口・岡（久留米））

個人戦　男子シングルス（新人戦）

瀬戸　2位

1回戦	2－0	杉山（長崎）
2回戦	2－0	田中（長崎）
準決勝	2－0 （15－4、15－4）	姫野（長崎）
決勝	0－2 （16－17、10－15）	安武（久留米）

魚住　3位

1回戦	2－0	杉山（長崎）
2回戦	2－0	星野（久留米）
準決勝	1－2 （8－15、15－12、6－15）	安武（久留米）
3位決定戦	2－1 （16－18、15－3、15－3）	姫野（長崎）

個人戦　女子ダブルス

岡・神川　組　3位

1回戦	2－0	橋本・別府（長崎）
準決勝	1－2 （15－11、12－15、13－15）	茅島・西野（久留米）
3位決定戦	2－0 （15－10、15－4）	詫間・神志那（九州）

個人戦　女子シングルス

岡　優勝

1回戦	2－0	下川（長崎）
2回戦	2－0	田中（山口）
準決勝	2－0 （11－0，11－0）	坂口（長崎）
決勝	2－0 （11－0、11－2）	託間（九州）

神川

1回戦	0－2	茅島（久留米）

昭和51年度
第28回　西日本医科学生総合体育大会
場所　　京　都
期日　　昭和51年7月22日～25日

団体戦　　男子　　決勝トーナメント

2回戦

熊本大学　3　—　0　鳥取大学

濱田	15	2－0	0	森岡
吉永	15		3	重白
林田	15	2－0	6	笹井
竹口	15		7	大井
吉永	15 15	2－0	7 8	重白

準決勝

熊本大学　3　—　1　山口大学

濱田	15	2－0	1	本間
吉永	15		10	井上
林田	9	0－2	15	鹿子木
竹口	6		15	田中
濱田	15 15	2－0	0 2	本間
吉永	15 15	2－0	8 10	井上

決勝

熊本大学　3　—　0　京都府立医科大学

林田	15	2－0	10	北川
竹口	15		12	関
濱田	15	2－0	1	太田
吉永	15		2	杉原
濱田	15 15	2－0	4 6	杉原

団体戦　　女子

2回戦

熊本大学　3　—　2　鳥取大学

岡	15	2－0	1	佐伯
神川	15		3	竹中
岡	11 11	2－0	0 1	佐伯
神川	11 11	2－0	1 0	竹中

3回戦

熊本大学　1　—　2　岡山大学

岡	13	0－2	15	渡辺
神川	7		15	片山
岡	6 11 11	2－1	11 5 4	渡辺
神川	0 0	0－2	11 11	片山

個人戦　　男子ダブルス

濱田・吉永　組　　優勝

2回戦	2－0	中島・梶ヶ崎（三重）
3回戦	2－0	飯田・真島（九州）
4回戦	2－0	中田・小菅（神戸）
5回戦	2－0	本間・井上（山口）
準々決勝	2－0 （15－0、15－5）	松村・村尾（奈良）
準決勝	2－0 （15－1、15－3）	上田・横井（関西医科）
決勝	2－0 （15－8、15－3）	鹿子木・田中（山口）

林田・竹口　組　　ベスト8

2回戦	2－0	行松・福井（関西医科）
3回戦	2－0	藤下・藤原（岐阜）
4回戦	2－0	松井・江崎（名古屋保衛）
5回戦	2－0	森岡・重白（鳥取）
準々決勝	0－2	太田・杉原（京都府立）

柴田・乃木田　組

1回戦	2－0	伊藤・宮本（鳥取）
2回戦	2－0	山上・林（金沢医科）
3回戦	2－0	織部・古屋（神戸）
4回戦	0－2	鹿子木・田中（山口）

中村・藤平　組

2回戦	2－0	山本・岡田（和歌山）
3回戦	0－2	吉田・武田（名古屋保衛）

魚住・瀬戸　組

1回戦	2－0	平塚・中村（神戸）
2回戦	0－2	太田・杉原（京都府立）

古閑・小山田　組

1回戦	0－2	浦田・土井（長崎）

個人戦　　男子シングルス

濱田　　優勝

2回戦	2－0	赤木（久留米）
3回戦	2－0	宗広（徳島）
4回戦	2－0	北沢（関西医科）
5回戦	2－0	西井（岡山）
6回戦	2－0	岡（久留米）
準々決勝	2－0 （15－0、15－1）	本間（山口）
準決勝	2－0 （15－10、15－4）	竹口（熊本）
決勝	2－0 （15－4、15－8）	吉永（熊本）

吉永　　2位

2回戦	2－0	真鍋（大阪市立）
3回戦	2－0	高橋（長崎）

4回戦	2－0	清水（岐阜）
5回戦	2－0	真島（九州）
6回戦	2－0	梶田（岡山）
準々決勝	2－0	上田（関西医科）
準決勝	2－0 （15－11、15－12）	鹿子木（山口）
決勝	0－2	濱田（熊本）

竹口　　3位

2回戦	2－0	桑原（岐阜）
3回戦	2－0	真下（名古屋保健衛生）
4回戦	2－0	和田（三重）
5回戦	2－0	花房（久留米）
6回戦	2－0	松村（奈良）
準々決勝	2－0	置塩（金沢）
準決勝	0－2	濱田（熊本）
3位決定戦	2－0	鹿子木（山口）

林田　　ベスト32

2回戦	2－0	長沼（長崎）
3回戦	2－0	西村（大阪市立）
4回戦	2－0	清水（九州）
5回戦	1－2	上田（関西医科）

乃木田　　ベスト32

2回戦	2－0	上村（長崎）
3回戦	2－0	藤川（神戸）
4回戦	2－0	渡辺（岐阜）
5回戦	1－2	横井（関西医科）

柴田

2回戦	不戦勝	高橋（長崎）
3回戦	2－0	谷垣内（和歌山）
4回戦	1－2	飯田（九州）

2回戦敗退　　中村、魚住
1回戦敗退　　瀬戸、古閑、藤平

個人戦　　女子ダブルス
岡・神川　組　　2位

1回戦	2－0	田中・平田（山口）
2回戦	2－0	阪本・北庄司（大阪市立）
3回戦	2－0	西本・山根（岐阜）
準々決勝	2－0	長坂・下村（神戸）
準決勝	2－0 （15－12、15－5）	水野・金谷（神戸）
決勝	0－2 （10－15、9－15）	渡辺・片山（岡山）

個人戦　　女子シングルス
岡　　優勝

2回戦	2－0	山田（名古屋保衛）
3回戦	2－0	平田（山口）
4回戦	2－0	浜口（金沢）
準々決勝	2－0	柿内（奈良）
準決勝	2－0 （11－6、11－0）	上野（三重）
決勝	2－0 （12－10、11－5）	箸方（関西医科）

神川

1回戦	2－1	西田（奈良）
2回戦	0－2	北庄司（大阪市立）

昭和52年度
第16回　九州山口地区医科学生体育大会
場所　　熊本市立体育館
期日　　昭和52年5月1日～2日

団体戦　　男子　　リーグ戦

1位	熊本大学	6勝0敗
2位	山口大学	5勝1敗
3位	久留米大学	4勝2敗

熊本大学　3　—　0　九州大学

吉永 柴田	15 15	2－0	7 4	入田 飯田
林田 瀬戸	15 15	2－0	12 6	志間 清水
柴田	15 15	2－0	10 8	入田

熊本大学　3　—　1　長崎大学

吉永 柴田	15 15	2－0	1 5	下前 中西
瀬戸 魚住	15 11 10	1－2	9 15 15	荘田 中田
柴田	15 15	2－0	7 0	中西
中村	15 15	2－0	2 1	栗原

熊本大学　3　—　1　久留米大学

林田 瀬戸	6 15 10	1－2	15 12 15	赤木 名嘉間
吉永 柴田	15 15	2－0	10 10	花房 安武
魚住	15 15	2－1	5 10	星野
吉永	15 15	2－0	5 1	安武

熊本大学　3　—　2　山口大学

林田 瀬戸	2 5	0－2	15 15	鹿子木 田中
吉永 柴田	15 15	2－0	3 1	是石 篠原
吉永	11 15 15	2－1	15 12 2	鹿子木
柴田	15 15	2－0	5 4	篠原
林田	4 8	0－2	15 15	田中

熊本大学　4　—　1　宮崎医科大学

吉永 柴田	15 15	2－0	11 3	水野 河野
瀬戸 魚住	15 15	2－0	3 2	岡田 井上
古閑	2 3	0－2	15 15	水野
柴田	15 15	2－0	9 6	岡田
瀬戸	15 15	2－0	0 0	河野

熊本大学　4　—　0　鹿児島大学

吉永 柴田	15 15	2－0	6 5	中田 梅原
瀬戸 魚住	15 15	2－0	0 1	有馬 藤井
柴田	15 4 17	2－1	12 15 15	中田
瀬戸	15 15	2－0	7 11	梅原

団体戦　女子　リーグ戦

1位	熊本大学	5勝0敗
2位	山口大学	4勝1敗
3位	久留米大学	3勝2敗

熊本大学　2　—　0　久留米大学

岡 神川	9 15 15	2－1	15 6 3	茅島 西野
岡	11 11	2－0	1 0	西野

熊本大学　2　—　0　山口大学

岡 神川	15 15	2－0	7 1	田中 平田
岡	11 11	2－0	1 2	平田

熊本大学　2　—　0　九州大学

岡 神川	15 15	2－0	1 4	神志那 日高
神川	11 11	2－0	1 4	神志那

熊本大学　2　—　0　長崎大学

岡 神川	15 15	2－0	1 2	坂口 橋本
岡	11 11	2－0	0 0	下川

熊本大学　2　—　0　宮崎医科大学

岡 神川	15 15	2－0	0 0	原 宮坂
神川	11 11	2－0	2 2	荒川

個人戦　男子ダブルス

吉永・柴田　組　優勝

2回戦	2－0	大北・井上（宮崎医科）
3回戦	2－0	赤木・星野（久留米）
準決勝	2－0 （15－6、15－4）	中田・梅原（鹿児島）
決勝	2－0 （15－10、15－14）	鹿子木・田中（山口）

林田・中村　組　ベスト8

2回戦	2－0	倉富・大神（九州）
3回戦	棄権	山口・内山（久留米）

魚住・瀬戸　組

2回戦	2－0	姫野・高橋（久留米）
3回戦	1－2	花房・安武（久留米）

小山田・山崎　組

1回戦	1－2	山本・山本（九州）

個人戦　男子シングルス（新人戦）

2回戦敗退　小山田、山崎

個人戦　女子ダブルス

岡・神川　組　優勝

1回戦	2－0	別府・利光（長崎）
準決勝	2－0	田中・平田（山口）
決勝	2－0 （15－3、15－6）	茅島・西野（久留米）

個人戦　女子シングルス

岡　優勝

2回戦	2－0	利光（長崎）
3回戦	2－0	橋本（長崎）
準決勝	2－0 （11－2，11－2）	田中（山口）
決勝	2－0 （11－0、11－7）	茅島（久留米）

神川

2回戦	0－2	平田（山口）

昭和52年度
第29回　西日本医科学生総合体育大会
場所　久留米
期日　昭和52年7月23日～26日

団体戦　男子　2位

2回戦

熊本大学　3　—　1　奈良県立医科大学

吉永 柴田	2－0	林 松木
魚住 瀬戸	1－2	村尾 菊池
柴田	2－0	村尾
吉永	2－0	林

準決勝

熊本大学　3　—　0　関西医科大学

吉永 柴田	2－0	上田 横井
魚住 瀬戸	2－1	増田 川西
吉永	2－0	横井

決勝

熊本大学 2 — 山口大学 3

吉永 柴田	2－0	篠田 是石
魚住 瀬戸	0－2	鹿子木 田中
吉永	2－0	是石
瀬戸	1－2	田中
柴田	0－2	鹿子木

団体戦　女子　優勝

2回戦

熊本大学 2 — 徳島大学 1

岡 神川	15 15	2－0	8 7	太田 藤田
神川	6 2	0－2	11 11	太田
岡	11 11	2－0	0 2	藤田

3回戦

熊本大学 2 — 岡山大学 0

岡 神川	15 15	2－0	1 2	奥原 木山
岡	11 11	2－0	0 4	奥原

準決勝

熊本大学 2 — 岐阜大学 0

岡 神川	15 15	2－0	11 4	西本 小林
岡	11 11	2－0	5 0	山根

決勝

熊本大学 2 — 金沢大学 0

岡 神川	15 15	2－0	4 3	徳田 浜口
岡	11 11	2－0	0 0	徳田

個人戦　男子ダブルス

吉永・柴田　組　優勝

2回戦	2－0	土居・和田（大阪）
3回戦	2－0	中田・三沢（徳島）
4回戦	2－0	笠井・大塚（鳥取）
5回戦	2－0	西井・松原（岡山）
準々決勝	2－0	村尾・菊池（奈良県立）
準決勝	2－0	上田・横井（関西医科）
決勝	2－0	中田・梅原（鹿児島）

魚住・瀬戸　組　ベスト32

2回戦	2－0	寺田・五十嵐（三重）
3回戦	2－0	岡田・鈴木（岡山）
4回戦	0－2	森岡・重白（鳥取）

古閑・山崎　組

1回戦	2－0	寺田・山本（和歌山）
2回戦	0－2	筒井・北崎（関西医科）

個人戦　男子シングルス

吉永　優勝

2回戦	2－0	三好（久留米）
3回戦	2－0	小田（金沢医科）
4回戦	2－0	太田（関西医科）
5回戦	2－0	加藤（大阪）
6回戦	2－0	北沢（関西医科）
準々決勝	2－0	花房（久留米）
準決勝	2－0	村尾（奈良県立）
決勝	2－0	柴田（熊本）

柴田　2位

2回戦	2－0	小林（名古屋市立）
3回戦	2－0	枡崎（金沢医科）
4回戦	2－0	藤井（鹿児島）
5回戦	2－0	横井（関西医科）
6回戦	2－0	山口（久留米）
準々決勝	2－1	上田（関西医科）
準決勝	2－1	中田（鹿児島）
決勝	0－2	吉永（熊本）

瀬戸　ベスト32

2回戦	2－0	伊達（岡山）
3回戦	2－0	米島（金沢）
4回戦	2－0	酒井（長崎）
5回戦	0－2	中田（鹿児島）

魚住

1回戦	2－0	黒瀬（浜松医科）
2回戦	2－0	林（奈良県立）
3回戦	2－0	斉藤（金沢医科）
4回戦	1－2	飯田（九州）

2回戦敗退　山崎、古閑

個人戦　女子ダブルス

岡・神川　組　優勝

2回戦	2－0	堀川・嶋（三重）
3回戦	2－0	石神・奥村（関西医科）
準々決勝	2－0	神志那・日高（九州）
準決勝	2－0 （15－2、15－4）	西本・小林（岐阜）
決勝	2－0 （18－14、18－15）	徳田・浜口（金沢）

個人戦　女子シングルス

岡　優勝

2回戦	2－0	山本（川崎医科）
3回戦	2－0	太田（徳島）
4回戦	2－0	中川（川崎医科）
準々決勝	2－0	平田（山口）
準決勝	2－0 （11－0、11－7）	西野（久留米）

決勝	2－0	徳田（金沢） （11－0、11－3）

神川

2回戦	2－0	下村（神戸）
3回戦	1－2	浜口（金沢）

昭和53年度
第17回　九州山口地区医科学生体育大会
場所　　福岡市立体育館、九大体育館
期日　　昭和53年4月30日～5月1日

団体戦　男子　リーグ戦

1位	熊本大学	6勝　0敗
2位	長崎大学	4勝　2敗
3位	久留米大学	4勝　2敗

熊本大学		九州大学
4	―	0
柴田 中村	2－0	大神 倉富
魚住 瀬戸	2－0	志間 清水
中村	2－0	清水
柴田	2－0	飯田

熊本大学		長崎大学
3	―	0
柴田 中村	2－0	下前 酒井
瀬戸 魚住	2－0	荘田 中田
中村	打ち切り	下前
魚住	2－0	中田

熊本大学		久留米大学
4	―	1
柴田 中村	2－0	花房 内田
瀬戸 魚住	0－2	赤木 安武
瀬戸	2－0	内田
魚住	2－1	赤木
柴田	2－0	花房

熊本大学		山口大学
4	―	0
柴田 中村	2－0	篠原 金子
瀬戸 魚住	2－0	角 林
中村	2－1	篠原
瀬戸	2－0	角

熊本大学		宮崎医科大学
4	―	0
柴田 中村	2－0	水野 河野
瀬戸 魚住	2－0	岩崎 長野

瀬戸	0－2	岩崎
魚住	2－0	長野

熊本大学		鹿児島大学
3	―	1
小山田 山崎	2－0	梅原 田中
瀬戸 魚住	不戦勝	なし
魚住	2－0	山下
中村	2－0	梅原

団体戦　女子　リーグ戦

1位	熊本大学	3勝　0敗
2位	長崎大学	2勝　1敗
3位	九州大学	1勝　2敗

熊本大学		九州大学
2	―	1
岡 神川	2－0	神志那 日高
宇野	0－2	日高
岡	2－0	神志那

熊本大学		長崎大学
3	―	0
岡 神川	2－0	橋本 別府
神川	2－0	別府
岡	2－0	利光

熊本大学		宮崎医科大学
2	―	0
岡 神川	2－0	原 宮坂
岡	2－0	藤岡

個人戦　男子ダブルス

柴田・中村　組　優勝

2回戦	2－0	池田・中村（長崎）
3回戦	2－0	赤木・星野（久留米）
準々決勝	2－0	名嘉間・平井（久留米）
準決勝	2－0	梅原・田中（鹿児島）
決勝	2－1	瀬戸・魚住（熊本）

瀬戸・魚住　組　2位

2回戦	2－1	倉富・大神（九州）
3回戦	2－0	長沼・田中（長崎）
準々決勝	2－0	酒井・下前（長崎）
準決勝	2－0	赤木・内田（久留米）
決勝	1－2	柴田・中村（熊本）

小山田・山崎　組

1回戦	2－0	山根・宮島（久留米）
2回戦	2－0	清水・石根（山口）
3回戦	1－2	飯田・副島（九州）

2回戦敗退　古閑・後藤　組

個人戦　男子シングルス（新人戦）

2回戦敗退　後藤
1回戦敗退　吹上、本多

個人戦　　女子ダブルス

岡・神川　組　　優勝

1回戦	2－0	利光・下川（長崎）
準決勝	2－0	神志那・日高（九州）
決勝	2－0	橋本・別府（長崎）

個人戦　　女子シングルス

岡　　優勝

2回戦	2－0	吉野（宮崎医科）
3回戦	2－0	神志那（九州）
準決勝	2－0	利光（長崎）
決勝	2－0	田中（山口）

神川　　ベスト8

1回戦	2－0	田辺（長崎）
2回戦	2－0	日高（九州）
3回戦	0－2	田中（山口）

2回戦敗退　　宇野

昭和53年度
第30回　西日本医科学生総合体育大会
場所　　鈴鹿市立体育館、鈴鹿工専体育館
期日　　昭和53年7月30日～8月2日

団体戦　　男子　決勝トーナメント

2回戦

熊本大学　1　—　3　岡山大学

柴田 中村	15 4 13	1－2	5 15 15	梶田 岡田
魚住 瀬戸	15 11 15	2－1	6 15 11	松原 鈴木
中村	12 12	0－2	15 15	竹崎
魚住	3 3	0－2	15 15	梶田

団体戦　　女子　　優勝

2回戦

熊本大学　2　—　0　金沢医科大学

岡 神川	15 15	2－0	4 1	熊野 下居
岡	11 11	2－0	1 0	熊野

3回戦

熊本大学　2　—　0　富山医科薬科大学

岡 神川	15 15	2－0	3 0	吉村 高倉
岡	11 11	2－0	1 0	高倉

準決勝

熊本大学　2　—　0　三重大学

岡 神川	15 15	2－0	2 1	上野 大石
岡	11 11	2－0	1 0	島

決勝

熊本大学　2　—　0　金沢大学

岡 神川	15 15	2－0	11 8	徳田 浜口
岡	11 11	2－0	1 3	徳田

個人戦　　男子ダブルス

柴田・中村　組　　ベスト8

2回戦	2－0	福岡・荒木（奈良）
3回戦	2－0	大場・金森（富山医薬）
4回戦	2－0	清水・松本（三重）
5回戦	2－0	中田・三沢（徳島）
準々決勝	0－2	梶田・岡田（岡山）

魚住・瀬戸　組　　ベスト8

2回戦	2－0	乾・尾浦（和歌山）
3回戦	2－0	前野・石井（浜松医科）
4回戦	2－0	布田・黒柳（金沢）
5回戦	2－1	村尾・菊池（奈良）
準々決勝	1－2	北沢・太田（関西医科）

古閑・後藤　組

1回戦	2－0	中・新井（京都府立）
2回戦	0－2	中島・嘉森（三重）

1回戦敗退　　小山田・山崎　組
　　吹上・本多　組

個人戦　　男子シングルス

柴田　　優勝

2回戦	2－0	村瀬（岡山）
3回戦	2－0	山下（徳島）
4回戦	2－0	服部（浜松医科）
5回戦	2－0	倉富（九州）
6回戦	2－0	岩瀬（岐阜）
準々決勝	2－0	杉原（京都府立）
準決勝	2－1	上田（関西医科） （16－18、15－1、15－5）
決勝	2－0	太田（京都府立） （15－5、15－3）

瀬戸　　ベスト8

2回戦	2－0	出島（京都府立）
3回戦	2－0	藤川（神戸）
4回戦	2－0	西尾（久留米）
5回戦	2－0	斉藤（岐阜）
6回戦	2－0	梶田（岡山）
準々決勝	1－2	太田（京都府立）

中村　　ベスト32

2回戦	2－0	新里（名古屋保衛）
3回戦	2－0	太田（関西医科）
4回戦	2－0	森下（島根）
5回戦	1－2	大塚（鳥取）

魚住

1回戦	2－0	岡田（大阪市立）

2回戦	2－0	岡本（名古屋保衛）
3回戦	2－0	須賀（山口）
4回戦	0－2	岩田（愛媛）

後藤

1回戦	2－0	下山（奈良）
2回戦	2－0	山本（和歌山）
3回戦	0－2	坂口（大阪市立）

2回戦敗退　　小山田、山崎、吹上、本多

個人戦　　女子ダブルス

岡・神川　組　　優勝

2回戦	2－0	窪田・天野（奈良）
3回戦	2－0	岩井・石滝（大阪市立）
準々決勝	2－0	利光・下川（長崎）
準決勝	2－0 （15－3、15－0）	小林・山根（岐阜）
決勝	2－0 （15－3、15－1）	徳田・浜口（金沢）

個人戦　　女子シングルス

岡　　優勝

2回戦	2－0	丹羽（名古屋保衛）
3回戦	2－0	野家（大阪）
4回戦	2－0	大西（関西医科）
準々決勝	2－0	小林（岐阜）
準決勝	2－0 （11－9、11－1）	上野（三重）
決勝	2－0 （11－1、11－1）	神川（熊本）

神川

1回戦	2－0	本林（大阪）
2回戦	2－0	酒井（金沢）
3回戦	2－0	大石（三重）
4回戦	2－0	浜口（金沢）
準々決勝	2－0	西本（岐阜）
準決勝	2－0 （12－10、12－10）	徳田（金沢）
決勝	0－2	岡（熊本）

昭和53年度
第？回　全日本医科学生総合体育大会
場所　神戸市中央体育館
期日　昭和53年8月31日

団体戦　女子　リーグ戦　優勝

1位	熊本大学	3勝0敗
2位	新潟大学	2勝1敗
3位	東京女子医科大学	1勝2敗

熊本大学　2　—　0　新潟大学

岡 神川	15 15	2－0	8 0	林 富田
岡	11 11	2－0	0 3	林
神川	8 11 12	2－1	11 8 10	富田

熊本大学　2　—　0　東京女子医科大学

岡 神川	15 15	2－0	0 8	中山 河西
神川	12 11	2－0	10 4	渡辺
岡	11 11	2－0	0 0	河西

熊本大学　2　—　0　神戸大学

岡 神川	15 15	2－0	1 0	下村 秦
神川	11 11	2－0	8 2	下村
岡	11 11	2－0	1 0	上田

昭和54年度
第18回　九州山口地区医科学生体育大会
場所
期日　昭和54年5月

昭和54年度
第31回　西日本医科学生総合体育大会
場所
期日　昭和54年8月

昭和55年度
第19回　九州山口地区医科学生体育大会
場所
期日　昭和55年5月

昭和55年度
第32回　西日本医科学生総合体育大会
場所
期日　昭和55年8月

昭和56年度
第20回　九州山口地区医科学生体育大会
場所
期日　昭和56年5月

昭和56年度
第33回　西日本医科学生総合体育大会
場所
期日　昭和56年8月

昭和57年度
第21回　九州山口地区医科学生体育大会
場所
期日　昭和57年5月

昭和57年度
第34回　西日本医科学生総合体育大会
場所
期日　昭和57年8月

昭和58年度
第22回　九州山口地区医科学生体育大会
場所
期日　　昭和58年5月

昭和58年度
第35回　西日本医科学生総合体育大会
場所
期日　　昭和58年8月

昭和59年度
第23回　九州山口地区医科学生体育大会
場所
期日　　昭和59年5月

以上、記録なし

昭和59年度
第36回　西日本医科学生総合体育大会
場所　　神戸市
期日　　昭和59年8月

団体戦　　男子　　2位

1回戦

熊本大学			島根医科大学	
3		—	0	
安部	15	2−0	1	芹沢
水本	15		4	都
中嶋	15	2−0	6	高梨
永瀬	15		4	高橋
吹上	15	2−0	8	高梨
	15		11	

2回戦

熊本大学			岡山大学	
3		—	1	
中嶋	15	2−0	4	柏山
永瀬	15		7	松村
安部	15	2−0	4	田中
水本	15		1	安井
安部	16	1−1	18	田中
	17	打切	15	
吹上	11	0−2	15	柏山
	8		15	
水本	15	2−0	2	山本
	15		4	

準決勝

熊本大学			岐阜大学	
3		—	1	
中嶋	8	1−2	15	中島
永瀬	15		6	小島
	14		18	
安部	15	2−0	10	福地
水本	15		9	佐々木
中嶋		打切		中島
安部	15	2−0	10	佐々木
	15		5	
水本	15	2−0	2	福地
	15		3	

決勝

熊本大学			京都府立医科大学	
0		—	3	
安部	8	1−2	4	堀
水本	15		15	島崎
	14		15	
中嶋	9	1−2	15	石原
永瀬	15		4	角田
	12		15	
中嶋	6	1−2	15	島崎
	15		11	
	4		15	
水本	17	1−1	14	堀
	8	打切	15	

個人戦　　男子ダブルス

安部・水本　組

2回戦	2−0	森・菊田（京都府立） （15−0、15−1）
3回戦	2−0	村田・中土（大阪市立） （15−0、15−4）
4回戦	2−0	安川・芦澤（金沢） （15−0、15−1）
5回戦	2−0	松井・古川（愛媛） （15−7、15−1）
6回戦	1−2	佐々木・中島（岐阜） （15−8、12−15、16−17）

吹上・森永　組

2回戦	2−1	矢野・細田（名古屋市） （15−7、12−15、15−2）
3回戦	2−0	岸野・西上（鳥取） （15−4、15−3）
4回戦	不戦勝	岸本・貴船（山口）
5回戦	1−2	大沼・大林（浜松医科） （4−15、18−15、7−15）

中嶋・永瀬　組

2回戦	2−0	小島・鳥居（藤田保衛） （15−0、15−0）
3回戦	2−0	小林・木下（岡山） （15−0、15−0）
4回戦	1−2	田中・中谷（大阪市立） （4−15、18−15、7−15）

個人戦　　男子シングルス

安部　　2位

2回戦	2−0	古谷（愛媛） （11−2、11−0）
3回戦	2−0	近藤（藤田保衛） （15−0、15−0）
4回戦	2−0	米脇（福井医科） （15−4、15−1）
5回戦	2−0	平野（九州） （15−7、15−6）
6回戦	2−1	石原（京都府立） （15−18、18−13、15−9）
7回戦	2−0	安田（大阪市立） （15−5、15−4）
準々決勝	2−1	武政（高知医科） （13−15、15−2、15−4）

準決勝	2－1	佐々木（岐阜） （5－15、15－10、15－3）
決勝	0－2	中島（岐阜） （11－15、11－15）

水本　　ベスト4

1回戦	2－0	寺田（長崎） （11－0、11－0）
2回戦	2－0	宮（高知医科） （11－4、11－2）
3回戦	2－0	児島（大阪医科） （15－0、15－0）
4回戦	2－0	野々村（大阪） （15－3、15－2）
5回戦	2－0	池原（大阪市立） （15－8、15－8）
6回戦	2－1	牧野（長崎） （15－8、15－18、15－2）
7回戦	2－0	堀（京都府立） （15－6、15－10）
準々決勝	2－1	中野（金沢） （13－15、15－2、15－4）
準決勝	0－2	中島（岐阜） （15－18、10－15）
3位決定戦		佐々木（岐阜）

永瀬　　ベスト32

2回戦	2－0	城戸（奈良） （11－1、11－0）
3回戦	2－0	浦島（鳥取） （15－4、15－2）
4回戦	2－0	藤井（京都府立） （15－12、15－6）
5回戦	2－0	小俣（三重） （15－6、15－11）
6回戦	1－2	佐々木（大阪市立） （12－15、15－12、11－15）

吹上

2回戦	2－0	藤原（大阪医科） （11－0、11－2）
3回戦	2－0	古川（大阪） （15－3、15－3）
4回戦	2－0	長井（福岡） （15－5、15－3）
5回戦	0－2	植田（愛媛） （4－15、10－15）

森永

2回戦	2－0	武田（大阪） （11－0、11－1）
3回戦	2－0	岩永（長崎） （15－5、15－10）
4回戦	0－2	大林（浜松医科） （0－15、9－15）

2回戦敗退　　中嶋

昭和60年度
第37回　西日本医科学生総合体育大会
場所
期日　　昭和60年

団体戦　　男子　　優勝

1回戦

熊本大学			九州大学	
3		—	2	
安部 水本	15 15	2－0	1 4	芹沢 都
中嶋 永瀬	15 15	2－0	6 4	高梨 高橋
吹上	15 15	2－0	8 11	高梨

2回戦

熊本大学			岡山大学	
3		—	2	
中嶋 永瀬	15 15	2－0	4 7	柏山 松村
安部 水本	15 15	2－0	4 1	田中 安井
安部	16 17	1－1 打切	18 15	田中
吹上	11 8	0－2	15 15	柏山
水本	15 15	2－0	2 4	山本

準決勝

熊本大学			大阪医科大学	
3		—	1	
中嶋 永瀬	8 15 14	1－2	15 6 18	中島 小島
安部 水本	15 15	2－0	10 9	福地 佐々木
中嶋		打切		中島
安部	15 15	2－0	10 5	佐々木
水本	15 15	2－0	2 3	福地

決勝

熊本大学			岐阜大学	
3		—	1	
安部 水本	8 15 14	1－2	4 15 15	堀 島崎
中嶋 永瀬	9 15 12	1－2	15 4 15	石原 角田
中嶋	6 15 4	1－2	15 11 15	島崎
水本	17 8	1－1 打切	14 15	堀

優勝	熊本大学
2位	岐阜大学
3位	大阪医科大学
4位	京都府立医科大学

個人戦　　男子ダブルス

安部・水本　組　　優勝

2回戦	2－0	瀬崎・林（高知医科） （15－0、15－0）

3回戦	2－0	西大路・原田（京都府） （15－0、15－0）
4回戦	2－0	崎谷・畠野（富山医薬） （15－0、15－0）
5回戦	2－0	田中雅・玉置（岡山） （15－1、15－9）
6回戦	2－0	玉城・増永（琉球） （15－10、15－0）
準々決勝	2－0	家接・坪川（金沢） （15－3、15－8）
準決勝	2－0	川西・村尾（大阪医科） （15－4、15－10）
決勝	2－0	佐々木・中島義（岐阜） （15－12、15－11）

2回戦敗退　　弥永・本田　組

個人戦　　男子シングルス

水本　　2位

2回戦	2－0	耕納（金沢） （11－3、11－1）
3回戦	2－0	黒松（久留米） （15－0、15－2）
4回戦	2－0	玉城（琉球） （15－4、15－11）
5回戦	2－0	市来（九州） （15－13、15－1）
6回戦	2－1	松永（長崎） （15－7、15－3）
7回戦	2－0	川崎（大分） （15－7、15－3）
準々決勝	2－1	田中朗（岡山） （15－10、15－4）
準決勝	2－1	中島（岐阜） （17－16、15－3）
決勝	0－2	佐々木（岐阜） （12－15、5－15）

安部　　ベスト16

2回戦	2－0	金子（岐阜） （11－0、11－1）
3回戦	2－0	渡部（京都府立） （15－0、15－1）
4回戦	2－0	辻（神戸） （15－1、15－4）
5回戦	不戦勝	安川（金沢）
6回戦	2－1	松原（愛媛） （15－5、15－2）
7回戦	1－2	佐々木（岐阜） （9－15、15－12、3－15）

永瀬

2回戦	2－0	菅野（大阪医科） （11－0、11－1）
3回戦	1－2	野島（高知医科） （10－15、15－10、4－15）

弥永

2回戦	2－0	北野（和歌山） （11－9、11－3）
3回戦	0－2	高田（神戸） （0－15、1－15）

2回戦敗退　　本田

昭和61年度
第25回　九州山口地区医科学生体育大会
場所
期日　　昭和61年5月

昭和61年度
第38回　西日本医科学生総合体育大会
場所
期日　　昭和61年8月

以上、記録なし

昭和62年度
第26回　九州山口地区医科学生体育大会
場所
期日　　昭和62年

団体戦　　男子　　決勝トーナメント

1位　　熊本大学
2位　　長崎大学
3位　　佐賀医科大学、琉球大学

個人戦　　男子ダブルス

安部・水本　組　　優勝

2回戦	2－0	花園・佐藤（佐賀医科） （15－1、15－1）
3回戦	2－0	沖山・新垣（琉球） （15－2、15－5）
準々決勝	2－0	上野・奥野（山口） （15－1、15－5）
準決勝	2－0	岩永・余縄（長崎） （15－1、15－1）
決勝	2－0	寺面・石木（産業医科） （15－2、15－10）

2回戦敗退　　弥永・本田　組

個人戦　　男子シングルス（新人戦）

本田

2回戦	2－0	大山（久留米） （11－0、11－0）
3回戦	1－2	中村（九州） （16－18、15－11、3－15）

昭和62年度
第39回　西日本医科学生総合体育大会
場所　　福岡市
期日　　昭和62年8月

団体戦　　男子　　2位

決勝

熊本大学		岐阜大学
1	—	3

本田 町田	2 0	0－2	15 15	福地 中島
安部 水本	15 11	2－0	5 3	畠山 小島
本田	0 3	0－2	15 15	小島
水本	13 11	0－2	15 15	中島
安部	15 2	1－1 打切	5 15	福地

個人戦　　男子ダブルス

安部・水本　組　　優勝

5回戦	2－0	梅野・田川（久留米） （15－4、15－1）
6回戦	2－0	山根・新井（京都府立） （15－7、15－5）
準々決勝	2－0	寺面・石木（産業医科） （15－2、15－6）
準決勝	2－0	福地・中島（岐阜） （15－8、15－11）
決勝	2－0	川西・村尾（大阪医科） （15－9、15－7）

個人戦　　男子シングルス

安部　　ベスト4

5回戦	2－0	石原（関西医科） （15－5、15－3）
6回戦	2－0	生田（岡山） （15－8、15－5）
7回戦	2－0	佐藤（佐賀医科） （15－0、15－1）
準々決勝	2－0	福地（岐阜） （15－5、15－8）
準決勝	1－2	中島（岐阜） （15－9、9－15、10－15）
3位決定戦	0－2	足立（名古屋） （2－15、棄権）

水本　　ベスト8

5回戦	2－0	角田（京都府立） （15－5、15－8）
6回戦	2－0	味木（神戸） （15－7、15－1）
7回戦	2－0	金（京都） （15－10、15－2）
準々決勝	1－2	武政（高知医科） （3－15、15－7、7－15）

本田

2回戦	2－1	佐古田（香川医科） （9－11、11－9、11－6）
3回戦	0－2	山根（京都府立） （0－15、1－15）

昭和63年度
第27回　九州山口地区医科学生体育大会
場所　　宮　崎
期日　　昭和63年5月

団体戦　　男子　　予選リーグ　Bパート

部員2名のため、CM会議で熊大は第2ダブルス、第3シングルスを、前もって棄権することで、団体戦に参加することになりました。

熊本大学　2　—　琉球大学　3

水本 本田	15 10 15	2－1	8 15 10	福治 増永
水本	15 15	2－0	7 2	福治
本田	2 3	0－2	15 15	増永

熊本大学　2　—　山口大学　3

水本 本田	15 18	2－0	2 13	平木 高尾
本田	4 3	0－2	15 15	宮本
水本	15 15	2－0	1 5	宮本

熊本大学　2　—　九州大学　3

水本 本田	15 15	2－0	3 6	今村 大坪
水本	15 15	2－0	0 0	畑
本田	3 4	0－2	15 15	今村

熊本大学　2　—　佐賀医科大学　3

水本 本田	15 15	2－0	2 8	大森 百田
水本	15 15	2－0	3 4	大西
本田	0 4	0－2	15 15	佐藤

熊本大学　2　—　久留米大学　3

水本 本田	8 15 15	2－1	15 9 3	田川 草場
水本	15 15	2－0	0 1	田川
本田	14 8	0－2	18 15	草場

個人戦　　男子ダブルス

水本・本田　組　　ベスト16

1回戦	2－0	衣川・黒瀬（産業医科） （15－4、15－1）
2回戦	2－1	三森・副島（大分医科） （11－15、15－11、15－6）
3回戦	2－0	三浦・徳田（佐賀医科） （15－9、15－7）
準々決勝	1－2	岩永・松永（長崎） （15－14、14－15、6－15）

昭和63年度
第40回　西日本医科学生総合体育大会
場所　　岐　阜
期日　　昭和63年8月

団体戦　　男子　　予選リーグ　Lパート

熊本大学　1　—　4　富山医科薬科大学

水本 本田	15 3 1	1－2	9 15 15	畠野 田上
水本	15 15	2－0	5 5	大沢
本田	0 3	0－2	15 15	畠野

熊本大学　2　—　3　香川医科大学

水本 本田	15 18	2－0	1 16	松下 藤本
本田	0 7	0－2	15 15	村尾
水本	15 15	2－0	2 2	藤谷

個人戦　　男子ダブルス
水本・本田　組　　ベスト4

2回戦	2－0　大南・後藤田（徳島） （15－0、15－0）
3回戦	2－0　衣川・山崎（産業医科） （15－1、15－2）
4回戦	2－1　藤田・中俣（京都） （15－9、14－15、15－10）
5回戦	2－0　大野・天野（大阪） （15－7、15－1）
6回戦	2－1　小俣・水野（三重） （15－10、6－15、18－15）
準々決勝	2－0　織田・高尾（島根医科） （15－12、15－3）
準決勝	0－2　大西・佐藤（岡山） （8－15、14－17）

個人戦　　男子シングルス
水本　　優勝

2回戦	2－0　浜島（福井医科） （11－0、11－0）
3回戦	2－0　坂本（京都府立） （15－2、15－2）
4回戦	2－0　大沢（富山医薬） （15－6、15－5）
5回戦	2－0　村尾（香川医科） （15－4、15－5）
6回戦	2－1　大月（鳥取） （15－3、15－6）
7回戦	2－0　富永（浜松医科） （15－7、15－3）
準々決勝	2－1　長谷川和（藤田保衛） （15－8、15－0）
準決勝	2－0　武政（高知医科） （15－10、18－15）
決勝	2－1　中島（岐阜） （15－6、8－15、15－8）

本田

2回戦	2－0　岡田（金沢） （11－5、11－1）
3回戦	0－2　崎谷（富山医薬） （2－15、2－15）

平成元年度
第28回　九州山口地区医科学生体育大会
場所　　福　岡
期日　　平成元年4月

団体戦　　男子　　予選リーグ　Bパート

熊本大学　2　—　3　長崎大学

町田 牟田	4 2	0－2	15 15	伊藤 松永
水本 本田	15 15	2－0	0 4	竹村 森
本田	9 9	0－2	15 15	伊藤
水本	15 15	2－0	7 2	松永
牟田	2 5	0－2	15 15	森

熊本大学　2　—　3　九州大学

水本 本田	15 15	2－0	5 10	今村 龍頭
町田 牟田	3 0	0－2	15 15	浅山 古屋
本田	4 4	0－2	15 15	浅山
水本	15 15	2－0	2 0	龍頭
牟田	1 0	0－2	15 15	今村

熊本大学　2　—　3　鹿児島大学

水本 本田	15 15	2－0	12 6	今村 奥田
町田 牟田	2 7	0－2	15 15	浜崎 国吉
水本	15 15	2－0	3 1	山野
本田	2 3	0－2	15 15	浜崎
牟田	2 3	0－2	15 15	橋口

熊本大学　2　—　3　山口大学

町田 牟田	3 11	0－2	15 15	宮本 高野

水本 本田	15 15	2－0	4 6	高尾 徳田
水本	15 15	2－0	4 0	徳田
本田		打ち切り		高野
町田	3 2	0－2	15 15	宮本

熊本大学 2 — 産業医科大学 3

水本 本田	15 18	2－0	10 13	芳田 君島
町田 牟田	7 1	0－2	15 15	上野 後藤
水本	15 15	2－0	0 1	後藤
牟田	14 8	0－2	18 15	高野
町田	0 0	0－2	15 15	上野

個人戦　男子ダブルス

水本・本田　組　2位

2回戦	2－0　畑・上ノ土（九州） （15－4、15－4）
3回戦	2－0　君島・芳田（産業医科） （15－4、15－1）
4回戦	2－0　中房・森（宮崎医科） （15－12、18－16）
準決勝	2－0　松永・伊藤（長崎） （15－3、、15－6）
決勝	0－2　大西・伊藤（佐賀医科） （13－15、7－15）

平成元年度
第41回　西日本医科学生総合体育大会
場所　大　阪　〈主管　近畿大学〉
期日　平成元年8月

団体戦　男子　予選リーグ　Eパート

熊本大学 2 — 富山医科薬科大学 3

水本 本田	15 15	2－0	10 12	山野 今村
本田	12 11	0－2	15 15	川前
水本	15 15	2－0	11 1	浜崎

熊本大学 2 — 九州大学 3

水本 本田	18 17	2－0	16 15	今村 大坪
本田	2 3	0－2	15 15	中塚
水本	15 15	2－0	3 1	今村

個人戦　男子ダブルス

水本・本田　組　優勝

3回戦	2－0　宮田・山里（琉球） （15－0、15－0）
4回戦	2－0　山本・小林（金沢） （15－9、15－10）
5回戦	2－0　荒川・小川（福井医科） （15－3、15－2）
6回戦	2－0　原・加藤（三重） （15－7、15－1）
準々決勝	2－0　金井・田村（京都） （15－9、15－11）
準決勝	2－1　武政・野島（高知医科） （15－3、10－15、15－7）
決勝	2－1　足立・宮田（名古屋） （15－10、12－15、15－11）

個人戦　男子シングルス

水本　2位

2回戦	2－0　萩尾（大阪） （11－0、11－1）
3回戦	2－0　崔（京都） （15－0、15－1）
4回戦	2－0　葉（高知医科） （15－0、15－1）
5回戦	2－0　上田（和歌山医科） （15－0、15－1）
6回戦	2－0　花園（佐賀医科） （15－0、15－5）
7回戦	2－0　畠野（富山医薬） （15－8、15－7）
準々決勝	2－0　松永（長崎） （15－3、15－0）
準決勝	2－0　前田（奈良医科） （15－0、15－1）
決勝	0－2　足立（名古屋） （12－15、7－15）

本田

2回戦	2－1　オープン〈近畿〉 （8－11、11－6、11－5）
3回戦	2－0　沢田（岐阜） （15－0、15－0）
4回戦	0－2　今村（九州） （5－15、3－15）

平成2年度
第29回　九州山口地区医科学生体育大会
場所
期間　平成2年5月

平成2年度
第42回　西日本医科学生総合体育大会
場所
期間　平成2年8月

平成３年度
第 30 回　九州山口地区医科学生体育大会
場所
期間　　平成３年５月

平成３年度
第 43 回　西日本医科学生総合体育大会
場所
期間　　平成３年８月

平成４年度
第 31 回　九州山口地区医科学生体育大会
場所
期間　　平成４年５月

平成４年度
第 44 回　西日本医科学生総合体育大会
場所
期間　　平成４年８月

平成５年度
第 32 回　九州山口地区医科学生体育大会
場所
期間　　平成５年５月

平成５年度
第 45 回　西日本医科学生総合体育大会
場所
期間　　平成５年８月

平成６年度
第 33 回　九州山口地区医科学生体育大会
場所
期間　　平成６年５月

以上、記録なし

平成６年度
第 46 回　西日本医科学生総合体育大会
場所
期間　　平成６年８月１日～５日

団体戦　　男子
１回戦

熊本大学		宮崎医科大学
2	—	3

坂田 井形	2－0	古川 小笹
西 赤坂	0－2	翁長 高見
赤坂	2－0	山田
西	2－0	森島
平田	0－2	松岡

団体戦　　女子
１回戦

熊本大学		関西医科大学
2	—	1

２回戦

熊本大学		金沢大学
0	—	2

個人戦　　男子シングルス
西

２回戦	2－0	彦坂（富山医科薬科）
３回戦	2－0	貴田（奈良県立）
４回戦	2－0	上田（佐賀医科）
５回戦	0－2	江崎（京都）

赤坂

２回戦	2－0	寺内（滋賀医科）
３回戦	2－0	石村（神戸）
４回戦	0－2	西村（京都）

坂田

２回戦	2－0	太田（名古屋市立）
３回戦	0－2	酒井（神戸）

平田

２回戦	2－0	徳井（神戸）
３回戦	0－2	佐藤（金沢）

２回戦敗退
　井形、伊藤、井上、浦田、川上、山本
１回戦敗退
　田爪

個人戦　　男子ダブルス
西・赤坂　組

２回戦	2－0	榎本・彦坂（富山医薬）
３回戦	2－1	森野・安部（滋賀医科）
４回戦	0－2	庄・谷岡（高知医科）

井上・伊藤　組

２回戦	2－0	大萱・金子（愛知医科）
３回戦	0－2	新納・大場（長崎）

坂田・井形　組

２回戦	2－0	磯谷・越後（富山医薬）
３回戦	0－2	森田・武蔵（京都）

２回戦敗退
　浦田・山本　組、川上・田爪　組

個人戦　　女子シングルス
野中

２回戦	2－0	中守（九州）
３回戦	2－0	山田（大阪市立）
４回戦	0－2	松本（香川医科）

朔

２回戦	不戦勝	舟木（川崎医科）
３回戦	0－2	伊藤（福井医科）

工藤

２回戦	2－1	細川（岡山）
３回戦	0－2	鬼頭（名古屋）

川谷

２回戦	2－0	藤井（山口）
３回戦	0－2	川原（福井医科）

２回戦敗退　　麻生
１回戦敗退　　指宿、王、水谷、斉川、金子、江藤、佐藤

個人戦　　女子ダブルス

朔・水谷　組

1回戦	2－0	角兩・久利（岡山）
2回戦	2－1	川島・吉田（関西医科）
3回戦	0－2	三澤・遠藤（浜松医科）

2回戦敗退　　工藤・麻生　組、金子・王　組
　　野中・川谷　組

1回戦敗退　　斉川・指宿　組、佐藤・江藤　組

平成7年度
第34回　九州山口地区医科学生体育大会
場所
期間　平成7年5月

団体戦　男子　　予選リーグ

熊本大学　2 — 3 大分医科大学

山本英 坂田	0－2	林下 岡本
井形 山本春	2－0	関口 西田
井形	0－2	林下
山本春	0－2	関口
西	2－0	西田

熊本大学　4 — 1 福岡大学

山本英 坂田	2－0	福間 堤
川上 伊藤	0－2	富永 吉田
井形	2－0	吉田
井上	2－0	森
西	2－0	富永

熊本大学　0 — 5 琉球大学

井形 山本春	0－2	長崎 春口
山本英 坂田	1－2	前田 加藤
井形	0－2	長崎
山本春	0－2	赤嶺
西	1－2	春口

熊本大学　0 — 5 九州大学

山本英 坂田春	1－2	緒方 カツミ
川上 伊藤	0－2	政次
井形	不戦勝	緒方
川上	2－0	政次
伊藤	0－2	カツミ

熊本大学　2 — 3 鹿児島大学

西 井上	1－2	荒武 山根
井形 山本春	2－1	吉満 水野
山本春	0－2	小出
井形	0－2	有村
西	2－0	山根

団体戦　女子　　リーグ戦

熊本大学　0 — 3 佐賀医科大学

工藤 貴福	2－0	田中 尾形
野中	0－2	田中
水谷	2－0	田尾

熊本大学　0 — 3 久留米大学

野中 水谷	2－0	藤澤 浦野
貴福	0－2	浦野
工藤	2－0	今井

熊本大学　0 — 3 琉球大学

野中 水谷	0－2	崎原 池宮
工藤	0－2	池宮
水谷	0－2	今井

熊本大学　2 — 1 福岡大学

野中 水谷	0－2	荒木 太田
工藤	0－2	松永
野中	0－2	桝屋

熊本大学　0 — 3 九州大学

野中 水谷	0－2	金子 山口
工藤	0－2	金子
貴福	0－2	山口

個人戦　　男子ダブルス

山本英・坂田　組

2回戦	2－0	中橋・松村（福岡）
3回戦	2－1	西田・弓削（大分医科）
4回戦	0－2	木下・田中（久留米）

井形・山本春　組

2回戦	2－0	岡本・又吉（大分医科）
3回戦	0－2	上田・副島（佐賀医科）

川上・伊藤　組

2回戦	2－0	柴田・田中（九州）
3回戦	1－2	富永・福間（福岡）

井上・西　組

2回戦	2－0	江口・斉藤（山口）
3回戦	1－2	大庭・江口（長崎）

2回戦敗退　　田爪・村田　組

個人戦　　男子シングルス（新人戦）

山本春

2回戦	2－0	猪熊（長崎）

3回戦	2－0	弓削（大分医科）
4回戦	0－2	三橋（産業医科）

2回戦敗退　村田
1回戦敗退　小菅

個人戦　女子シングルス
工藤

2回戦	2－1	田尾（佐賀医科）
3回戦	0－2	崎原（琉球）

2回戦敗退　斉川、王、野中、豊永、指宿、貴福
1回戦敗退　蔵元、水谷、中田

個人戦　女子ダブルス
1回戦敗退　王・斉川　組、豊永・中田　組、蔵元・指宿　組、野中・水谷　組、工藤・貴福　組

平成7年度
第47回　西日本医科学生総合体育大会
場所
期間　平成7年

団体戦　男子
1回戦

熊本大学		岐阜大学
0	—	3
井上 前田	0－2	村松 山田
井形 山本春	1－2	萩原 斉藤
足立	1－1 （中止）	原田

団体戦　女子
1回戦

熊本大学		愛媛大学
0	—	2
野中 工藤	1－2	重信 山田
野中	0－2	山田
工藤	0－0 （中止）	重信

個人戦　男子シングルス
西

2回戦	2－0	林（大阪）
3回戦	2－0	前田（名古屋市立）
4回戦	2－0	本荘（藤田保健衛生）
5回戦	0－2	原田（岐阜）

川上

2回戦	2－0	出？（愛知医科）
3回戦	2－0	前田（名古屋市立）
4回戦	0－2	小松（島根医科）

井形

2回戦	2－0	又吉（大分医科）
3回戦	2－0	伊藤（三重）
4回戦	0－2	谷岡（高知医科）

伊藤

2回戦	2－0	梶原（京都府立）
3回戦	0－2	峰（九州）

浦田

2回戦	2－1	藤原（香川医科）
3回戦	0－2	平田（大阪）

2回戦敗退　鳥羽、山本春、村田、大嶋、田爪、坂田、山本英、井上
1回戦敗退　小菅

個人戦　男子ダブルス
川上・伊藤　組

2回戦	2－0	坂口・松村（近畿）
3回戦	2－0	遠藤・森山（鳥取）
4回戦	0－2	長崎・春口（琉球）

井形・山本春　組

2回戦	2－0	佐藤・吉山（三重）
3回戦	0－2	新井・中野（金沢）

2回戦敗退
村田・鳥羽　組、田爪・大嶋　組
坂田・山本英　組、井上・浦田　組

個人戦　女子シングルス
工藤

2回戦	2－1	埴谷（福井医科）
3回戦	0－2	近藤（大阪）

野中

2回戦	2－0	林（島根医科）
3回戦	0－2	小　？

水谷

2回戦	2－0	青木（岐阜）
3回戦	0－2	中島（藤田保健衛生）

王

2回戦	2－0	井上（高知医科）
3回戦	0－2	徳永（島根医科）

2回戦敗退　斉川、貴福
1回戦敗退　豊永、指宿、蔵元、佐藤
0回戦敗退　中田

個人戦　女子ダブルス
野中・工藤　組

2回戦	2－0	？
3回戦	0－2	？

2回戦敗退　王・斉川　組、蔵元・佐藤　組、水谷・貴福　組
0回戦敗退　豊永・中田　組

平成8年度
第35回　九州山口地区医科学生体育大会
場所
期間　平成8年5月

団体戦　男子　予選リーグ

熊本大学		久留米大学
5	—	0
西 坂田	2−0	高城 藤山
井形 山本春	2−1	二山 田中
井形	2−0	高城
山本春	不戦勝	二山
西	2−1	田中

熊本大学		産業医科大学
2	—	3
山本 伊藤	0−2	増井 三橋
井形 山本春	2−0	出井 葛城
山本春	2−1	出井
西	1−2	増井
川上	0−2	三橋

熊本大学		福岡大学
4	—	1
西 坂田	2−1	吉田 富永
井形 山本春	2−0	森 松村
井形	2−0	富永
山本春	2−0	竹嶋
西	0−2	吉田

熊本大学		九州大学
2	—	3
井形 山本春	1−2	鳥巣 塩田
山本 伊藤	0−2	小野山 政次
山本春	不戦勝	塩田
井形	2−0	政次
西	0−2	小野山

熊本大学		？大学
	—	
井形 山本	？	
川上 井形	0−2	
西	1−2	撰
山本春	2−0	安部
村田	0−2	江口

団体戦　女子　リーグ戦

熊本大学		山口大学
2	—	1
工藤 貴福	2−0	田中 尾本
貴福	0−2	田中
工藤	2−0	尾本

熊本大学		福岡大学
2	—	1
工藤 貴福	2−0	松永 杉山
指宿	0−2	桝屋
工藤	2−0	土田

熊本大学		九州大学
0	—	3
工藤 貴福	0−2	金谷 山口
指宿	0−2	金谷
工藤	0−2	山口

熊本大学		鹿児島大学
0	—	3
工藤 貴福	0−2	塚田 福元
工藤	0−2	福元
指宿	0−2	塚田

熊本大学		琉球大学
0	—	3
王 指宿	0−2	崎原 池宮
朔	0−2	池宮
王	0−2	崎原

個人戦　男子ダブルス

井形・山本春　組

2回戦	2−0	宋・武永（産業医科）
3回戦	2−0	大路・築取（長崎）
4回戦	0−2	関口・西田（大分医科）

西・田爪　組

2回戦	不戦勝	島ノ江・野見山（佐賀）
3回戦	1−2	吉田・富永（福岡）

2回戦敗退　（2回戦より）
小菅・白濱　組、村田・岡村　組
川上・伊藤　組、坂田・山本　組

1回戦敗退　藤沢・福岡　組

個人戦　男子シングルス（新人戦）

2回戦敗退　岡村

1回戦敗退　福岡、白濱

個人戦　女子シングルス

工藤

2回戦	2−0	上野（福岡）
3回戦	2−0	尾本（山口）
4回戦	0−2	井上（長崎）

貴福

2回戦	2−0	田中（九州）
3回戦	0−2	今井（久留米）

2回戦敗退　宮本、朔、丸田、指宿、豊永

個人戦　女子ダブルス

工藤・貴福　組

1回戦	2−0	吾妻・白石（長崎）
2回戦	2−0	森本・長谷川（宮崎）
3回戦	0−2	尾形・田尾（佐賀）

2回戦敗退　丸田・宮本　組、王・指宿　組、朔・豊永　組

平成８年度
第48回　西日本医科学生総合体育大会
場所
期間　　平成８年

団体戦　　男子

熊本大学		島根医科大学
0	—	3

団体戦　　女子

熊本大学		産業医科大学
0	—	3

個人戦　　男子シングルス

山本春

１回戦	２－０	木下（京都府立）
２回戦	２－０	守脇（近畿）
３回戦	０－２	谷岡（高知）

川上

１回戦	２－０	坂口（近畿）
２回戦	２－０	保科（三重）
３回戦	０－２	小野山（九州）

井形

１回戦	２－０	北島（滋賀）
２回戦	２－０	森本（愛媛）
３回戦	０－２	朽久保（浜松医科）

２回戦敗退　　岡村、伊藤、西、山本英、坂田、井上
１回戦敗退　　田爪、村田、福岡、小菅、藤沢

個人戦　　男子ダブルス

井形・山本春　組

２回戦	２－０	本荘・三原（藤田保衛）
３回戦	２－０	北？・垣谷（大阪市立）
４回戦	２－１	甲斐・引田（鳥取）
５回戦	０－２	白石・山田（佐賀）

川上・伊藤　組

２回戦	２－１	植田・佐原（大阪）
３回戦	１－２	伊藤・門脇（三重）

坂田・山本英　組

２回戦	２－０	久山・難波（香川）
３回戦	０－２	藤井・中野（金沢）

１回戦敗退　　藤沢・小菅　組、福岡・岡村　組

個人戦　　女子シングルス

工藤

１回戦	２－０	立松（富山医科薬科）
２回戦	２－１	山下（高知）
３回戦	０－２	尾木（滋賀）

２回戦敗退　　指宿、蔵元、豊永、中田、宮本、丸田、貴福、水谷、王

個人戦　　女子ダブルス

工藤・水谷　組

２回戦	２－０	石井・甲斐田（久留米）
３回戦	０－２	坪井・橘高（香川）

宮本・丸田　組

１回戦	２－０	矢敷・宮崎（近畿）
２回戦	２－０	鍋島・松岡（徳島）
３回戦	０－２	鈴木・酒井（藤田保衛）

２回戦敗退　　蔵元・指宿　組
１回戦敗退　　貴福・王　組、豊永・中田　組

平成９年度
第36回　九州山口地区医科学生体育大会
場所　　熊　本
期間　　平成９年５月

平成９年度
第49回　西日本医科学生総合体育大会
場所
期間　　平成９年

平成10年度
第37回　九州山口地区医科学生体育大会
場所
期間　　平成10年

以上、記録なし

平成10年度
第50回　西日本医科学生総合体育大会
場所　　福　井　　（主管　福井大学）
期間　　平成10年

団体戦　　男子

１回戦

熊本大学		愛知医科大学
3	—	0

井形	15	2－0	7	境
山本	15		4	金野
西	15	2－0	4	金子
河野	15		2	前川
河野	15	2－0	3	松本
	15		2	

２回戦

熊本大学		京都府立医科大学
1	—	3

井形	15	2－1	5	春里
山本	3		15	竹内
	17		14	
西	10	1－2	15	石田
河野	15		9	木下
	5		15	
河野	12	0－2	15	春里
	9		15	
西	14	0－2	17	竹内
	2		15	

団体戦　　女子

２回戦

熊本大学		徳島大学
0	—	2

指宿	10	0－2	15	宮城
宮本	3		15	廣瀬
宮本	11 8 4	1－2	9 11 11	廣瀬

個人戦　　男子ダブルス

井形・山本　組　　ベスト16

2回戦	2－0	石原・西浦（産業医科）
3回戦	2－0	斎藤・桑原（山口）
4回戦	2－0	田中・山本（京都）
5回戦	2－0	森瀬・戸田（岐阜）
6回戦	0－2	市場・井上（岡山）

平成11年度
第38回　九州山口地区医科学生体育大会
場所　　長　崎　　（主管　長崎大学）
期間　　平成11年

団体戦　　男子　　リーグ戦

熊本大学　5　—　0　久留米大学

井形	15	2－0	6	田中
山本	15		3	籠手田
足立	15	2－0	10	藤山
河野	17		15	竹広
井形	15 15	2－0	13 7	籠手田
山本	15 15	2－0	10 7	田中
河野	15 15	2－0	0 2	藤山

熊本大学　3　—　2　鹿児島大学

井形	15	2－0	7	指宿
山本	15		2	中村
足立	3	0－2	15	水野
河野	13		15	小出
井形	15 15	2－0	3 0	那須
河野	15 15	2－0	4 7	田中
山本	4 4	0－2	15 15	小出

熊本大学　5　—　0　佐賀医科大学

井形	15	2－0	11	真崎
山本	15		11	古川
足立	15	2－0	6	古場
河野	15		1	小杉
山本	15 15	2－0	9 12	真崎
河野	15 15	2－0	4 6	古川
井形	15 15	2－0	10 8	古場

熊本大学　0　—　5　琉球大学

井形	12	0－2	15	長崎
山本	5		15	新垣
足立	3	0－2	15	翁長
河野	5		15	春口
須加原	12 15 9	1－2	15 10 15	与儀
河野	9 12	0－2	15 15	大久保
田爪	0 0	0－2	15 15	喜瀬

熊本大学　2　—　3　大分医科大学

井形	15	2－0	2	平塚
山本	15		10	又吉
足立	6	0－2	15	関口
河野	4		15	弓削
山本	7 15 6	1－2	15 11 15	関口
井形	5 9	0－2	15 15	又吉
河野	7 15 ○	2－1 （棄権）	15 10 ×	弓削

熊本大学　0　—　3　長崎大学

指宿	0－2		原
宮本			江藤
指宿	1－2		江藤
宮本	0－2		原

熊本大学　0　—　3　福岡大学

指宿	0－2		桝屋
宮本			松永
指宿	1－2		佐伯
宮本	1－2		桝屋

熊本大学　0　—　3　産業医科大学

指宿	0－2		木村
宮本			平原
指宿	0－2		木村
宮本	1－2		池端

熊本大学　2　—　1　佐賀医科大学

指宿	2－0		中橋
宮本			渡邊
指宿	2－0		江頭
宮本	1－2		中橋

熊本大学　0　—　3　大分医科大学

指宿	0－2		西園
宮本			大塚
指宿	0－2		西園
宮本	0－2		大塚

個人戦　　男子ダブルス
井形・山本　組　　ベスト8

1回戦	2－0	春山・山下（福岡）
2回戦	2－0	古場・小杉（佐賀医科）
3回戦	2－0	田中・籠手田（久留米）
4回戦	2－0	高見・前久保（宮崎医科）

平成11年度
第51回　西日本医科学生総合体育大会
場所　　和歌山　　（主管　和歌山県立大学）
期間　　平成11年

団体戦　　男子　　ベスト8
1回戦

熊本大学			大阪医科大学	
3		—	0	
井形	15	2－0	6	市丸
山本	15		11	木下
足立	17	2－1	14	長谷川
河野	10		15	山田
	17		14	
河野	15	2－0	3	山田
	15		2	

2回戦

熊本大学			高知医科大学	
3		—	1	
井形	15	2－0	2	緒方
山本	15		5	永尾
足立	6	1－2	15	宮本
河野	15		8	光藤
	4		15	
井形	15	2－0	4	岸
	15		1	
山本	15	2－0	3	宮本
	15		6	

3回戦

熊本大学			九州大学	
3		—	2	
井形	13	0－2	15	坂本
山本	13		15	細川
足立	8	0－2	15	田中
河野	8		15	東保
井形	15	2－0	4	東保
	15		3	
河野	12	2－1	15	坂本
	15		13	
	15		2	
山本	15	2－0	5	細川
	15		12	

準々決勝

熊本大学			浜松医科大学	
0		—	3	
井形	3	0－2	15	永田
山本	7		15	藤井
足立	4	0－2	15	栃久保
河野	3		15	余語
河野	13	0－2	15	栃久保
	10		15	

団体戦　　女子
1回戦

熊本大学			名古屋大学	
2		—	0	
指宿	15	2－0	6	神谷
宮本	17		15	岩山
指宿	11	2－0	9	岩山
	11		9	

2回戦

熊本大学			徳島大学	
0		—	2	
指宿	7	0－2	15	宮城
宮本	0		15	廣瀬
宮本	2	0－2	11	宮城
	1		11	

個人戦　　男子シングルス
河野　　ベスト8

2回戦	2－0	佐野（藤田保健衛生）
3回戦	2－0	足立（愛知医科）
4回戦	2－0	綾木（京都）
5回戦	2－0	弓削（大分医科）
6回戦	0－2	竹内（京都府立）

平成12年度
第39回　九州山口地区医科学生体育大会
場所　　宮　崎　　（主管　宮崎医科大学）
期間　　平成12年

団体戦　　男子　　予選リーグ

熊本大学			長崎大学	
4		—	1	
足立	9	1－2	15	小杉
岡村	15		11	大路
	13		15	
山本	15	2－0	9	湊
河野	15		13	永吉
足立	15	2－1	12	湊
	10		15	
	15		6	
山本	15	2－0	7	永吉
	15		10	
河野	17	2－1	14	梁取
	4		15	
	15		10	

熊本大学			宮崎医科大学	
2		—	3	
足立	15	2－0	9	石田
岡村	15		9	浦野
山本	1	0－2	15	前久保
河野	3		15	熊谷
足立	1	0－2	15	前久保
	0		15	

山本	15 15	2－0	1 4	阿南
河野	13 0	0－2	15 15	熊谷

熊本大学 3 — 九州大学 2

足立 岡村	17 9 3	1－2	14 15 15	
山本 河野	8 ○	2－0 (棄権)	10 ×	
河野	5 11	0－2	15 15	
山本	17 15	2－0	15 9	東保
足立	○	(棄権)	×	坂本

熊本大学 0 — 琉球大学 5

足立 岡村	17 2 2	1－2	15 15 15	喜瀬 翁長
山本 河野	5 12	0－2	15 15	大久保 新垣
足立	1 8	0－2	15 15	久貝
山本	5 1	0－2	15 15	新垣
河野	×	(棄権)	○	喜瀬

熊本大学 3 — 山口大学 2

足立 岡村	15 11 7	1－2	6 15 15	桑原 齊藤
藤沢 須加原	15 15	2－0	3 5	大脇 河野
村田	4 1	0－2	15 15	桑原
河野	15 15	2－0	0 2	大宮
山本	15 15	2－0	6 6	齊藤

団体戦　女子　予選リーグ

熊本大学 0 — 産業医科大学 3

豊永 丸田	3 4	0－2	15 15	池端 松下
丸田	5 2	0－2	11 11	池端
豊永	2 3	0－2	11 11	松下

熊本大学 0 — 福岡大学 3

豊永 丸田	5 1	0－2	15 15	佐伯 桝屋
丸田	7 5	0－2	11 11	佐伯

居石	0 2	0－2	11 11	桝屋

熊本大学 0 — 長崎大学 3

豊永 丸田	2 0	0－2	15 15	江藤 松尾
豊永	3 1	0－2	11 11	江藤
丸田	2 5	0－2	11 11	白石

熊本大学 0 — 鹿児島大学 3

居石 菊川	0 0	0－2	15 15	福元 江浦
前川	0 3	0－2	11 11	江浦
豊永	1 2	0－2	11 11	福元

熊本大学 1 — 佐賀医科大学 2

豊永 丸田	13 5	0－2	15 15	尾形 光武
丸田	9 11 11	2－1	11 7 5	江頭
豊永	1 2	0－2	11 11	尾形

個人戦　男子シングルス
河野　ベスト16

2回戦	2－0	奥村（京都）
3回戦	2－0	高見澤（滋賀医科）
4回戦	2－0	竹内（岡山）
5回戦	2－1	馬渡（金沢）
6回戦	0－2	中島（徳島）

平成12年度
第52回　西日本医科学生総合体育大会
場所　岡　山　（主管　岡山大学）
期間　平成12年

団体戦　男子
2回戦

熊本大学 0 — 富山医科薬科大学 3

山本 河野	15 13 11	1－2	6 15 15	新野 小林
足立 須加原	16 5	0－2	17 15	石部 柏木
足立	16 6	0－2	17 15	柏木

団体戦　女子
1回戦

熊本大学 2 — 三重大学 1

宮本 丸田	15 6 12	1－2	6 15 15	山田 山室
田尻	11 11	2－0	1 0	柏倉
中塚	11 11	2－0	5 5	山田

2回戦

熊本大学			京都府立医科大学
0		—	2

宮本 丸田	2 0	0－2	15 15	小谷 馬淵
中塚	9 9	0－2	11 11	栂野

個人戦　　女子ダブルス

田尻・中塚　組　　ベスト16

2回戦	2－0	土井・増田（高知医科）
3回戦	2－0	我謝・上地（琉球）
4回戦	2－0	前田・戸井（福井医科）
5回戦	0－2	吉川・南村（滋賀医科）

平成13年度
第40回　九州山口地区医科学生体育大会
場所
期間　　平成13年

記録なし

平成13年度
第53回　西日本医科学生総合体育大会
場所
期間　　平成13年

団体戦　　男子

1回戦

熊本大学			奈良県立医科大学
3		—	0

足立 須加原	15 15	2－0	1 10	重富 岩田
階子 伊達	11 15 15	2－1	15 9 6	上田 井上
足立	15 15	2－0	7 5	重富

2回戦

熊本大学			徳島大学
0		—	3

階子 伊達	0 5	0－2	15 15	木村 中島
足立 須加原	5 13	0－2	15 15	奥村 山下
足立	5 3	0－2	15 15	中島

団体戦　　女子

1回戦

熊本大学			愛知医科大学
2		—	0

田尻 篠崎	15 15	2－0	0 8	中島圭 中島由
田尻	11 11	2－0	0 0	？

2回戦

熊本大学			大阪大学
2		—	0

田尻 篠崎	15 5 15	2－1	11 15 9	世良 池田
田尻	11 11	2－0	3 3	池田

3回戦

熊本大学			富山医科薬科大学
0		—	2

田尻 篠崎	6 5	0－2	15 15	板谷 竹内
田尻	1 4	0－2	11 11	板谷

個人戦　　女子シングルス

田尻　　優勝

2回戦	2－0	濱（高知医科）
3回戦	2－0	山田（福井医科）
4回戦	2－0	玉岡（大阪市立）
5回戦	2－0	笹瀬（兵庫医科）
6回戦	2－0	奥村（金沢）
準決勝	2－1	三須（名古屋市立）
決勝	2－1	小倉（名古屋）

平成14年度
第41回　九州山口地区医科学生体育大会
場所　　沖　縄　　（主管　琉球大学）
期間　　平成14年

団体戦　　男子　　リーグ戦

熊本大学			大分大学
1		—	4

須加原 階子	7 13	0－2	15 15	叶 荒釜
足立 河野	8 15 15	2－1	15 7 6	羽田 高
河野	12 15 10	1－2	15 12 15	荒釜
須加原	7 0	0－2	15 15	堂垣
足立	8 12	0－2	15 15	叶

熊本大学			鹿児島大学
1		—	4

足立 河野	7 7	0－2	15 15	倉内 平川
須加原 梯子	10 11	0－2	15 15	川床 宇藤

須加原	4 8	0－2	15 15	平川
河野	15 15	2－0	4 2	宇藤
足立	15 10	0－2	17 15	倉内

熊本大学 2 — 福岡大学 3

足立 河野	15 15	2－0	12 12	森田 森
伊達 尾崎	7 15 7	1－2	15 8 15	田山 水野
須加原	15 15	2－0	13 3	田山
階子	3 13	0－2	15 15	森田
河野	×	(棄権)	○	水野

熊本大学 3 — 宮崎医科大学 2

須加原 階子	7 2	0－2	15 15	前久保 浦野
伊達 尾崎	15 15	2－0	7 3	谷口 斎藤
足立	15 15	2－0	13 8	浦野
須加原	15 15	2－0	8 1	植村
階子	1 2	0－2	15 15	前久保

熊本大学 2 — 久留米大学 3

伊達 尾崎	6 15 10	1－2	15 7 15	高橋 武藤
須加原 階子	9 4	0－2	15 15	籠手田 竹広
足立	○	不戦勝	×	武藤
階子	6 4	0－2	15 15	籠手田
須加原	15 13 15	2－1	10 15 5	富田

団体戦　女子　リーグ戦

熊本大学 2 — 福岡大学 1

田尻 中塚	15 15	2－0	4 6	佐伯 光吉
田尻	11 2 4	1－2	4 11 11	佐伯
前川	11 11	2－0	2 0	東

熊本大学 2 — 琉球大学 1

田尻 中塚	8 15 17	2－1	15 13 14	波真利 喜瀬
田尻	11 11	2－0	7 2	波真利
前川	3 6	0－2	11 11	喜瀬

熊本大学 1 — 長崎大学 2

田尻 中塚	8 17 7	1－2	15 14 15	江藤 後田
中塚	3 5	0－2	11 11	江藤
田尻	11 11	2－0	7 4	松尾

熊本大学 0 — 宮崎医科大学 3

田尻 中塚	2 7	0－2	15 15	門脇 佐藤
前川	11 6 4	1－2	3 11 11	彦坂
田尻	4 6	0－2	11 11	佐藤

熊本大学 2 — 佐賀医科大学 1

田尻 中塚	15 15	2－0	1 11	江頭 光武
田尻	11 11	2－0	0 0	飯盛
前川	3 4	0－2	11 11	江頭

個人戦　男子シングルス

中西　第３位

２回戦	2－0	河村（九州）
３回戦	2－0	吉田（長崎）
４回戦	2－0	柿内（鹿児島）
準決勝	0－2	谷口（琉球）

個人戦　男子ダブルス

須加原・階子　組　ベスト１６

２回戦	2－0	北村・小早川（九州）
３回戦	2－0	塩田・澤田（産業医科）
４回戦	1－2	籠手田・竹広（久留米）

個人戦　女子ダブルス

田尻・中塚　組　優勝

１回戦	1－0	河野・open（九州）
２回戦	2－0	軸丸・竹内（大分医科）
３回戦	2－0	萩堂・喜友名（琉球）
４回戦	2－0	江藤・後田（長崎）
準決勝	2－0	後藤・黒木（鹿児島）
決勝	2－0	佐藤・彦坂（宮崎医科）

平成 14 年度
第 54 回　西日本医科学生総合体育大会
場所　　名古屋　　（主管　名古屋大学）
期間　　平成 14 年

団体戦　　男子
1 回戦

熊本大学			近畿大学	
3		—	1	
足立	15 15	2－0	11 5	奥田 細井
伊達 尾崎	15 13 8	1－2	12 15 15	坂井 中森
足立	15 15	2－0	4 2	細井
河野	15 15	2－0	12 3	中森

2 回戦

熊本大学			名古屋大学	
0		—	3	
伊達 尾崎	3 3	0－2	15 15	井上 猪川
足立 河野	15 12 8	1－2	13 15 15	林田 横井
須加原	9 6	0－2	15 15	河合

団体戦　　女子
1 回戦

熊本大学			藤田保健衛生大学	
1		—	2	
田尻 中塚	15 15	2－0	10 13	伊藤 寺部
田尻	3 1	0－2	11 11	寺部
中塚	3 4	0－2	11 11	伊藤

個人戦　　男子シングルス
足立　　ベスト 16

2 回戦	2－0	西村（三重）
3 回戦	2－0	清時（山口）
4 回戦	2－0	徳永（金沢）
5 回戦	2－0	角田（富山医科薬科）
6 回戦	0－2	馬渡（金沢）

個人戦　　女子シングルス
前川　　ベスト３２

2 回戦	2－0	呉（高知医科）
3 回戦	2－1	平中（京都）
4 回戦	0－2	小野（香川医医科）

塚本　　ベスト３２

2 回戦	2－0	津島（岡山）
3 回戦	2－0	左近（福井医科）
4 回戦	0－2	時政（名古屋）

個人戦　　女子ダブルス
田尻・中塚　組　　ベスト１６

2 回戦	1－0	橋本・open（川崎医科）
3 回戦	2－0	柿内・田中（鹿児島）
4 回戦	2－0	高山・酒井（浜松医科）
5 回戦	0－2	勝馬・馬渕（京都府立）

平成 15 年度
第 42 回　九州山口地区医科学生体育大会
場所　　山　口　　（主管　山口大学）
期間　　平成 15 年

団体戦　　男子　　リーグ戦

熊本大学			大分医科大学	
1		—	4	
河野 尾崎	7 15 15	2－1	15 3 13	阿部 高
須加原 中西	5 6	0－2	15 15	荒金 叶
河野	7 3	0－2	15 15	荒金
伊達	8 11	0－2	15 15	河村
須加原	3 8	0－2	15 15	叶

熊本大学			福岡大学	
5		—	0	
河野 尾崎	15 15	2－0	7 11	森 水野
須加原 中西	15 15	2－0	10 13	佐々木 山田
河野	15 15	2－0	4 1	水野
須加原	15 15	2－0	7 2	田山
伊達	9 15 15	2－1	15 8 5	大門

熊本大学			山口大学	
5		—	0	
河野 尾崎	5 15 15	2－1	15 7 8	濱田 松井
須加原 中西	15 15	2－0	8 11	山内 大石
須加原	17 7 ○	2－1 (棄権)	14 15 ×	濱田
伊達	15 15	2－0	5 11	松石
河野	15 15	2－0	2 0	山内

熊本大学			鹿児島大学	
1		—	4	
河野 尾崎	11 7	0－2	15 15	倉内 平川

須加原 中西	8 4	0—2	15 15	鮎川 宇藤
須加原	3 5	0—2	15 15	宇藤
河野	15 15	2—0	12 10	平川
伊達	3 10	0—2	15 15	倉内

熊本大学 1 — 4 佐賀医科大学

須加原 中西	×	(棄権)	○	吉武 原田
階子 伊達	15 15	2−0	7 10	千住 中河内
須加原	×	(棄権)	○	吉武
橋本	5 7	0—2	15 15	千住
水野	12 8	0—2	15 15	原口

団体戦　女子　リーグ戦

熊本大学 2 — 1 琉球大学

前川 中塚	15 17	2—0	7 14	喜瀬 喜友名
前川	9 11 10	1—2	11 8 13	喜瀬
中塚	11 11	2—0	3 1	新垣

熊本大学 1 — 2 長崎大学

前川 中塚	16 2	0—2	17 15	小川 後田
前川	13 11	2—0	11 5	小川
中塚	6 8	0—2	11 11	後田

熊本大学 3 — 0 九州大学

前川 中塚	15 15	2—0	11 3	小牧 秋吉
前川	11 11	2—0	3 1	河野
中塚	11 11	2—0	9 2	秋吉

熊本大学 1 — 2 鹿児島大学

前川 中塚	17 7 8	1—2	15 15 15	下村 黒木
中塚	1 5	0—2	11 11	垂野
前川	11 4 11	2—1	1 11 6	黒木

熊本大学 3 — 0 山口大学

藤原 今西	15 17	2—0	8 15	内海 藤川
中塚	11 11	2—0	6 1	望月
篠崎	11 7 11	2—1	6 11 5	藤川

個人戦　男子シングルス

出口　ベスト8

2回戦	2−0	上間（琉球）
3回戦	2−0	妻鳥（福岡）
4回戦	0−2	平岡（産業医科）

齊藤　ベスト16

2回戦	2−0	漆山（福岡）
3回戦	0−2	高口（佐賀医科）

個人戦　女子シングルス

前川　ベスト8

2回戦	2−0	野田（長崎）
3回戦	2−0	長嶋（宮崎医科）
4回戦	2−1	清家（大分医科）
5回戦	1−2	小川（長崎）

篠崎　ベスト8

2回戦	2−0	田雜（鹿児島）
3回戦	2−0	新垣（琉球）
4回戦	2−0	野山（久留米）
5回戦	0−2	佐伯（福岡）

中塚　ベスト16

2回戦	2−0	二村（鹿児島）
3回戦	2−0	喜友名（琉球）
4回戦	1−2	彦坂（宮崎医科）

個人戦　女子ダブルス

前川・篠崎　ベスト8

1回戦	2−0	楢林・橋住（福岡）
2回戦	2−1	岡本・西田（大分医科）
3回戦	2−0	田雜・上原（鹿児島）
4回戦	0−2	喜瀬・喜友名（琉球）

平成15年度
第55回　西日本医科学生総合体育大会
場所　神　戸　（主管　神戸大学）
期間　平成15年

団体戦　男子

1回戦

熊本大学 2 — 3 関西医科大学

階子 河野	12 12	0−2	15 15	川本 岩村
須加原 中西	○	不戦勝	×	
須加原	2 3	0−2	15 15	岩村

伊達	12 10	0－2	15 15	川本
河野	○	不戦勝	×	

団体戦　女子　ベスト８

1回戦

熊本大学 2 — 0 奈良県立医科大学

田尻	15	2－0	7	大西
中塚	15		4	森
前川	11	2－0	0	森
	11		0	

2回戦

熊本大学 2 — 1 徳島大学

田尻	7	1－2	15	久岡
中塚	15		8	石川
	13		15	
田尻	11	2－0	4	久岡
	11		1	
中塚	11	2－1	6	石川
	4		11	
	11		8	

3回戦

熊本大学 2 — 0 神戸大学

田尻	15	2－0	9	淀井
中塚	15		9	鍬塚
田尻	11	2－0	1	茅原
	11		7	

4回戦

熊本大学 0 — 2 滋賀医科大学

田尻	9	0－2	15	筒井
中塚	8		15	湯浅
田尻	1	0－2	11	南村
	2		11	

個人戦　女子シングルス

田尻　ベスト１６

2回戦	2－0	新垣（琉球）
3回戦	2－0	中本（山口）
4回戦	2－0	宮田（和歌山県立）
5回戦	0－2	板谷（富山医科薬科）

前川　ベスト３２

2回戦	2－0	紀（岐阜）
3回戦	2－0	逸見（長崎）
4回戦	0－2	西淵（広島）

中塚　ベスト３２

1回戦	2－0	渡辺（愛媛）
2回戦	2－0	左近（福井医科）
3回戦	2－0	南波（大阪市立）
4回戦	0－2	木原（徳島）

篠崎　ベスト３２

1回戦	2－0	山本（大分医科）
2回戦	2－0	岡田（大阪市立）
3回戦	2－0	佐々（名古屋市立）
4回戦	1－2	佐伯（福岡）

平成16年度
第43回　九州山口地区医科学生体育大会
場所　久留米　（主管　久留米大学）
期間　平成16年

団体戦　男子　リーグ戦

熊本大学 4 — 1 佐賀大学

伊達	15	2－1	11	千住
尾崎	11		15	田代
	15		9	
中西	15	2－0	8	原口
齊藤	15		2	中川
伊達	9	0－2	15	千住
	16		17	
尾崎	15	2－1	13	田代
	13		15	
	15		3	
齊藤	15	2－0	1	高口
	17		14	

熊本大学 0 — 5 大分大学

伊達	10	0－2	15	荒金
尾崎	12		15	河村
中西	4	0－2	15	阿部
齊藤	12		15	高
齊藤	15	1－2	11	河村
	16		17	
	2		15	
伊達	4	0－2	15	高
	5		15	
尾崎	3	0－2	15	荒金
	3		15	

熊本大学 0 — 5 長崎大学

伊達	7	0－2	15	神保
尾崎	14		17	春田
中西	4	0－2	15	山中
齊藤	11		15	山根
齊藤	15	1－2	4	神保
	12		15	
	14		17	
尾崎	9	0－2	15	山中
	12		15	
伊達	6	0－2	15	春田
	6		15	

熊本大学 2 — 3 鹿児島大学

伊達	7	0－2	15	鮎川
尾崎	3		15	平川
中西	15	2－0	8	西
齊藤	15		6	高口
尾崎	2	0－2	15	平川
	8		15	

伊達	15 12 7	1－2	8 15 15	柿内
齊藤	17 15	2－0	14 12	西

熊本大学 1 — 4 九州大学

中西 齊藤	17 2 13	1－2	16 15 15	梅崎 江崎
伊達 尾崎	14 5	0－2	17 15	大坪 小早川
齊藤	8 6	0－2	15 15	梅原
伊達	13 6	0－2	15 15	冬野
尾崎	15 15	2－0	12 12	森崎

団体戦　女子　リーグ戦

熊本大学 3 — 0 久留米大学

田尻 中塚	15 15	2－0	7 7	今立 倉吉
田尻	11 11	2－0	1 1	倉吉
中塚	11 11	2－0	0 2	今立

熊本大学 1 — 2 鹿児島大学

田尻 中塚	15 4 7	1－2	10 15 15	黒木 江浦
中塚	11 9 7	1－2	6 11 11	黒木
田尻	11 11	2－0	1 4	江浦

熊本大学 1 — 2 長崎大学

田尻 中塚	11 7	0－2	15 15	場先 山口美
田尻	11 11	2－0	2 4	山口美
中塚	2 3	0－2	11 11	場先

熊本大学 2 — 1 宮崎大学

田尻 中塚	15 15	2－0	7 7	笹原 長嶋
田尻	11 11	2－0	6 2	小屋
中塚	11 8 3	1－2	5 11 11	笹原

熊本大学 3 — 0 山口大学

山口 田尻	15 15	2－0	0 3	内海 塩澤

前川	11 11	2－0	1 1	内海
篠崎	11 11	2－0	7 4	宇賀

個人戦　男子シングルス

岩崎　ベスト８

1回戦	2－0	天野（産業医科）
2回戦	2－0	仲本（琉球）
3回戦	1－2	妻鳥（福岡）

江頭　ベスト８

1回戦	2－0	佐々木（長崎）
2回戦	2－0	森（九州）
3回戦	0－2	丸山（産業医科）

個人戦　男子ダブルス

伊達・尾崎　組　ベスト１６

2回戦	2－0	川野・石松（福岡）
3回戦	2－1	江崎・梅原（九州）
4回戦	1－2	神保・春田（長崎）

中西・齊藤　組　ベスト１６

2回戦	2－0	藤内・中間（九州）
3回戦	2－0	澤田・高木（産業医科）
4回戦	0－2	田村・野田（琉球）

水野・柚留木　組　ベスト１６

2回戦	2－0	木下・林田（大分）
3回戦	2－0	谷岡・児玉（長崎）
4回戦	0－2	佐々木・山田（福岡）

個人戦　女子シングルス

田尻　優勝

1回戦	2－0	中村（鹿児島）
2回戦	2－0	鈴木（山口）
3回戦	2－0	秋吉（九州）
4回戦	2－0	萩原（熊本）
5回戦	2－0	前川（熊本）
準決勝	2－1	竹内（大分）
決勝	2－0	後田（長崎）

前川　ベスト８

2回戦	2－0	上原（鹿児島）
3回戦	2－0	木下（長崎）
4回戦	2－1	中塚（熊本）
5回戦	0－2	田尻（熊本）

篠崎　ベスト８

2回戦	不戦勝	四本（福岡）
3回戦	2－0	筒井（長崎）
4回戦	2－0	河野（九州）
5回戦	1－2	後田（長崎）

中塚　ベスト１６

1回戦	2－0	峰（福岡）
2回戦	2－0	高木（九州）
3回戦	2－0	立川（久留米）
4回戦	1－2	前川（熊本）

萩原　ベスト１６

1回戦	不戦勝	橋本（山口）
2回戦	2－0	今立（久留米）
3回戦	2－1	喜友名（琉球）

4回戦	0－2	田尻（熊本）

個人戦　女子ダブルス

田尻・中塚　組　ベスト4

1回戦	不戦勝	安部・open（佐賀）
2回戦	不戦勝	隅田・望月（山口）
3回戦	2－0	長嶋・笹原（宮崎）
4回戦	2－0	喜瀬・喜友名（琉球）
準決勝	1－2	江浦・黒木（鹿児島）

前川・篠崎　組　ベスト8

1回戦	1－0	松尾・open（九州）
2回戦	2－0	入江・小野（大分）
3回戦	2－0	今立・立川（久留米）
4回戦	1－2	秋吉・河野（九州）

平成16年度
第56回　西日本医科学生総合体育大会
場所　高　松　（主管　香川大学）
期間　平成16年

団体戦　男子

1回戦

熊本大学			滋賀医科大学	
0		—	3	
伊達	15	1－2	10	東山
尾崎	6		15	塚田
	5		15	
中西	7	0－2	15	藤井
齊藤	9		15	前平
尾崎	1	0－2	15	藤井
	0		15	

団体戦　女子　ベスト8

2回戦

熊本大学			浜松医科大学	
2		—	0	
田尻	11	2－1	15	横山
中塚	15		8	宇佐見
	15		13	
田尻	11	2－0	2	疋田
	11		1	

3回戦

熊本大学			島根大学	
2		—	0	
田尻	15	2－0	6	江崎
中塚	15		2	松坂
田尻	11	2－0	0	松坂
	11		3	

4回戦

熊本大学			滋賀医科大学	
1		—	2	
田尻	15	1－2	10	筒井
中塚	12		15	湯浅
	2		15	
田尻	11	2－0	1	筒井
	11		6	
中塚	3	0－2	11	湯浅
	7		11	

個人戦　男子ダブルス

中西・齊藤　組　ベスト32

2回戦	2－0	長友・西本（浜松医科）
3回戦	2－0	金子・近藤（愛媛）
4回戦	0－2	笠井・大山（徳島）

個人戦　女子シングルス

田尻　3位

2回戦	2－0	長縄（滋賀医科）
3回戦	2－0	福田（久留米）
4回戦.	2－0	尾上（金沢）
5回戦	2－0	羽柴（金沢）
6回戦	2－1	竹内（大分）
準決勝	0－2	笹瀬（兵庫医科）

中塚　ベスト16

2回戦	2－0	井上（京都）
3回戦	2－0	重盛（近畿）
4回戦	2－0	川上（福井）
5回戦	2－0	寺部（藤田保健衛生）

伊藤　ベスト32

2回戦	2－0	亀山（京都）
3回戦	2－1	藤川（山口）
4回戦	棄権	

上原　ベスト32

2回戦	2－0	佐藤（大阪市立）
3回戦	2－1	宇賀（山口）
4回戦	0－2	場渕（京都府立）

個人戦　女子ダブルス

篠崎・萩原　組　ベスト32

2回戦	2－0	藤井・福田（香川）
3回戦	2－0	中嶋・村山（金沢医科）
4回戦	0－2	櫻井・濱（高知）

平成17年度
第44回　九州山口地区医科学生体育大会
場所　熊　本　（主管　熊本大学）
期間　平成17年

団体戦　男子　リーグ戦

熊本大学			産業医科大学	
5		—	0	
中西	15	2－0	0	澤田
齊藤	15		6	大倉
伊達	15	2－0	13	平岡
尾崎	15		13	丸山
齊藤	15	2－0	7	平岡
	15		8	
出口	15	2－0	12	澤田
	17		15	
尾崎	15	2－0	6	大倉
	15		7	

熊本大学			宮崎大学	
4		—	1	
中西	15	2－0	6	上乃
齊藤	15		5	児玉

伊達 出口	15 15	2－0	13 3	石合 有留
出口	15 15	2－0	12 10	上乃
伊達	16 15	2－0	15 10	石合
齊藤	10 7	0－2	15 15	有留

熊本大学 0 — 九州大学 5

伊達 尾崎	6 11	0－2	15 15	吉田 梅原
中西 齊藤	5 7	0－2	15 15	柳原 森崎
出口	16 10	0－2	17 15	小早川
尾崎	3 7	0－2	15 15	梅原
齊藤	6 17 8	1－2	15 15 15	森崎

熊本大学 1 — 長崎大学 4

中西 齊藤	6 14	0－2	15 17	神保 春田
伊達 尾崎	15 10 15	2－1	2 15 10	山中 三輪
齊藤	1 4	0－2	15 15	神保
出口	12 4	0－2	15 15	春田
尾崎	16 7	0－2	17 15	山中

熊本大学 1 — 佐賀大学 4

出口 岩崎	15 10 15	1－2	2 15 10	千住 田代
高城 太良	11 8	0－2	15 15	高口 野中
出口	15 15	2－0	10 10	田代
高城	9 3	0－2	15 15	高口
岩崎	6 8	0－2	15 15	千住

団体戦　女子

予選リーグ

熊本大学 3 — 琉球大学 0

田尻 中塚	15 15	2－0	1 6	呉屋 仲宗根
田尻	11 11	2－0	0 0	喜友名
萩原	11 11	2－0	1 4	具志堅

優勝

熊本大学 3 — 福岡大学 0

田尻 中塚	15 15	2－0	0 1	小野澤 小林
田尻	11 11	2－0	2 0	小林
萩原	11 11	2－0	1 0	小野澤

熊本大学 3 — 佐賀大学 0

田尻 中塚	10 15 15	2－1	15 3 5	今石 内山
田尻	11 11	2－0	1 2	西村
萩原	13 13	2－0	12 11	内山

熊本大学 2 — 大分大学 1

田尻 中塚	8 15 2	1－2	15 12 15	軸丸 竹内
田尻	8 11 11	2－1	11 1 5	竹内
萩原	11 11	2－0	6 7	西田

熊本大学 3 — 久留米大学 0

田尻 中塚	15 15	2－0	8 3	今立 福田
田尻	11 11	2－0	1 0	福田
萩原	11 11	2－0	6 3	立川

準決勝

熊本大学 2 — 鹿児島大学 0

田尻 中塚	15 15	2－0	2 11	上原 田雑
田尻	11 11	2－0	0 2	上原

決勝

熊本大学 2 — 長崎大学 0

田尻 中塚	15 15	2－0	8 2	後田 逸見
田尻	11 11	2－0	4 8	逸見

個人戦　男子ダブルス

伊達・尾崎　組　　ベスト８

２回戦	2－0	鬼木・笹原（大分）
３回戦	2－0	西藤・上山（鹿児島）
４回戦	2－0	鮎川・西（鹿児島）
５回戦	0－2	山中・山根（長崎）

中西・齊藤　組　　ベスト８

２回戦	2－0	上乃・児玉（宮崎）

3回戦	2－0	清原・中間（九州）
4回戦	2－0	千住・田代（佐賀）
5回戦	0－2	森崎・柳原（九州）

出口・岩崎　組　　ベスト１６

2回戦	2－0	森・嶋本（九州）
3回戦	2－1	大門・吉見（福岡）
4回戦	0－2	荒金・河村（大分）

個人戦　　女子シングルス

田尻　　優勝

2回戦	2－0	安東（大分）
3回戦	2－0	辻本（長崎）
4回戦	2－0	田雑（鹿児島）
5回戦	2－0	太田（大分）
準決勝	2－0	萩原（熊本）
決勝	2－0	竹内（大分）

萩原　　3位

1回戦	不戦勝	桑本（長崎）
2回戦	2－0	高橋（産業）
3回戦	2－0	原之園（鹿児島）
4回戦	2－0	金丸（長崎）
5回戦	2－1	笹原（宮崎）
準決勝	0－2	田尻（熊本）

中塚　　ベスト８

1回戦	2－0	原口（大分）
2回戦	2－0	二村（鹿児島）
3回戦	2－0	小林（福岡）
4回戦	2－0	西田（大分）
5回戦	0－2	後田（長崎）

篠崎　　ベスト１６

1回戦	2－0	川平（鹿児島）
2回戦	2－0	野田（長崎）
3回戦	2－0	村上（大分）
4回戦	1－2	長谷川（長崎）

上原　　ベスト１６

1回戦	2－0	辻（宮崎）
2回戦	2－1	鈴山（佐賀）
3回戦	2－0	鈴木（山口）
4回戦	0－2	竹内（大分）

田中　　ベスト３２

1回戦	2－0	吉津（産業）
2回戦	2－1	木下（長崎）
3回戦	0－2	西田（大分）

伊藤　　ベスト３２

1回戦	2－0	高良（福岡）
2回戦	2－0	上原（琉球）
3回戦	0－2	柿内（鹿児島）

個人戦　　女子ダブルス

田尻・中塚　組　　2位

2回戦	2－0	米原・山本（山口）
3回戦	2－0	辻本・筒井（長崎）
4回戦	2－0	白石・村上（大分）
5回戦	2－0	喜友名・真地（琉球）
準決勝	2　0	西田・太田絵（大分）
決勝	1　2	軸丸・竹内（大分）

萩原・上原　組　　ベスト８

2回戦	2－0	横山・江藤（山口）
3回戦	2－0	古川・村上（長崎）
4回戦	2－0	鈴山・西村（佐賀）
5回戦	1－2	軸丸・竹内（大分）

篠崎・伊藤　組　　ベスト１６

2回戦	2－0	木下・江口（長崎）
3回戦	2－0	高木・谷口（九州）
4回戦	0－2	上原・田雑（鹿児島）

平成17年度
第57回　西日本医科学生総合体育大会
場所　　大　分　　（主管　大分大学）
期間　　平成17年

団体戦　　男子

1回戦

熊本大学			浜松医科大学
0		—	3
中西	15		13　津田
齊藤	7	1－2	15　麻喜
	4		15
高城	8		15　春成
出口	15	1－2	5　吉田
	9		15
出口	8	0－2	15　春成
	8		15

団体戦　　女子　　2位

2回戦

熊本大学			浜松医科大学
2		—	0
田尻	15	2－0	10　横山
萩原	15		12　疋田
田尻	11	2－0	7　疋田
	11		2

3回戦

熊本大学			京都府立医科大学
2		—	0
田尻	15	2－0	8　田中
萩原	15		4　小林
田尻	11	2－0	1　小林
	11		3

4回戦

熊本大学			島根大学
2		—	0
田尻	15	2－0	8　梶
萩原	15		3　安永
上原	11	2－0	7　梶
	11		6

準決勝

熊本大学			大分大学
2		—	1
田尻	11		15　軸丸
萩原	15	2－1	7　竹内
	15		10

上原	3 7	0－2	11 11	西田
田尻	11 11	2－0	5 4	竹内

決勝

熊本大学			藤田保健衛生大学
0		—	2

田尻 萩原	15 11 14	1－2	12 15 17	寺部 倉部
上原	3 4	0－2	11 11	寺部

個人戦　女子ダブルス

田尻・萩原　組　2位

2回戦	2－0	寺井・藤岡（滋賀医科）
3回戦	2－0	島元・山田（宮崎）
4回戦	2－0	辻本・筒井（長崎）
5回戦	2－0	藤原・米倉（広島）
6回戦	2－0	倉部・宮田（藤田保健衛生）
準決勝	2－1	横山・疋田（浜松医科）
決勝	0－2	時政・安間（名古屋）

個人戦　女子シングルス

中塚　ベスト8

2回戦	2－0	松本（奈良県立）
3回戦	2－0	田中（京都府立）
4回戦	2－0	岡田（大阪市立）
5回戦	2－1	橋本（福井）
6回戦	1－2	濱（高知）

篠崎　ベスト16

1回戦	2－0	丹波（近畿）
2回戦	2－0	羽田野（名古屋）
3回戦	2－0	岡山（滋賀医科）
4回戦	2－0	三上（徳島）
5回戦	0－2	西淵（広島）

平成18年度
第45回　九州山口地区医科学生体育大会
場所　鹿児島　（主管　鹿児島大学）
期間　平成18年

団体戦　男子　リーグ戦

熊本大学			鹿児島大学
2		—	3

中西 齊藤	15 15	2－0	4 6	吉嶺 上山
出口 岩崎	6 17 13	1－2	15 15 15	平山 佐藤
中西	14 17 13	1－2	17 16 15	西藤
出口	11 15 15	2－1	15 3 3	佐藤
齊藤	15 8 10	1－2	12 15 15	平川

熊本大学			大分大学
5		—	0

中西 齊藤	15 15	2－0	4 3	田代 笹原
出口 岩崎	15 15	2－0	2 3	小林 土師
出口	15 15	2－0	1 4	笹原
齊藤	15 15	2－0	2 2	鬼木
中西	15 15	2－0	4 10	田代

熊本大学			佐賀大学
2		—	3

中西 齊藤	15 17	2－0	8 15	田代 野中
出口 岩崎	1 3	0－2	15 15	千住 高口
中西	9 2	0－2	15 15	田代
齊藤	15 15	2－0	12 9	千住
出口	3 11	0－2	15 15	高口

熊本大学			九州大学
2		—	3

中西 齊藤	15 9 13	1－2	12 15 15	梅原 清原
出口 岩崎	15 15	2－0	8 4	藤内 藤
出口	11 7	0－2	15 15	清原
齊藤	14 13	0－2	17 15	梅原
中西	15 15	2－0	4 4	藤内

熊本大学			産業医科大学
0		—	5

太良 大木	9 4	0－2	15 15	平岡 大倉遊
大島 柚留木	5 10	0－2	15 15	丸山 大倉暖
近藤	15 11 15	1－2	3 15 17	丸山
原	2 4	0－2	15 15	平岡
江頭	5 3	0－2	15 15	大倉暖

団体戦　女子　2位

予選リーグ

熊本大学		山口大学
3	—	0

萩原	15	2－0	1	竹村
上原	15		0	江藤
萩原	11	2－0	0	鈴木
	11		0	
上原	11	2－0	0	国居
	11		2	

熊本大学 3 — 宮崎大学 0

萩原	15	2－0	3	笹原
上原	15		9	島元
萩原	11	2－0	1	島元
	11		2	
上原	11	2－0	6	笹原
	11		2	

熊本大学 3 — 鹿児島大学 0

萩原	15	2－0	10	柿内
上原	15		12	原之園
萩原	11	2－0	2	原之園
	11		3	
上原	13	1－0	10	柿内
	○	（棄権）	×	

熊本大学 3 — 久留米大学 0

萩原	15	2－0	1	立川
上原	15		3	福田
萩原	11	2－0	3	福田
	11		1	
上原	11	2－0	4	立川
	11		7	

熊本大学 3 — 九州大学 0

萩原	15	2－0	10	友成
上原	15		13	高木
上原	11	2－0	8	谷口
	11		7	
萩原	11	2－0	4	友成
	11		5	

準決勝

熊本大学 2 — 長崎大学 1

萩原	15	2－1	2	山口
上原	15		17	谷川
	15		11	
萩原	11	2－0	9	逸見
	11		5	
上原	7	0－2	11	山口
	4		11	

決勝

熊本大学 1 — 大分大学 2

萩原	15	1－2	10	竹内
上原	13		15	太田
	11		15	
上原	0	0－2	11	竹内
	1		11	
萩原	11	1－0	4	太田
		（打切）		

個人戦　男子シングルス

上野　ベスト１６

１回戦	2－0	富田（九州）
２回戦	2－1	滝（琉球）
３回戦	0－2	岩垣（産業医科）

近藤　ベスト１６

２回戦	2－1	村田（佐賀）
３回戦	0－2	荒木（久留米）

楢原　ベスト１６

１回戦	2－0	滝下（宮崎）
２回戦	2－1	木村（大分）
３回戦	0－2	後藤（佐賀）

個人戦　男子ダブルス

中西・齊藤　組　ベスト１６

２回戦	不戦勝	
３回戦	2－0	浅田・嶋本（九州）
４回戦	1－2	高口・野中（佐賀）

個人戦　女子シングルス

萩原　ベスト８

２回戦	2－0	瀧内（山口）
３回戦	2－0	谷川（長崎）
４回戦	2－0	西田（大分）
５回戦	0－2	竹内（大分）

上原　ベスト８

２回戦	2－0	太田（長崎）
３回戦	2－0	谷口（九州）
４回戦	棄権	福田（久留米）
５回戦	0－2	太田（大分）

伊藤　ベスト３２

２回戦	2－0	大森（長崎）
３回戦	0－2	高木（九州）

個人戦　女子ダブルス

萩原・上原　組　３位

２回戦	1－0	菊池・open（福岡）
３回戦	2－0	辻本・古川（長崎）
４回戦	2－0	谷口・久保田（九州）
５回戦	2－0	川合・村上（大分）
準決勝	1－2	長谷川・逸見（長崎）

権藤・松山　組　ベスト３２

２回戦	2－0	松尾・小橋（九州）
３回戦	0－2	西田・白石（大分）

平成18年度
第58回　西日本医科学生総合体育大会
場所　名古屋　（主管　名古屋市立大学）
期間　平成18年

団体戦　男子

１回戦

熊本大学 3 — 島根大学 1

中西	17	1－2	16	瀧
齊藤	5		15	幸田
	9		15	

出口	15	2－0	2	佐藤
田中	15		3	堀田
出口	15	×	8	幸田
	4		12	
齊藤	15	2－0	3	瀧
	15		3	
田中	15	2－0	0	堀田
	15		1	

2回戦

熊本大学			京都府立医科大学	
1		—	3	
中西	2	0－2	15	池田
齊藤	5		15	高山
出口	4	0－2	15	宮下
田中	11		15	竹内
齊藤	15	2－0	6	小松
	15		11	
田中	4	0－2	15	高山
	5		15	

団体戦　女子　　2位

2回戦

熊本大学			福井大学	
2		—	0	
萩原	15	2－0	6	川上
上原	15		7	加藤
上原	11	2－0	9	橋本
	11		5	

3回戦

熊本大学			岡山大学	
2		—	0	
萩原	15	2－0	0	原賀
上原	15		0	逸見
萩原	11	2－0	3	原賀
	11		0	

4回戦

熊本大学			長崎大学	
2		—	1	
萩原	12	0－2	15	谷川
上原	7		15	山口
萩原	11	2－0	6	逸見
	11		2	
上原	10	2－1	13	山口
	11		6	
	11		2	

準決勝

熊本大学			名古屋大学	
2		—	1	
萩原	15	2－1	7	時政
上原	1		15	安間
	15		11	
上原	11	1－2	2	時政
	9		11	
	9		11	
萩原	10	2－1	13	安間
	11		9	
	11		2	

決勝

熊本大学			広島大学	
0		—	2	
萩原	8	0－2	15	田鶴谷
上原	14		17	田淵
上原	11	×	6	田鶴谷
	7		4	
萩原	4	0－2	11	田淵
	4		11	

個人戦　男子シングルス

田中　　ベスト１６

1回戦	2－0	西本（浜松医科）
2回戦	2－0	小笠原（大阪）
3回戦	2－0	弘田（大阪医科）
4回戦	2－0	西田（奈良県立）
5回戦	2－0	田中（金沢）
6回戦	0－2	秋穂（久留米）

個人戦　男子ダブルス

中西・齊藤　組　　ベスト８

2回戦	2－0	天野・中川（産業医科）
3回戦	2－0	井澤・原田（浜松医科）
4回戦	2－1	遠藤・横山（兵庫医科）
5回戦	0－2	笠井・大山（徳島）

個人戦　女子シングルス

小林　　ベスト３２

1回戦	不戦勝	
2回戦	2－0	渡辺（愛知医科）
3回戦	2－0	国居（山口）
4回戦	0－2	寺部（藤田保健衛生）

横尾　　ベスト３２

1回戦	不戦勝	
2回戦	2－0	大畑（産業医科）
3回戦	2－0	西前（奈良県立）
4回戦	0－2	太田（大分）

個人戦　女子ダブルス

萩原・上原　組　　３位

2回戦	2－0	大田・加山（和歌山）
3回戦	2－0	坂東・中島（愛媛）
4回戦	2－0	出原・丹波（名古屋市立）
5回戦	2－0	西木・芝木（京府医立）
準決勝	1－2	倉部・宮田（藤田保健衛生）

平成19年度
第46回　九州山口地区医科学生体育大会
場所　　北九州　　（主管　産業医科大学）
期間　　平成19年

団体戦　男子　　３位

予選リーグ

熊本大学		長崎大学
5	—	0

齊藤 岩崎	21 21	2－0	5 13	連乃 金本
出口 田中	21 13 21	2－1	18 21 11	春田 岡
出口	21 21	2－0	19 8	金本
齊藤	21 23	2－0	18 21	春田
田中	21 21	2－0	10 8	岡

熊本大学　5　—　0　宮崎大学

齊藤 岩崎	21 21	2－0	12 13	有留 内原
出口 田中	21 21	2－0	4 9	上乃 児玉
出口	21 21	2－0	6 13	内原
齊藤	21 21	2－0	18 11	上乃
田中	21 21	2－0	7 9	有留

熊本大学　4　—　1　九州大学

齊藤 岩崎	21 21	2－0	15 17	清原 池田
出口 田中	21 21	2－0	16 16	中間 松隈
出口	21 10 20	1－2	16 21 22	池田
齊藤	21 21	2－0	14 17	清原
田中	23 21	2－0	21 13	赤嶺

熊本大学　4　—　1　産業医科大学

齊藤 岩崎	21 21	2－0	19 16	大倉暖 小屋
出口 田中	21 21	2－0	10 15	平岡 大倉遊
齊藤	21 21	2－0	7 10	平岡
出口	12 18	0－2	21 21	小屋
田中	21 21	2－0	5 4	大倉暖

熊本大学　2　—　3　佐賀大学

齊藤 岩崎	21 21	2－0	17 10	野中 三浦
出口 田中	21 22 18	1－2	11 14 21	高口 田代
田中	19 22 20	1－2	21 20 22	田代

出口	21 18 12	1－2	6 21 21	野中
齊藤	21 21	2－0	19 12	高口

準決勝

熊本大学　2　—　3　久留米大学

齊藤 岩崎	21 21	2－0	16 16	荒木 後藤
出口 田中	6 19	0－2	21 21	秋穂 牧
齊藤	19 9	0－2	21 21	秋穂
出口	21 21	2－0	9 9	荒木
田中	21 12 15	1－2	17 21 21	牧

3位決定戦

熊本大学　3　—　0　鹿児島大学

齊藤 岩崎	19 21 21	2－1	21 19 12	吉嶺 西藤
出口 田中	21 23	2－0	13 21	佐藤 上山
田中	21	1－0 (打切)	13	西藤
齊藤	22 21	2－0	20 18	上山

団体戦　女子　2位

予選リーグ

熊本大学　2　—　1　佐賀大学

萩原 上原	21 21	2－0	14 13	今石 内山
上原	17 16	0－2	21 21	内山
萩原	21 21	2－0	10 15	今石

熊本大学　1　—　2　長崎大学

萩原 上原	21 16	0－2	23 21	谷川 山口
萩原	21 21	2－0	12 19	逸見
上原	14 14	0－2	21 21	山口

熊本大学　3　—　0　琉球大学

萩原 上原	21 21	2－0	10 10	真地 仲宗根
上原	21 21	2－0	15 11	真地
萩原	21 21	2－0	9 16	花城

熊本大学　3 — 0　産業医科大学

小林	21	2－0	19	高橋
塚本	21		18	田中
上原	21	2－0	13	今石
	21		12	
亀田	21	2－1	14	真崎
	10		21	
	23		21	

熊本大学　3 — 0　宮崎大学

萩原	21	2－0	10	笹原
上原	21		12	荒沢
萩原	21	2－0	12	笹原
	21		15	
上原	21	2－0	7	島元
	21		6	

準決勝

熊本大学　2 — 0　九州大学

萩原	21	2－0	12	友成
上原	21		13	高木
萩原	21	2－0	12	谷口
	21		10	
上原	21	打ち切り	14	高木

決勝

熊本大学　1 — 2　長崎大学

萩原	7	0－2	21	谷川
上原	19		21	山口
萩原	21	2－0	14	逸見
	21		10	
上原	21	1－2	15	谷川
	13		21	
	14		21	

個人戦　男子シングルス

田中　優勝

2回戦	2－0	池田（宮崎）
3回戦	2－0	西山（琉球）
4回戦	2－0	池田（九州）
準決勝	2－0	野中（大分）
決勝	2－1	小屋（産業医科）

個人戦　男子ダブルス

出口・田中　組　ベスト4

2回戦	2－0	宿理・長田（長崎）
3回戦	2－0	村田・伊藤（佐賀）
4回戦	2－1	柿内・上山（鹿児島）
5回戦	2－0	有留・内原（宮崎）
準決勝	棄権	秋穂・牧（久留米）

齊藤・岩崎　組　ベスト16

2回戦	2－0	野口・小松（福岡）
3回戦	2－0	正月・上野（長崎）
4回戦	0－2	秋穂・牧（久留米）

個人戦　女子シングルス

萩原　優勝

1回戦	2－0	太田陽（大分）
2回戦	2－0	吉崎（佐賀）
3回戦	2－0	真崎（産業医科）
4回戦	2－0	長友（鹿児島）
5回戦	2－0	山口（長崎）
準決勝	2－0	太田絵（大分）
決勝	2－1	内山（佐賀）

上原　ベスト4

1回戦	2－0	田丸（産業医科）
2回戦	2－0	籠手田（久留米）
3回戦	2－0	仲宗根（琉球）
4回戦	2－0	原之園（鹿児島）
5回戦	2－0	笹原（宮崎）
準決勝	1－2	内山（佐賀）

塚本　ベスト16

1回戦	2－0	勝田（大分）
2回戦	2－0	高木（九州）
3回戦	2－0	伊藤（長崎）
4回戦	0－2	太田（大分）

個人戦　女子ダブルス

萩原・上原　組　優勝

2回戦	2－0	野田・太田（長崎）
3回戦	2－0	高良・間嶋（福岡）
4回戦	2－0	友成・高木（九州）
5回戦	2－0	吉永・長友（鹿児島）
準決勝	2－1	谷川・山口（長崎）
決勝	2－0	谷口・久保田（九州）

平成19年度
第59回　西日本医科学生総合体育大会
場所　京　都　（主管　京都大学）
期間　平成19年

団体戦　男子

2回戦

熊本大学　3 — 2　香川大学

齊藤	21	2－0	7	岡島
田中	21		12	清水
出口	18	0－2	21	高田
岩崎	21		23	大西
出口	21	1－2	18	大西
	18		21	
	19		21	
田中	21	2－1	15	高田
	12		21	
	21		14	
齊藤	21	2－0	12	岡島
	21		12	

3回戦

熊本大学　1 — 3　金沢大学

齊藤	17	0－2	21	山本
田中	20		22	材木
出口	13	1－2	21	佐々木
岩崎	21		8	飯塚
	15		21	
齊藤	18	0－2	21	山本
	9		21	
田中	22	2－0	20	佐々木
	21		7	

団体戦　女子　　3位

2回戦

熊本大学			三重大学	
2		—	0	
萩原	16	2－1	21	西澤
上原	21		17	山本
	21		12	
上原	21	2－0	11	藤本
	21		17	

3回戦

熊本大学			島根大学	
2		—	0	
萩原	21	2－0	15	宮本
上原	22		20	中島
萩原	21	2－0	11	宮本
	21		5	

4回戦

熊本大学			長崎大学	
2		—	0	
萩原	21	2－1	17	谷川
上原	19		21	山口
	21		18	
萩原	10	2－1	21	山口
	21		15	
	21		15	

準決勝

熊本大学			浜松医科大学	
0		—	2	
萩原	6	0－2	21	疋田
上原	17		21	宇佐美
上原	16	0－2	21	疋田
	10		21	

3位決定戦

熊本大学			大阪市立大学	
2		—	0	
萩原	21	2－0	12	谷口
上原	21		14	札場
萩原	21	2－0	10	谷口
	21		10	

個人戦　男子シングルス

出口　　ベスト32

1回戦	2－0	菊池（岡山）
2回戦	2－0	薮本（福井）
3回戦	2－0	兼村（琉球）
4回戦	2－1	宮地（近畿）
5回戦	0－2	塚田（滋賀医科）

個人戦　男子ダブルス

齊藤・田中　組　　ベスト16

2回戦	2－0	村上・金子（愛媛）
3回戦	2－0	吉嶺・西藤（鹿児島）
4回戦	0－2	上村・中村（兵庫医科）

個人戦　女子ダブルス

萩原・上原　組　　優勝

2回戦	2－0	野田・加藤（愛知医科）
3回戦	2－0	大森・吉田（長崎）
4回戦	2－0	今西・布出（大阪医科）
5回戦	2－1	岡山・添田（滋賀医科）
準決勝	2－0	谷口・久保田（九州）
決勝	2－0	宮田・倉部（藤田保健衛生）

平成20年度
第47回　九州山口地区医科学生体育大会
場所　　佐　賀　　（主管　佐賀大学）
期間　　平成20年

団体戦　男子　　3位

予選リーグ

熊本大学			長崎大学	
1		—	4	
柚留木	23	1－2	21	春田
田中	20		22	金本
	10		21	
岩崎	15	1－2	21	岡
横田	21		18	上野
	14		21	
近藤	21	1－2	15	岡
	20		22	
	11		21	
田中	17	0－2	21	春田
	16		21	
岩崎	21	2－0	8	金本
	21		14	

熊本大学			産業医科大学	
4		—	1	
柚留木	21	2－0	11	丸山
田中	21		6	小屋
岩崎	21	2－1	18	天野
横田	17		21	中川
	21		17	
田中	21	2－0	10	小屋
	23		21	
岩崎	×	棄権	○	天池
近藤	21	2－0	17	丸山
	21		16	

熊本大学			琉球大学	
3		—	2	
岩崎	21	1－2	17	谷口
横田	11		21	金村
	15		21	
柚留木	21	2－0	13	中本
田中	21		10	当山
近藤	21	2－0	14	中本
	21		17	

田中	21 21	2－0	15 5	金村
岩崎	15	棄権	21	谷口

熊本大学 3 — 大分大学 2

岩崎 横田	21 16 15	1－2	16 21 21	小池 土師
柚留木 田中	21 15 23	2－1	10 21 21	小林 本村
近藤	18 18	0－2	21 21	野中
岩崎	21 21	2－0	17 9	笹原
田中	21 21	2－0	9 8	土師

熊本大学 3 — 佐賀大学 2

岩崎 横田	21 19 19	1－2	7 21 21	野中 三浦
柚留木 田中	22 18 21	2－1	20 21 18	武井 後藤
近藤	21 16 18	1－2	18 21 21	野中
岩崎	20 21 21	2－1	22 17 10	三浦
田中	21 21	2－0	13 11	武井

準決勝

熊本大学 0 — 久留米大学 3

岩崎 横田	18 19	0－2	21 21	荒木 後藤
柚留木 田中	12 4	0－2	21 21	秋穂 牧
近藤	7 9	0－2	21 21	秋穂

3位決定戦

熊本大学 3 — 長崎大学 1

岩崎 横田	22 16 21	2－1	20 21 17	岡 上野
柚留木 田中	11 13	0－2	21 21	春田 金本
田中	21 21	2－0	12 16	岡
近藤	21 14 21	2－0	16 21 14	金本

団体戦　女子　　3位

予選リーグ

熊本大学 2 — 琉球大学 1

上原 亀田	22 21	2－0	20 10	真地 花城
上原	21 21	2－0	13 11	花城
亀田	21 18 13	1－2	19 21 21	真地

熊本大学 3 — 久留米大学 0

上原 亀田	21 21	2－0	13 9	籠手田 福田
上原	21 21	2－0	8 9	福田
原	21 21	2－0	15 12	籠手田

熊本大学 2 — 宮崎大学 1

上原 亀田	21 21	2－0	8 10	荒沢 辻
亀田	14 11	0－2	21 21	笹原
上原	21 21	2－0	7 5	荒沢

熊本大学 2 — 鹿児島大学 1

上原 亀田	22 19 21	2－1	20 21 14	吉永 長友
上原	21 21	2－0	7 11	吉永
原	14 18	0－2	21 21	長友

熊本大学 1 — 大分大学 2

上原 亀田	22 19 15	1－2	20 21 21	太田 白石
上原	21 21	2－0	12 14	太田
亀田	16 ×	0－2 （棄権）	21 ○	白石

準決勝

熊本大学 0 — 長崎大学 2

上原 亀田	13 13	0－2	21 21	山口 谷川
上原	10 21 ×	1－1 （打切）	21 15 ○	谷川
原	4 5	0－2	21 21	山口

3位決定戦

熊本大学 2 — 佐賀大学 1

上原 亀田	21 22	2－0	19 20	今石 平川
上原	21 21	2－0	10 13	今石
原	9 12	0－2	21 21	平川

個人戦　　男子ダブルス
柚留木・田中　組　　ベスト１６

2回戦	2－0	渡辺・草津（佐賀）
3回戦	2－1	上乃・安武（宮崎）
4回戦	0－2	春田・金本（長崎）

個人戦　　女子シングルス
上原　　優勝

2回戦	2－0	中馬（佐賀）
3回戦	2－0	藤永（大分）
4回戦	2－0	立川（山口）
5回戦	2－0	真崎（産業医科）
6回戦	2－0	小林（福岡）
準決勝	2－0	山口（長崎）
決勝	2－0	笹原（宮崎）

個人戦　　女子ダブルス
上原・亀田　組　　3位

2回戦	2－0	中山・中馬（佐賀）
3回戦	2－0	大森・吉田（長崎）
4回戦	2－0	高橋・田中（産業医科）
5回戦	2－0	安藤・荻野（山口）
準決勝	0－2	谷川・山口（長崎）

平成20年度
第60回　西日本医科学生総合体育大会
場所　　広　島　　（主管　広島大学）
期間　　平成20年7月31日～8月2日

団体戦　　男子　　ベスト8

2回戦

熊本大学			奈良県立医科大学
3		—	1

岩崎 田中	17 21 21	1－2	21 16 23	大原 濱田
柚留木 横田	23 21	2－0	21 11	岡 安藤
近藤	21 21	2－0	11 14	安藤
田中	15 21	1－1 （打切）	21 14	濱田
岩崎	21 21	2－0	19 17	大原

3回戦

熊本大学			近畿大学
3		—	1

岩崎 田中	14 21 13	1－2	21 18 21	三河 小山
柚留木 横田	21 11 21	2－1	15 21 11	宮地 田崎
近藤	21 21	2－0	19 14	宮地
田中	10 21 28	2－1	21 18 26	小山
岩崎	21	1－0 （打切）	18	三河

3回戦

熊本大学			久留米大学
0		—	3

柚留木 横田	11 4	0－2	21 21	荒木 渡邊
岩崎 田中	12 18	0－2	21 21	秋穂 牧
田中		×	19	牧
近藤	10 12	0－2	21 21	荒木
岩崎		×		秋穂

団体戦　　女子
2回戦

熊本大学			富山医科薬科大学
1		—	2

上原 亀田	17 13	0－2	21 21	石井 河田
上原	21 21	2－0	3 5	野田
亀田	11 9	0－2	21 21	石井

個人戦　　男子シングルス
田中　　ベスト１６

2回戦	2－0	中村（広島）
3回戦	2－0	根岸（金沢）
4回戦	2－0	原田（長崎）
5回戦	2－0	濱井（京都）
6回戦	2－0	材木（金沢）
7回戦	0－2	山中（岐阜）

近藤

2回戦	2－0	松井（福井）
3回戦	2－0	相原（愛媛）
4回戦	0－2	小山（近畿）

楢原

2回戦	2－0	児島（近畿）
3回戦	2－0	山口（三重）
4回戦	1－2	四宮（産業医科）

江頭

2回戦	2－0	神前（岐阜）
3回戦	1－2	竹村（浜松医科）

柚留木

2回戦	2－0	春原（富山医科薬科）
3回戦	2－0	桑原（福井）

寺本

2回戦	2－0	山中（和歌山）
3回戦	2－0	齋藤（名古屋）

朝倉

2回戦	不戦勝	中野（近畿）
3回戦	2－0	野々村（岐阜）

2回戦敗退　原、上野、山田（倫）、坂田（憲）、古家、今泉、坂田（悦）、山田、白濱、都

個人戦　男子ダブルス

岩崎・横田　組

1回戦	2－0	勝間・虎谷（大阪）
2回戦	1－2	与田・吉岡（和歌山）

石井・伊良波　組

1回戦	2－0	藤岡・及川（愛媛）
2回戦	1－2	池田・高山（京都府立）

1回戦敗退　舘野・谷口　組

個人戦　女子シングルス

上原　ベスト8

2回戦	2－0	濱田（愛媛）
3回戦	2－0	西井（大阪医科）
4回戦	2－0	古賀（佐賀）
5回戦	2－0	斧出（川崎医科）
6回戦	2－0	野田（富山医科薬科）
準々決勝	0－2	太田（大分）

亀田

2回戦	2－0	野島（広島）
3回戦	2－0	橋本（近畿）
4回戦	0－2	羽柴（金沢）

春田

2回戦	不戦勝	西川（滋賀医科）
3回戦	1－2	丹羽（名古屋市立）

原

2回戦	2－0	粉川（和歌山）
3回戦	0－2	川上（福井）

前田

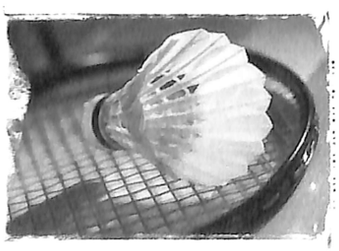
2回戦	2－0	山崎（奈良県立）
3回戦	0－2	室岡（福井）

2回戦敗退　川本、平松、森永、石黒

個人戦　女子ダブルス

中田・桑原　組

1回戦	2－1	岡本・塩原（兵庫医科）
2回戦	2－0	大畑・藤原（産業医科）
3回戦	0－2	岡山・添田（滋賀医科）

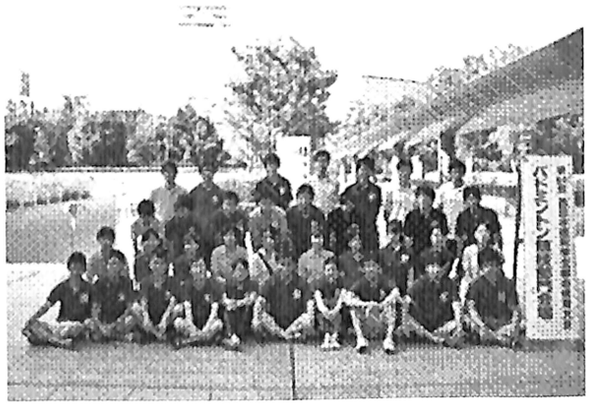




平成15年ごろ　全員集合



平成18年　西医体　団体戦メンバー



平成20年　西医体　広島にて

第6部

熊本大学医学部バドミントン部OB／OG会『杏羽会』について

1. 熊本大学医学部バドミントン部 OB/OG 会『杏羽会』会則

1．名称：本会は熊本大学医学部バドミントン部 OB/OG 会「杏羽会」と称する。
2．目的：本会はバドミントンを通じて熊本大学医学部バドミントン部OB/OGおよび現役医学部学生バドミントン部員における相互の親睦をはかることを目的とする。
3．事業：本会は次の事業を行う。
　1）本会は年 1 回の現役、OB/OG を交えての交流バドミントン大会を開催する。
　2）本会は10年に 1 回の記念誌の発行と記念祝賀会を開催する。
　3）本会はその他、本会の目的にそった事業を行う。
4．会員：本会は熊本大学医学部バドミントン部OB/OGおよび現役医学部学生バドミントン部員を会員とする。
5．役員：本会は次の役員を置く。
　1）会長　1 名
　2）幹事　若干名
　3）監事　2 名
6．役員の選出：会長、および幹事は総会における互選により選出し、任期は 2 年とする。再選は妨げない。
7．会費：会費は維持年額2,000円とする。ただし、年会費納入は OB/OG に限る。なお交流バドミントン大会および記念祝賀会については参加者より参加費を徴収する。また記念誌発行に要する費用については、会員の中で趣旨に賛同する会員より別途徴収するものとする。
8．会計：本会の会計年度は 4 月 1 日より翌年 3 月31日までとし、総会において会計報告をする。
9．事務局：本会の事務局は役員宅におく。
　（事務局住所：〒860－0803　熊本市新市街12－5　松本孝一）

付則
1．本会は平成20年 1 月19日をもって設立とし、この会則は平成20年 1 月19日以後発効する。
2．本会発足時の役員は次の通りである。
　1）会長：松本　孝一（S41）
　2）幹事：吉永　　健（S53）、片渕　美和子（S54）、水本　圭彦（H 2）、須加原　一昭（H16）
　3）監事：吉田　仁爾（S41）、濱田　泰之（S52）

2.『杏羽会』 会員名簿

卒業年次	氏名（旧姓）	郵便番号	自宅住所 勤務先住所	出身 勤務先	自宅電話 勤務先電話
名誉	野村　茂	253－0004	茅ヶ崎市甘沼776－14	満州医大 熊大医　名誉教授	0467－52－9348
S34	入江　政男	807－0021 807－0025	遠賀郡水巻町頃末585－133 遠賀郡水巻町頃末南１丁目５－12	 入江整形外科医院	093－201－6233 093－201－3320
S34	横尾　恒夫	860－0053	熊本市田崎３丁目３－41	熊大　泌尿・皮膚	096－356－3071
S35	友成　久雄	880－0955 880－0916	宮崎市桜ヶ丘町１－８－１ 宮崎市恒久5567	熊大　精神 野崎病院	0985－48－1766 0985－51－3111
S36	柳田喜美子（山内）	885－0052 885－0052	都城市東町10－17 都城市東町10－17	熊大　小児 柳田病院	0986－22－4850 0986－22－4850
S37	秋月　孝行	862－0924 862－0924	熊本市帯山５丁目８－22 熊本市帯山５丁目８－22	熊大　三内 みわクリニック	096－381－6666 096－381－6666
S37	木佐貫健一	880－0916 880－0916	宮崎市恒久4402－１ 宮崎市恒久4402－１	熊大　産婦 木佐貫産婦人科	0985－52－3231 0985－52－3231
S37	住吉　司郎	862－0935 865－0041	熊本市御領町５丁目９－38 玉名市伊倉北方265	熊大　精神 城ヶ崎病院　精神科	096－380－9905 0968－73－3375
S37	高屋　通子（中西）	183－0022 183－0027	府中市宮西町３－６－１ウィンドステージ府中宮西305 府中市本町２－19－55オルジュ本町３Ｆ	熊大　皮膚 こうや皮膚科内科	042－366－5241 042－314－3663
S37	藤原　順子（内野）	305－0025	つくば市花室993	日本伝統医療科学大学院 大学総合医療研究科	0298－57－7875 0298－52－2890
S38	井上トヨ子（勝屋）	150－0001 150－0001	渋谷区神宮前６丁目35－３ 渋谷区神宮前６丁目35－３	熊大　眼 オリンピア眼科病院	03－3400－4973 03－3746－8981
S38	梶川　成子（藤原）	734－0005 730－0046	広島市南区翠町１－８－７ 広島市中区昭和町８－20	熊大　一病 梶川病院	082－251－5045 082－249－6411
S38	谷口　正信	861－8066 861－8066	熊本市清水亀井町20－15 熊本市清水亀井町20－15	熊大　代謝内科 谷口内科医院	096－343－5066 096－343－5066
S38	吉見　忍	898－0211 898－0211	南さつま市坊津町久志2456 南さつま市坊津町久志2457	熊大　整形 吉見医院	0993－68－0730 0993－68－0205
S39	早川　朋也	836－0046 836－0046	大牟田市本町４丁目10－11 大牟田市本町４丁目10－11	熊大　二内 早川内科胃腸科医院	0944－55－1456 0944－54－6600
S39	二塚　信	862－8006 865－0062	熊本市龍田１丁目７－10 玉名市富尾888	熊大　公衆衛生 九州看護福祉大学	096－337－5893 0968－75－1832
S40	奥村　恭久	862－0973 867－0045	熊本市大江本町３－18－1102 水俣市桜井町３－３－３	熊大　二外 岡部病院	096－363－8957 0966－63－3311

卒業年次	氏名（旧姓）	郵便番号	自宅住所 勤務先住所	出身 勤務先	自宅電話 勤務先電話
S40	伊地知紀子 （宮本）	164－0014	中野区南台２－52－８－501		03－3229－3402
S40	牛島津賀子		（旧姓　甲斐）死　　去		
S40	原　陽子	353－0005	志木市幸町１－６－35	朝日生命成人病研究所	048－471－1744
	（河北）	100－0005	千代田区丸の内１丁目６－１	附属丸の内病院	03－3201－6781
S41	上村　邦紀	868－0013	人吉市上薩摩瀬町1409	熊大　一外	0966－22－2417
			球磨郡水上村岩野	古域病院	0966－44－0321
S41	清田　祥子	861－1102	菊池郡西合志町須屋712－４	熊大　一病	096－343－4692
	（水野）	860－0078			096－355－5246
S41	布田　龍佑	862－0971	熊本市大江３丁目10－13	熊大　眼	096－364－2640
		860－0017	熊本市練兵町56	日隈眼科医院	096－352－3681
S41	前田　利為	865－0061	玉名市立願寺138	熊大　小児	0968－72－3995
		865－0061	玉名市立願寺138	前田小児科医院	0968－74－1333
S41	松本　孝一	860－0803	熊本市新市街12－５	熊大　二外	096－352－0338
		860－0803	熊本市新市街12－５	松本外科病院	096－352－0338
S41	宮川　洸平	862－0970	熊本市渡鹿５丁目１－37	熊大　精神	096－362－3559
		862－0970	熊本市渡鹿５丁目１－37	くまもと青明病院	096－366－2291
S41	吉田　仁爾	862－0972	熊本市北千反畑町２－５	熊大 代謝内科	096－343－6161
		860－0855	熊本市北千反畑町２－５	表参道吉田病院	096－343－6161
S42	香月　千裕	822－0001	直方市感田415	熊大　一外	0949－26－7777
		822－0001	直方市感田415	かつき脳外科整形外科	0949－26－7777
S42	服部　正裕	860－0004	熊本市新町２－12－35		096－325－2300
		860－0004	熊本市新町２－12－35	服部胃腸科	096－325－2300
S43	石坂　信子	860－0852	熊本市薬園町２－29	熊大　　麻酔	096－344－1578
	（深水）	869－1106	菊池郡菊陽町大字曲手760	熊本リハビリテーション病院	096－232－3111
S43	大島　武子	982－0821	仙台市太白区松が丘34－７　　202	熊大　小児	022－229－3285
		989－2202	亘理郡山元町高瀬字合戦原100	宮城医療センター	0223－37－1131
S43	佐藤　和子	862－0941	熊本市出水７－65－６	熊大　　公衆衛生	096－378－1273
	（隅倉）	860－0812	熊本市南熊本５丁目７－３	佐藤皮膚科	096－371－3933
S44	河北　　誠	860－0047	熊本市春日５丁目11－12	熊大　二内	096－356－5733
		862－0965	熊本市田迎町大字田井島224	熊本第一病院	096－370－7333
S45	麻生　　宏	877－0012	日田市淡窓２丁目１－25	熊大　小児	0973－24－2323
		877－0012	日田市淡窓２丁目１－25	麻生小児科医院	0973－24－2323
S45	得平　卓彦			熊大　　麻酔	
		241－0005	横浜市旭区白根３丁目15－７	えひら胃腸科内科	045－951－3811
S45	小山　浩徳	862－0918	熊本市水前寺公園13－45－A1208	熊大　総合診療	096－367－3396
		862－0950	熊本市水前寺６丁目３－６　ヨネザワビル２F	小山胃腸科内科クリニック	096－381－7273

卒業年次	氏名（旧姓）	郵便番号	自宅住所 勤務先住所	出身 勤務先	自宅電話 勤務先電話
S45	松元　寛仁	899－1131 899－1131	阿久根市脇本9090－19 阿久根市脇本9093－2	熊大　精神 脇本病院	0996－75－2121 0996－75－2121
S46	鎌田　龍二	861－8039 862－0939	熊本市長嶺南4丁目2－33 熊本市長嶺南2丁目4－11	熊大　眼 かまた眼科クリニック	096－381－7075 096－381－8632
S46	後藤　倶子（松永）	860－0843 862－0965	熊本市草葉町2－28－1004 熊本市田井島1丁目5－1	熊大　麻酔 熊本中央病院　麻酔科	096－325－7034 096－370－3111
S46	吉村　力也	862－8001 861－3106	熊本市武蔵ヶ丘1丁目8－6 上益城郡嘉島町上島2299－1	熊大　三内 よしむら内科循環器科	096－337－1539 096－235－7773
S46	堀川　廣通	868－0016 868－0083	人吉市城本町524－10 人吉市下林町232	熊大　整形 回生会　堤病院	0966－23－2422 0966－22－0200
S46	堀川　澄（戸泉）	868－0016	人吉市城本町524－10	熊大　皮膚	0966－23－2422
S47	宮川　民平	863－0017 863－2171	天草市船之尾町9－38 天草市佐伊津町5789	熊大　精神 天草病院	0969－22－2494 0969－23－6111
S48	辻　重喜	861－5512 861－4157	熊本市梶尾町1017－50 下益城郡富合町古閑1012	熊大　麻酔 にしくまもと病院	096－343－8546 096－358－1118
S48	本木下　崇	890－0046 890－0046	鹿児島市西田1丁目6－15 鹿児島市西田1丁目6－15	鹿大 本木下クリニック	099－256－0084 099－254－9210
S49	ムーン裕子（斎藤）	 860－0862	6016Schaefer RD.Edina,MN 55436－1817.U.S.A. 連絡先＊熊本市黒髪6丁目2923	熊大　麻酔	612－925－1902 612－836－1723
S49	青野　和子（畑本）	870－0867 870－0868	大分市東野台1－4－7 大分市大字野田815	熊大　一内 博愛診療所	097－549－4277 097－549－0858
S50	大井　正文（垂）	889－2533 889－2533	日南市星倉1－3－7 日南市星倉1－3－7	鹿大　一外 大井外科	0987－25－2100 0987－25－2100
S50	神本裕喜子（柳瀬）	860－0075	熊本市稗田町3－41	熊大　二内	096－325－3106
S51	田淵　富張	739－0013 739－0013	東広島市西条御条町4－19 東広島市西条御条町4－19	熊大　皮膚 田淵皮膚科医院	0824－22－7290 0824－22－7255
S52	竹口東一郎	863－0025 863－0033	天草市古川町11－20 天草市東町101	熊大　二外 天草中央総合病院	0969－22－3554 0969－22－0011
S52	浜田　泰之	862－0923 862－0965	熊本市東京塚町6－15 熊本市田井島1丁目5－1	熊大　泌尿 熊本中央病院	096－381－7998 096－370－3111
S52	又吉　重光	901－2133 902－8531	浦添市城間4－11－5 那覇市与儀1丁目3－1	熊大　耳鼻 沖縄県立那覇病院	 098－853－3111
S53	吉永　健	862－0958 862－0965	熊本市岡田町7－12 熊本市田井島1丁目5－1	熊大　二内 熊本中央病院	096－362－5177 096－370－3111

卒業年次	氏名（旧姓）	郵便番号	自宅住所 勤務先住所	出身 勤務先	自宅電話 勤務先電話
S54	林田　滋	862－0941	熊本市出水４丁目34－14	熊大　小児	0965－35－0385
		869－5441	芦北郡芦北町佐敷280－１	井上病院	0966－82－5865
S54	片渕美和子（岡）	862－0902	熊本市東本町１－27－１	熊大　産婦	096－367－6845
S54	木村　俊一			熊大　三内	096－324－3515
		860－0017	熊本市練兵町39	嶋田病院	096－324－3515
S54	柴田　三郎	861－4100	熊本市御幸笛田２－12－12	熊大　産婦	
		864－0041	荒尾市荒尾2600	荒尾市民病院	096－353－6501
S54	乃木田俊辰（陳）	177－0041	練馬区石神井町４－27－９	熊大　皮膚	03－3997－4396
		160－0023	新宿区西新宿１－18－７　博愛堂ビル３Ｆ	（開業）	03－3343－4103
S55	中村　敏光	862－0962	熊本市田迎３－６－10	熊大　産婦	096－379－5651
		862－0939	熊本市長嶺南１丁目５－48	レディースクリニック中村	096－213－1555
S55	古閑今朝輝	862－0939	熊本市長嶺南８丁目６－13	熊大　整形	096－389－6810
		869－2612	阿蘇郡一ノ宮町宮地1801－１	一の宮整形外科	0967－22－3911
S56	魚住　秀昭	860－0046	熊本市横手２丁目１－60	熊大　放射	096－351－7725
		862－0941	熊本市出水７丁目36－25	魚住クリニック	096－370－7111
S56	興津　貴則	750－0016	下関市細江町３丁目３－１－1211	熊大　整形	0832－33－4575
		750－0064	下関市今浦町９－６	下関リハビリテーション病院	0832－32－5811
S56	瀬戸　弘	899－0131	出水市明神町123	熊大　脳外	0996－67－0495
		899－0131	出水市明神町520	出水総合医療センター	0996－67－1611
S57	小山田直朗	862－0970	熊本市渡鹿１丁目11－５	熊大　二内	096－362－5387
		869－0502	宇城市松橋町松橋1455－１	宇賀岳病院	0964－32－3111
S57	山崎　洋二	862－0920	熊本市月出７－１－70	熊大　二外	
		861－3512	上益城郡山都町下馬尾204	矢部広域病院	0967－72－1121
S57	山本勢津子（神川）	860－0072	熊本市花園３丁目２－37	熊大　産婦	
		860－0004	熊本市新町２丁目２－６	福田病院	096－322－2995
S58	宇野かおる	165－0022	中野区江古田２－18－１		03－3228－0331
		161－8521	新宿区中落合２－５－１	聖母病院　産婦人科	03－3951－1111
S59	後藤　良三	879－7131	玉名郡南関町大字上長田633－８		0968－53－3471
		837－0922	大牟田市大字今山2324－１	米の山病院（大牟田）	0944－51－3311
S60	吹上　忠祐	885－0086	都城市久保原町20－32－２	熊大　耳鼻	0986－21－4133
		885－0081	都城市鷹尾４－４－16	吹上耳鼻咽喉科医院	0986－21－4133
S60	森永　信吾	862－0924	熊本市帯山１丁目25－17－411	熊大　小児	096－385－9331
		860－0008	熊本市二の丸１－５	熊本医療センター	096－353－6501
S61	中嶋　康就		死　去		
S62	永瀬　浩喜			熊大　二外	
		173－8610	板橋区大谷口上町30－１	日大医学部遺伝学教室	03－3972－8337

卒業年次	氏名（旧姓）	郵便番号	自宅住所 勤務先住所	出身 勤務先	自宅電話 勤務先電話
S63	安部　利彦	801－0833 801－0833	北九州市門司区司浜町２－24－402 北九州市門司区清滝１丁目３－１	熊大　二外 掖済会門司病院	093－332－5360 093－321－0984
S63	彌永　和宏	862－0976 862－8655	熊本市九品寺５丁目６－１エイルマンション九品寺1001 熊本市新屋敷１丁目17－27	熊大　一内 NTT西日本九州病院	096－372－0112 096－364－6000
H２	水本　圭彦	862－0941 869－1106	熊本市出水４－９－18 菊池郡菊陽町大字曲手760	熊大　整形 熊本リハビリテーション病院	096－371－3608 096－232－3111
H４	鷺島　克之	860－0025 860－0811	熊本市紺屋町３－27 熊本市本荘１丁目１－１	熊大　麻酔 熊本大学病院　救急	096－323－3099 096－373－5771
H５	本田　雅博	820－0005 820－8505	飯塚市新飯塚19－17エバーライフ新飯塚306 飯塚市芳雄町３－83	熊大　精神 飯塚病院　精神科	0948－21－3417 0948－22－3800
H５	本田　伸	861－1308	菊池市亘366	熊大　麻酔 菊池郡市医師会立病院	0968－25－2191
H７	赤坂　威史	861－2118 862－8505	熊本市花立４丁目12－２　Ｂ－101 熊本市湖東１丁目１－60	熊大　麻酔 熊本市立市民病院	096－360－5748 096－365－1711
H９	井上　俊洋	860－0811	熊本市本荘２丁目３－27－203	熊大　眼	
H９	浦田　昌幸	867－0041 867－0041	水俣市天神町１丁目２－１ 水俣市天神町１丁目２－１	熊大　三内 水俣市立総合医療センター	 0966－63－2101
H９	内田　由美（野中）	862－0928 862－0921	熊本市新南部５－６－45－909 熊本市新外３丁目９－１	熊大　一内 本庄内科病院	096－385－9940 096－368－2811
H９	水谷えりか	862－0926 861－8002	熊本市保田窪５－11－81 熊本市龍田町弓削679－２	熊大　精神 弓削病院	096－387－5335 096－338－3838
H10	伊藤　浩司	806－0068 860－8501	北九州市八幡西区別所町13－23－305 北九州市八幡西区岸の浦１丁目８－１	九大　循内 九州厚生年金病院	 093－641－5111
H10	川上　和徳	781－8155	高知市池2125－１	自治医大 高知医療センター	 088－837－3000
H10	阿部　円香（朔）	806－0047	北九州市八幡西区鷹の巣１丁目２－12－804	九大　放射	093－645－6040
H10	山本英一郎	866－0875 860－0811	熊本市上林町２－８　キャッスルビュー601号 熊本市本荘１丁目１－１	熊大　循内 熊大医学部　薬理	096－327－0019 096－373－5082
H11	坂田　一郎	867－0063 867－0041	水俣市洗切町13－11 水俣市天神町１丁目２－１	熊大　一内 水俣市立総合医療センター	0966－62－6206 0966－63－2101
H11	西　智広	867－0041	水俣市天神町１丁目２－１	熊大　放射 水俣市立総合医療センター	 0966－63－2101
H11	王　順容	852－8065 856－0817	大村市桜馬場２丁目482－14－C201 大村市古賀島町133－22	長大　二内 大村市立病院	095－857－3851 095－752－2161

卒業年次	氏名（旧姓）	郵便番号	自宅住所 勤務先住所	出身 勤務先	自宅電話 勤務先電話
H11	貴福　香織			九大　眼	
		860－8501	北九州市八幡西区岸の浦１丁目８－１	九州厚生年金病院	093－641－5111
H11	洲崎　祥子	862－0941	熊本市出水３丁目７－38－１ローズガーデン弐番館101	熊大　麻酔	096－366－8747
	（工藤）	860－0811	熊本市本荘１丁目１－１	熊大学病院　麻酔科	096－373－5275
H12	井形　元維	862－0913	熊本市尾ノ上１丁目40－13	熊大　代内	096－385－3490
			（留学中）		
H12	指宿　睦子	860－0811	熊本市本荘６丁目16－37－１－704	熊大　一外	090－5481－5011
		860－0811	熊本市本荘１丁目１－１	熊本大学病院	096－373－5521
H12	田爪　宏和			熊大　一外	
		866－0826	八代市竹原1670	熊本労災病院	0965－33－4151
H13	豊永　雅恵		不明	九大　二内	
H13	藤澤　和夫	862－0971	熊本市大江１丁目25－18　ドリームメゾン篠田Ⅱ－312	熊大　代内	096－366－6909
		860－0811	熊本市本荘１丁目１－１	熊大学病院　代内	096－373－5169
H13	村田　将光			熊大　一外	
				榊原記念病院	
H13	山本　春風	860－0811	熊本市本荘３丁目１－25－107	熊大　総診	096－371－7871
		104－0045	中央区築地５－１－１	国立がんセンター中央病院	03－3542－2511
H14	岡村　直樹	862－0939	熊本市長嶺南１－３－58　リブレコート１－301		
		862－8520	熊本市長嶺南２丁目１－１	熊本赤十字病院	096－384－2111
H14	丸田　佳代	862－0975	熊本市新屋敷２－９－５	熊大　一内	096－371－3794
		860－8517	八代市竹原1670	熊本労災病院	096－365－1711
H14	宮本　幸子		不明		
H15	足立　博紀	862－0924	熊本市帯山５丁目12－27－304	熊大　代内	090－1343－9072
		860－8556	熊本市本荘１丁目１－１	熊本大学病院　代内	096－373－5169
H15	北村　　大	590－0963	堺市堺区少林寺町東４－１－20－305		090－1344－3174
		590－0064	堺市堺区南安井町１－１－１	堺病院　総合内科	072－221－1700
H15	玉石　順彦	812－0015	福岡市博多区山王１丁目10－11フェイズイン410		
H15	福岡　博文	860－0811	熊本市本荘５丁目４－34ヴァンドゥノーブル303	熊大　放射	090－3664－3934
		861－1102	合志市須屋2659	熊本再春荘病院	096－242－1000
H16	今西　　彩				
		861－8039	熊本市長嶺南２丁目１－１	熊本赤十字病院	096－353－6501
H16	大森　睦美	810－0062	福岡市中央区荒戸３丁目８－22－402		
		812－0054	福岡市東区馬出３丁目１－１	九州大学病院	
H16	河野　浩幸	860－0831	熊本市八王寺町22－８－101		
		806－8501	北九州市八幡西区岸の浦１丁目８－１	九州厚生年金病院	093－641－5111

卒業年次	氏名（旧姓）	郵便番号	自宅住所 勤務先住所	出身 勤務先	自宅電話 勤務先電話
H16	足立　芙美 （菊川）	862－0924 861－8039	熊本市帯山５丁目12－27－304 熊本市長嶺南２丁目１－１	 熊本赤十字病院	096－363－7605 096－384－2111
H16	居石　尚子	820－8508 820－8509	佐賀市田代２丁目７－１　リバービレジ202号 佐賀市水が江１丁目12－９	 佐賀県立病院好生館	 0952－24－2171
H16	須加原一昭	862－0972 861－1102	熊本市新大江３丁目１－11－303 合志市須屋2659	 熊本再春荘病院	 096－242－1000
H16	中村　信一	862－0924 860－0811	熊本市帯山４丁目27－36エクセレントM303号 熊本市長嶺南２丁目１－１	 熊本大学病院　放射	096－382－7670
H16	階子　俊平	860－0811 861－8039	熊本市本荘３丁目２－22－502 熊本市本荘１丁目１－１	090－8354－2514 熊本赤十字病院	 096－384－2111
H16	橋本　正博	860－0811	熊本市本荘１丁目１－１	熊本大学病院　麻酔	
H16	藤原　志保	860－0811	熊本市本荘１丁目１－１	熊本大学病院　血液	
H17	前川　晶子	863－0046	天草市亀揚町食場854－１	天草地域医療センター	0969－24－4111
H17	水野　　亮	489－0837 489－8642	瀬戸市西洞町８ 瀬戸市西追分町160	 公立陶生病院	 0561－82－5101
H17	山田　梨恵	860－0811	熊本市本荘１丁目１－１	熊本大学病院　血液	
H18	尾崎　貴士	861－4193	熊本市近見５丁目３－１	済生会熊本病院	096－351－8000
H18	篠崎　智子	866－0826	八代市竹原町1670	熊本労災病院	0965－33－4151
H18	田尻　景子	860－0811	熊本市本荘１丁目１－１	熊本大学病院　腎臓	
H18	伊達　泰彦	605－0063 606－8507	京都市東山区松原通大和大路東入ル弓矢町72－213 京都市左京区聖護院河原町54	 京都大学病院　精神	 075－751－3111
H18	恒吉　章治	830－8543	久留米市津福本町422	聖マリア病院	0942－35－3222
H18	中塚　未央	862－0909	熊本市湖東１丁目１－60	熊本市民病院	096－365－1711
H18	山田　　周	862－0976 860－0008	熊本市九品寺１丁目９－12ドムス九品寺401号室 熊本市二の丸１－５	096－372－8433 熊本医療センター	 096－353－6501
H19	伊藤　千晶	860－0811	熊本市本荘１丁目１－１	熊本大学病院	

卒業年次	氏名（旧姓）	郵便番号	自宅住所 勤務先住所	出身 勤務先	自宅電話 勤務先電話
H19	大嶋　俊範	868－8555	人吉市老神町35	人吉総合病院	0966－22－2191
H19	権藤　理絵	810－8563	福岡市中央区池行浜１丁目８－１	九州医療センター	092－852－0700
H19	田中　章子	810－8563	福岡市中央区池行浜１丁目８－１	九州医療センター	092－852－0700
H19	中西　研輔	901－1105 904－2293	島尻郡南風原町字新川118－１ うるま市宮里281	沖縄県立中部病院	098－973－4111
H19	松山　桃子	862－0965	熊本市田井島１丁目５－１	熊本中央病院	096－370－3111
H20	出口　秀治	862－0976 862－0965	熊本市九品寺３丁目15－10　タカラヤビル302号 熊本市田井島１丁目５－１	熊本中央病院	096－370－3111
H20	大木　伸吾	866－0826 866－8533	八代市竹原町1517－３　コーポギャラクシー106号 八代市竹原町1670	熊本労災病院	0965－33－4151
H20	尾野　幸	870－0878 879－5593	大分市宮苑45－１　ヴィラネオユニゾン508号 由布市挾間町医大ヶ丘１丁目１番	大分大学病院	097－549－4111
H20	小林　加織	860－0811 860－0811	熊本市本荘６丁目16－34　サンライズ51　301号 熊本市本荘１丁目１－１	熊本大学病院	
H20	齊藤　宏和	861－8039 861－8039	熊本市長嶺南１丁目３－58　リブレコートＩ108号 熊本市長嶺南２丁目１－１	熊本赤十字病院	096－384－2111
H20	高城　克暢	862－0909 862－0909	熊本市湖東１－14－30　熊本市民病院職員宿舎201号 熊本市湖東１丁目１－60	熊本市民病院	096－365－1711
H20	田上　裕教	860－0001 862－0965	熊本市千葉城町３－31　中央病院宿舎 熊本市田井島１丁目５－１	熊本中央病院	096－370－3111
H20	太良　史郎	860－0004 860－0008	熊本市新町１丁目１－34－１　シハラマンションBビルド402号 熊本市二の丸１－５	熊本医療センター	096－353－6501
H20	塚本　歩	860－0008	熊本市二の丸１－５	熊本医療センター	096－353－6501
H20	中原　智史	860－0831 862－0965	熊本市八王寺町43－７　グレイス八王寺403号 熊本市田井島１丁目５－１	熊本中央病院	096－370－3111
H20	萩原　裕美	861－8039 861－8039	熊本市長嶺南２丁目８－113　マカウス210号 熊本市長嶺南２丁目１－１	熊本赤十字病院	096－384－2111
H20	米持　康寛	862－0976 860－0811	熊本市九品寺３丁目17－24　ＭⅡビル502号 熊本市本荘１丁目１－１	熊本大学病院	
H20	横尾　絵梨	860－0811 860－0811	熊本市本荘２丁目10－12　クランステージ本荘503号 熊本市本荘１丁目１－１	熊本大学病院	

3．熊本大学医学部バドミントン部現役部員名簿　平成20年度

学年	氏名	郵便番号	現住所	出身高校	連絡先
6年	石井　正将	862－0976	熊本市九品寺２丁目８－25	熊本	090－3882－6007
6年	伊良波　諭	860－0862	熊本市新屋敷３丁目10－10　アンプルール305号	昭薬大付属	090－8620－1979
6年	岩崎　　肇	861－4211	下益城郡城南町今吉野1309－34	熊本第二	090－1165－3906
6年	上原　朋子	860－0811	熊本市本荘２丁目14－14－304	熊本	090－8223－1107
6年	江頭　　翔	860－0863	熊本市坪井６丁目12－１－901	熊本	090－9475－2632
6年	舘野丈太郎	862－0975	熊本市新屋敷２丁目13－７　新屋敷壱番館202号	大分東明	090－8399－1334
6年	谷口　理丈	862－0950	熊本市水前寺１丁目４－86－504	大分上野丘	080－5540－0112
6年	中田　志穂	862－0961	熊本市画図東２丁目３－３	熊本	090－5087－2094
6年	柚留木秀人	860－0882	熊本市兎谷２丁目９－23	熊本北	090－7166－5176
5年	亀田和花子	861－0811	熊本市本荘４丁目３－６　ハイリッヒ本荘502号	西南学院	090－7478－2434
5年	桑原　千恵	860－0811	熊本市本荘２丁目14－14－301	明治学園	080－3221－0241
5年	原　　崇史	860－0811	熊本市本荘２丁目10－12　クランステージ本荘202号	下関西	090－5489－5769
4年	上野　満徳	860－0862	熊本市黒髪１丁目８－４	熊本	090－7169－8486
4年	川本めぐみ	861－8010	熊本市上南部３丁目18－13	熊本	090－2393－5438
4年	近藤　大祐	862－0971	熊本市大江４丁目15－32　レジデンスカメリアⅠ203号	松山東	090－1173－9807
4年	寺本　周平	861－8066	熊本市清水亀井町58－80	東海大第二	090－5481－7873
4年	山田　　倫	862－0971	熊本市大江１丁目25－18－410	九国大付属	080－5215－7713
4年	横田　康宏	860－0811	熊本市本荘４丁目10－20　U-village本荘301号	明治学園	080－5258－9478
3年	坂田　憲亮	860－0066	熊本市城山下代町573－３	熊本	090－4775－9534
3年	田中憲一郎	862－0970	熊本市渡鹿５丁目５－30－102	宮崎西	090－7923－5865
3年	楢原　哲史	861－4101	熊本市近見２丁目14－１	熊本	090－3735－1187
3年	原　万理恵	862－0971	熊本市大江２丁目３－12－801	長崎北	090－3070－0920
3年	春田佳代子	861－8083	熊本市楡木４丁目８－20－103	済々黌	090－8403－6069
3年	古家圭士郎	862－0949	熊本市国府３丁目３－59　アイビーマンション新水前寺208号	明治学園	080－5263－1469
3年	前田　顕子	860－0047	熊本市春日８丁目２－11	熊本	090－5294－8237
2年	朝倉　寿久	860－0811	熊本市本荘４丁目10－20　U-village本荘402号	甲南	080－1708－4966
2年	今泉　裕貴	860－0082	熊本市池田１丁目８－22	久留米大付	080－6418－1460
2年	坂田　悦郎	860－0811	熊本市本荘６丁目15－41　アプレンデールホウトク102号	熊本第二	090－5024－7081
2年	平松　晶子	862－0971	熊本市大江５丁目17－27－1108	岩田	090－3017－2316
2年	森永　真矢	862－0949	熊本市国府２丁目５－35	熊本	080－1751－3706
2年	山田　敏寛	862－0975	熊本市新屋敷２丁目24－13　川鶴ハイツ303号	宮崎北	080－1720－3328
1年	石黒　久恵	860－0053	熊本市田崎１丁目７－25－７	熊本	090－5749－5837
1年	井上　一利	862－0958	熊本市岡田町５－９		080－3984－7823
1年	白濱裕一郎	861－8084	熊本市清水岩倉２丁目12－11	熊本	080－5268－1167
1年	都　剛太郎	862－0976	熊本市九品寺２－５－４　堀文ビル205号	佐世保北	090－1514－2635

編集後記

編集委員　　松本　孝一（S41）、吉永　健（S53）、片渕　美和子（S54）
水本　圭彦（H 2）、須賀原　一昭（H16）
近藤　大祐（医学部４年）、古家　圭士郎（医学部３年）

ようやく50周年記念誌をお届けすることができるようになりました。お約束の期日を大幅に過ぎ、皆様には大変ご心配をおかけいたしました。深くお詫び申し上げます。

部をお創りになられた友成先生には、医学部バドミントン部の創部から昭和40年までの軌跡をまとめた「badminton 創刊号」をお貸しいただきました。また、松本先生・濱田先生・吉永先生・瀬戸先生・井形先生には多くの資料をお届けいただきました。本当にありがとうございました。寄稿第１番目の上村先生、大変お待たせいたしました。

編集をしながら感じたのは、会員の皆様がバドミントン部に在籍していらした年頃は、誰もがほぼ同じだということです。若くバドミントンに情熱を注いでいらした様子が目に浮かぶようでした。戦績がすべて揃わなかったのが残念です。皆様のお手元に古い記録がありましたら、お知らせいただければ幸いです。これから年に一度、「NEWS LETTER」をお届けし、それに杏羽会の活動、現役部員の試合報告、探し出した戦績の追加、会員の異動などを皆様にお知らせする予定です。

また熊本大学医学部バドミントン部にはホームページがあります。現役部員の担当が毎月内容の更新をしていますので、こちらにもお立ち寄り下さい。URL は下記のとおりです。「熊本大学医学部バドミントン部」で検索していただいても結構です。

http://www.geocities.jp/kumabado/

熊本大学医学部バドミントン部
創立50周年記念誌

発　行　　平成21年３月15日
発行者　　熊本大学医学部バドミントン部後援会「杏羽会」
〒860－0803
熊本市新市街12－５　　松本　孝一
TEL　096－352－0338
印刷所　　シモダ印刷株式会社
〒862－0951
熊本市上水前寺２丁目16－16
TEL　096－383－5512